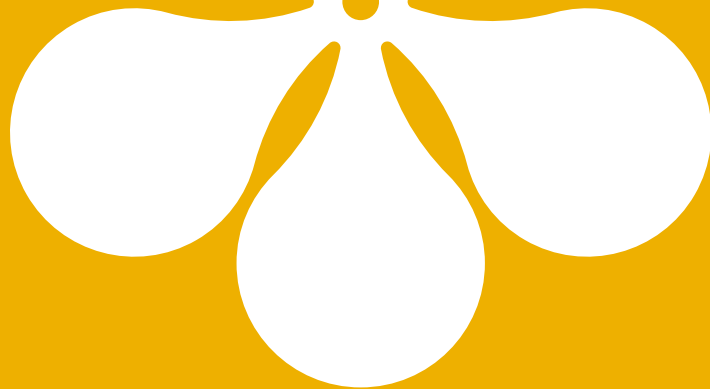




札幌市立大学
年 報
VOL.1

平成18年度

SAPPORO CITY UNIVERSITY
Administrative Office / School of Design
Geijutsu-no-mori 1, Minami-ku, Sapporo 005-0864 Japan
School of Nursing
Kita 11 Nishi 13, Chuo-ku, Sapporo 060-0011 Japan



札幌市立大学

SAPPORO CITY UNIVERSITY



札幌市立大学年報

平成18年度



札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY

はじめに ー初年度の概観ー

公立大学法人札幌市立大学は平成18年4月1日に創立した。「札幌市立大学年報第1号」は、札幌市立大学の教育・研究・社会および組織運営に関わる平成18年度の活動記録である。

本学の建学理念として、「人間重視」、「地域社会への貢献」を掲げ、その特長は「デザインと看護の連携」、「幅広いネットワーク」の形成にある。そして教育の目標を「高度化に対応した人材育成」と「知と創造の拠点形成」に置いている。デザイン学部は、地域産業や芸術・文化の振興を始め、都市機能や都市景観の向上など、まちづくり全体に幅広く貢献する人材を育成することを目標とした。一方で看護学部は、保健・医療・福祉行政や関係機関などと連携し、地域看護の充実や市民の健康の保持増進に繋がる研究を通して社会に貢献できる人材を育成することを目標とした。

志願者募集開始の時点では、両学部学生定員各80名の新規の大学に対して、志願者がどれほど集まるのか予測がつかなかったが、デザイン学部前期志願者414名（7.7倍）、同後期志願者285名（20.4倍）、看護学部志願者811名（16.9倍）という結果となり、教職員ともに胸をなでおろした。

教育面では、両学部の学生を混成した10グループに分けて、両学部の教員の指導によるデザインと看護の連携教育を行うための「スタートアップ演習」を実施し、特色ある教育の手ごたえを実感した。

研究面では、学内研究費配分として学部間共同研究を含めた26件を採択し、学外研究費は、科学研究費11件、受託研究費9件、研究助成1件、寄附金2件を得た。海外派遣は20件実施した。学術研究業績成果は160件、地域連携研究の実施件数は11件である。

社会活動面では、10件の学生参加事業、37件のボランティア活動、さらに10件の公開講座、7件の中学・高校対象の出前講座等を実施した。また、生涯学習や産学連携活動の拠点として、平成18年10月にサテライトキャンパスを札幌都心部に開設した。国際交流においては、大学間提携の第1号として、平成18年6月に申し入れのあったデジタルコンテンツ研究に重点を置いている韓国大田市にある又松大学と学術交流・協力に関する協定を結んだ。

運営面では、役員会、経営審議会、教育研究審議会の下、各種学内委員会ならびに業務体制を整備し、事業計画・各種制度の立案、各種規程、要領、マニュアル作成などの業務を進めた。

以上のように、開学初年度としての平成18年度は、中期計画、年度計画立案を含め、教育、研究、社会活動、運営業務の全てにおいて教員、職員が全力を挙げて大学の創成に力を合わせた一年であった。この一年は、教育カリキュラム・業務システムの実行と検証、大学が置かれている環境基盤の認識、教職員の相互理解、そしてまた異種分野である両学部間のコミュニケーションの円滑化と組織的結束を強化するために努力した一年でもあったといえる。幸いにも平成18年度年度計画はその全てにわたって概ね目標どおり達成できたと自負している。

少子高齢化、経済環境の低迷、競争社会の激化という激流の中で、人間はどうあるべきかを問い直しながら、豊かなこころの社会を建設するため努力してゆかねばならないとあらためて思う。本学の基本理念である、「市民に開かれた大学」、「市民の力になる大学」、「市民が誇れる大学」という本学のレゾン・デートル（raison d'etre）の検証作業は今始まったばかりである。

目 次

はじめに

概要

1	大学設置の経緯	1
2	デザイン学部の概要	3
3	看護学部の概要	4
4	運営体制図	6
5	行事	7
6	サテライトキャンパスの開設	9

教育活動

1	教育活動概要	10
2	共通教育・連携教育	11
3	デザイン学部	16
4	看護学部	21
5	その他	27

研究活動

1	研究活動概要	28
2	連携研究一覧	29
3	個人研究費による研究一覧	30
4	学内公募研究課題一覧	32
5	学外からの研究費、研究補助金などの受入状況	34
6	寄附金の受入状況	35
7	海外研修記録	36
8	個人別業績一覧	38

社会活動

1	地域貢献諸活動	55
2	公開講座開催実績	61
3	学会及び社会における活動	64
4	非常勤講師等実績	73
5	専門職支援・セミナー講師等	76
6	国際交流	81
7	サテライトキャンパスの利用状況	81

平成19年度入学者選抜結果

1	入学者選抜要項	82
2	選抜状況	86

附属図書館

1 概要	87
2 利用状況	88

役員会、経営審議会及び教育研究審議会

1 役員会及び審議会の審議状況	89
2 役員及び審議会委員名簿	91

学内委員会活動

1 委員会活動状況	92
2 委員会委員名簿	101

資料

1 中期計画	107
2 平成18年度年度計画	122
3 平成18年度決算	135
4 教職員数	136
5 管理職一覧表	136
6 教員一覧表	137
7 学生定員及び学生数	138
8 授業料等	138
9 奨学金貸与・授業料減免実施状況	139
10 学生の入選・受賞	139
11 学生の課外活動	139
12 後援会	140
13 教育・研究刊行物一覧	140
14 平成18年度入学者選抜結果	141
15 施設	145
16 大学への交通アクセス	151

編集後記

概要

1 大学設置の経緯

環境問題や少子高齢化、高度情報化、国際化などの進展に伴い、社会構造がますます複雑化する中で、学術研究の高度化、学際化とともに、社会では高い資質と能力を持った職業人が強く求められている。特に、札幌市においては、公共事業の削減が進む中、IT産業に代表される札幌の産業特性に対応したデザイン分野、積雪寒冷という札幌の気候風土に着目したデザイン分野など、地域社会に密着した産業の振興への取組が特に重要であり、こうした取組に対応できる幅広いデザイン能力を持った職業人が求められている。

また、今後も当分の間、看護職の不足が続くと予測されているにもかかわらず、看護職養成施設の廃止や定員の削減に伴う新卒看護職の減少が懸念されている。そうした中、在宅医療を支える訪問看護等の需要増加を始めとして、今後は、患者の生活の質向上を目指したケアを行うことができる、広範で高度な看護能力を有する看護職の確保が求められている。

一方、今日の高等教育機関には、その高度な教育研究機能を通じて、これまで以上に地域社会への貢献を果たすことが大きな社会的要請となっている。

平成3年に開校した札幌市立高等専門学校は、中学卒業時から5年間の早期一貫教育を行うデザイン系高等教育機関として、実践的職業人を数多く輩出してきたほか、企業や行政からの受託研究などを通じて、産業の振興や市民生活の向上に貢献してきた。

また、昭和40年に開校した札幌市立高等看護学院は、高校卒業後の3年課程の専修学校として、市立札幌病院を始めとする札幌市内の医療機関に看護職を多数輩出し、市民の健康支援に貢献してきた。

このような状況の中で、先の地域課題への対応や社会的要請にこたえるために、札幌市立高等専門学校と札幌市立高等看護学院の大学化の必要性と方向性について幅広い論議を行うべく、平成13年11月、「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化検討懇話会」を設置した。

大学化検討懇話会は、市民論議の中心的役割を担う立場から、インターネットを始め、さまざまな形で寄せられる市民の意見に耳を傾け、審議経過を逐次公開しながら検討を進め、平成14年12月、約1年間にわたる市民論議の集大成として、「札幌市立高等専門学校と札幌市立高等看護学院が社会構造の変化に的確に対応し、かつ、地域社会の要請にこたえていくためには、4年制大学化によるレベルアップをできるだけ早期に図る必要がある。」とした「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化に関する提言」をまとめた。

こうした市民論議の経過を踏まえて、札幌市では、平成15年9月に「(仮称)札幌市立大学基本構想」を策定し、平成18年春の札幌市立大学の開学を目指すこととした。

そして、この基本構想に盛り込まれた方向性を具体化するために、平成15年11月に大学教育の専門家を中心とする「(仮称)札幌市立大学設置準備委員会」を設置して調査・審議を進め、学部・学科や教育課程、学生の受入れ、校地・校舎のあり方といった事項について準備委員会における検討内容を踏まえて、平成16年7月に「(仮称)札幌市立大学基本計画」を策定し、平成17年4月に札幌市立大学の設置認可申請を行った。同年12月に大学の設置が認可され、「人間重視を根幹とした人材の育成」と「地域社会への積極的な貢献」を理念とした札幌市立大学を平成18年4月に開学した。

沿革

昭和40年4月	「札幌市立高等看護学院」開校
平成3年4月	「札幌市立高等専門学校」開校
平成8年4月	「札幌市立高等専門学校専攻科」開設 「札幌市立高等専門学校附属研究所」開設
平成13年11月	「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化検討懇話会」設置
平成14年12月	同懇話会による「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化に関する提言」
平成15年9月	「（仮称）札幌市立大学基本構想」策定
平成15年11月	「（仮称）札幌市立大学設置準備委員会」設置
平成16年7月	「（仮称）札幌市立大学基本計画」策定
平成17年12月	大学設置認可
平成18年3月	「公立大学法人札幌市立大学」設立認可
平成18年4月	「公立大学法人札幌市立大学」開学

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

学内委員会活動

資料

2 デザイン学部の概要

1) 特色

デザイン学部では、大学の特色を踏まえ、幅広い職業人の育成を行うことを基盤とし、デザインという特定の専門分野の教育研究を通じて、社会に貢献することを特色としている。具体的には、優秀で創造的な人材を社会に輩出するほか、企業との共同研究や受託研究といった産学連携、個人の創造性・スキルに基盤を置き、知的資産によって価値を生み出す創造的な産業の振興などを通じて社会に貢献するものである。

したがって、デザイン学部では、平成17年1月中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」にある七つの機能のうち、「幅広い職業人養成」を主軸とするほか、デザインという「特定の専門的分野の教育・研究」及び「社会貢献機能」に比重を置いて教育研究に取り組むことを特色としている。

2) 教育目的

デザイン学部では、次のような人材の育成を目的とする。

① 幅広いデザイン能力を持った人材の育成

デザインの基礎的な理論や技術について幅広く教育を行い、高度な職業人に必要なデザイン能力を持った人材を育成する。

② 人間中心の視点に立ったデザインに取り組める人材の育成

造形の基盤となる芸術的要素に機能の基盤となる工学的要素を融合させ、人にやさしいデザインや使いやすいデザインなど、人間中心の視点に立ったデザインに取り組むことのできる人材を育成する。

③ 地域社会に貢献できる人材の育成

時代や社会の要請を的確に捉えた教育研究に取り組むとともに、地域産業や芸術・文化の振興を始め、都市機能や都市景観の向上など、まちづくり全体に幅広く貢献する人材を育成する。

3) 育成する人材像

札幌市においては、IT産業に代表される札幌の産業特性に対応したデザイン分野や、積雪寒冷という札幌の気候風土に着目したデザイン分野など、地域社会に密着した産業の振興への取組が特に重要視されており、こうした取組に対応できる幅広いデザイン能力を持った職業人が求められている。

デザイン学部では、そうした社会の人材需要にこたえとともに、教育目的を達成するため、次の能力を備えた人材を育成する。

① 高いコミュニケーション能力

的確に意思疎通を図り、豊かな人間関係を形成することができる能力のほか、海外とのコミュニケーションに必要な実用的な英語能力、高度情報化社会に不可欠な情報処理能力を養う。

② 課題探求能力と問題解決能力

社会の課題やニーズを自ら探求する能力と、その問題をデザインによって解決することのできる能力を養う。

- ③ デザインの基礎となる表現力
豊かな感性を涵養するとともに、創造的な発想と豊かな表現力を養う。
- ④ 人間や環境に配慮したデザイン能力
人間にとって使いやすいデザインや環境への負荷に配慮したデザインを行う能力を養う。
- ⑤ 新たな価値を発見する柔軟な発想
固定観念にとらわれず、さまざまな視点からデザインに取り組むことのできる柔軟な発想を養う。
- ⑥ 企画力や管理・運営能力
デザインを実践的に活用することのできる企画力や管理・運営能力を養う。

3 看護学部概要

1) 特色

看護学部では、大学の特色を踏まえ、幅広い職業人の育成を行うことを基盤として、看護学という特定の専門的分野の教育研究を通じて、社会貢献を果たしていくことを特色としている。具体的には、確実な看護実践力を持ち、高い資質を有する看護職を輩出するとともに、保健・医療・福祉行政や関係機関などと連携し、地域看護の充実や市民の健康の保持増進につながる研究を通して社会に貢献するものである。

したがって、看護学部では、平成17年1月中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」にある七つの機能のうち、「幅広い職業人養成」を主軸とするほか、看護という「特定の専門的分野の教育・研究」及び「社会貢献機能」に比重を置いて教育研究に取り組むことを特色としている。

2) 教育目的

看護学部では、看護職として活躍する次のような人材の育成を目的とする。

① 的確な実践力を有する人材の育成

看護は、看護の理論や知識を基盤とした看護実践を通して研鑽を重ねつつ専門性を深める学問である。

高度・専門化する医療、多様化する看護ニーズに対応するためには、緻密な観察に基づく的確な判断能力と技術力、さらにこれらを基盤とした問題解決能力が求められる。また、人々がより高い水準の健康を維持・獲得するためには、科学的根拠に基づいた専門的知識・技術を用いて、自律的にケアを推進する実践的な援助能力が求められる。

このため、あらゆる健康レベルや場において、人々が快適で安全に安心して生活できるよう、理論・知識・根拠に基づき的確に看護を実践できる技術と能力を有する看護職を育成する。

② 人間性を尊重した対人関係形成能力を備えた人材の育成

看護の援助過程は、看護職と看護を必要とする人との人間関係形成により援助過程が進行するものである。看護職は、人間の尊厳を重視し、安心感を与える態度・態様が求められるとともに、看護行為を実施する上では、すべての人に対する人権の擁護と倫理的判断ができるよう常に志向することが肝要である。

また、医療施設における看護はもとより、福祉施設や在宅における看護、地域における看護な

ど看護職に求められる能力、期待される役割が増大しているとともに、高度化する医療は、さまざまな職種の医療従事者を必要としており、看護職や他の従事者と連携・協働し、対象である人間を中心とする視点に立った医療・看護を提供することが重要である。

このため、対象あるいは医療従事者間との意思疎通を図り、対人関係の形成のために、身体的側面だけではなく、心理的、社会的側面から人間を理解し、幅広い教養を基盤とした豊かな人間性と倫理観を備えた看護職を育成する。

③ 地域社会に貢献できる人材の育成

市民の健康に対するニーズの増大や価値観の多様化などに伴い、看護職に対する需要は増大、複雑化してきており、札幌市立大学では、このような地域の看護需要に対応することが必須になる。

このため、保健・医療・福祉などの学びに加えて、幅広い分野・職種と連携し、創造的、主体的に学習することで、積極的に地域社会における市民の健康の保持増進に貢献できる人材を育成する。また、看護職に対する需要は、それぞれの地域ごとに異なっており、札幌市はもとより、北海道内、あるいは全国的な視点から看護の発展に寄与できる看護職を育成する。

3) 育成する人材像

札幌市には、多くの高度・専門的医療機関が立地し、北海道における高度、先進的医療技術の中核的役割を担っている。少子高齢化が急速に進行し、さらに、独居老人世帯数、高齢夫婦世帯数も増加しており、このような社会情勢に的確に対応した看護職が求められている。

しかし、看護職は今後も当分の間、不足が続くことが予測されているにもかかわらず、看護職の養成施設の廃止や定員の削減に伴う新卒看護職の減少が懸念されている。

このため、看護学部では、医療機関における高度・専門的医療を担う看護職を育成することはもとより、在宅の高齢者等に対する看護、保健指導など地域の看護需要に対応できる看護職を育成することとし、こうした社会の人材需要の充足と教育目的を達成するため、次の能力を備えた人材を育成する。

① 対人関係形成能力

豊かな人間性と倫理的判断力を備え、安心感を与える的確な意思疎通により対人関係を形成できる能力を養う。

② 権利擁護・安全なケア提供能力

さまざまな健康レベル、あらゆる発達段階、さまざまな場において、対象の権利を擁護し、安全なケアを提供できる能力を養う。

③ 的確な判断能力と問題解決能力に基づく看護実践技術力

緻密な観察と科学的知識に基づく的確な判断能力と問題解決能力を培い、これらを基盤とした看護実践技術力を養う。

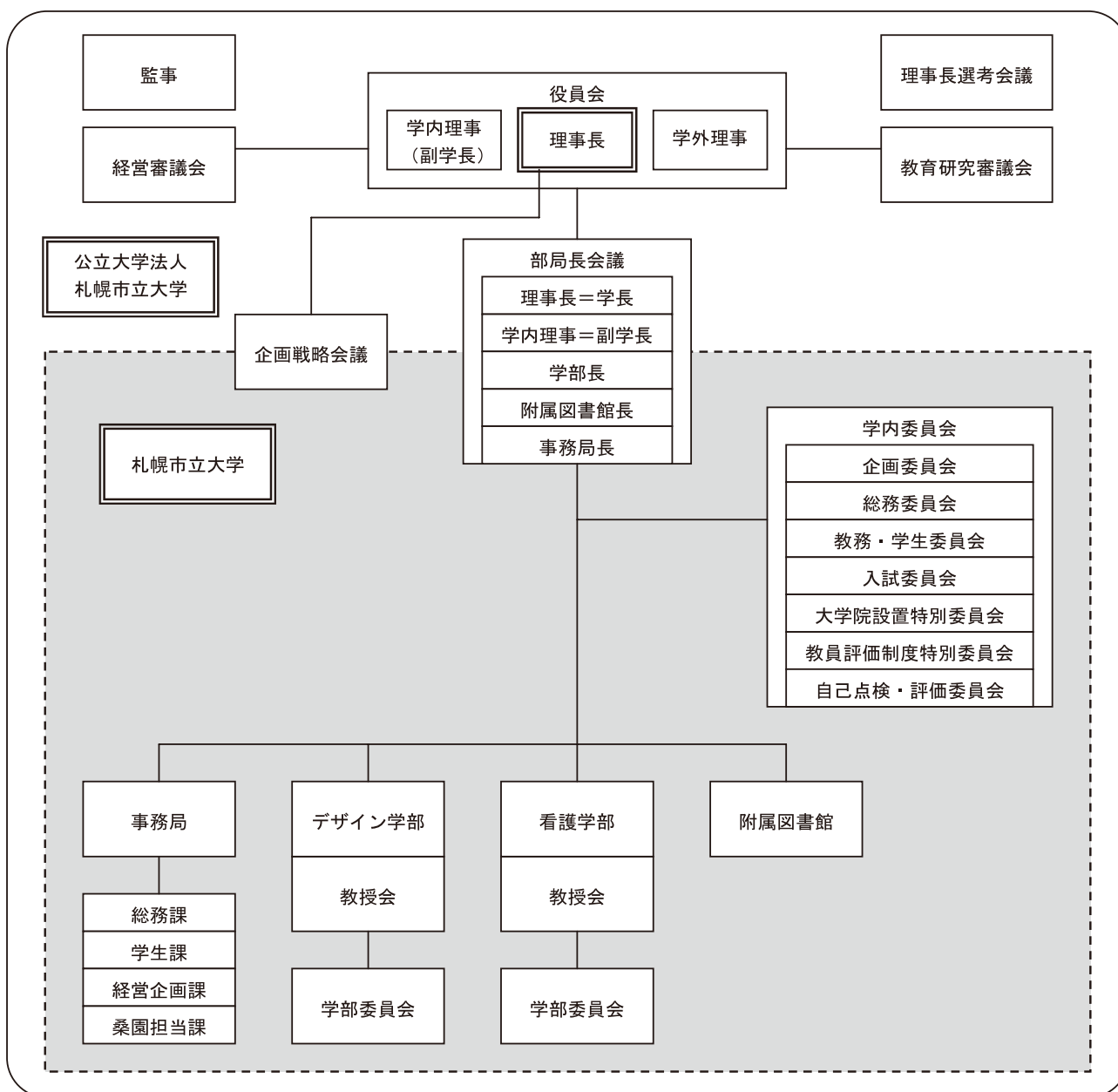
④ 医療従事者間における調整・指導のための基礎的能力

看護対象者の視点から保健・医療・福祉を追究し、各分野における看護の専門性と役割を認識の上、医療従事者間の調整や指導的役割を担うための基礎的な能力を養う。

⑤ 課題解決力を高めるための自己研鑽能力

主体的・創造的に課題探求に取り組み、解決する力を高めるために継続的に自己研鑽できる能力を養う。

4 運営体制図



5 行事

1) 主な行事

前期開始	4月1日
春季休業	4月3日～7日
入学式・ガイダンス	4月8日
前期授業開始	4月10日
履修登録期間	4月10日～21日
健康診断	5月1日
オリエンテーション	5月1日～2日
開学記念行事	6月18日
大学祭	7月15日～16日
定期試験期間	8月7日～11日
夏季休業	8月14日～9月10日
後期ガイダンス	9月29日
前期終了	9月30日
後期開始	10月1日
後期授業開始	10月2日
履修登録期間	10月2日～13日
サテライトキャンパス開設記念事業	10月24日
冬季休業	12月25日～1月14日
定期試験期間	2月13日～19日
春季休業	3月12日～31日
後期終了	3月31日

2) 第1回入学式

開催日：平成18年4月8日
会場：札幌市立大学 芸術の森キャンパス
参加者数：273名（学生163名、教職員74名、来賓36名）

3) 開学記念行事

開催日：平成18年6月18日

会場：札幌コンベンションセンター

参加者数：開学記念式典 150名（来賓79名、海外10名、教職員61名）

開学記念講演会 150名（来賓39名、一般参加59名、関係団体等7名、教職員45名）

プログラム：

11時00分～12時00分 開学記念式典

来賓祝辞 上田 文雄（札幌市長）

高向 巖（札幌商工会議所 会頭）

クンピョー・リー（韓国先端科学技術院）

若山 登美子（社北海道看護協会 会長）

祝電披露

ロゴの贈呈 スティーブ・ベーカー

交流協定調印の紹介 スンキョン・キム（韓国又松大学 理事長）

札幌市立大学のビジョン 原田 昭（札幌市立大学 理事長・学長）

13時30分～15時30分 開学記念講演会

基調講演「札幌市立大学に期待すること」

講師 天野 郁夫（東京大学 名誉教授）

紹介 中村 恵子（札幌市立大学 副学長・看護学部長）

パネルディスカッション「札幌市立大学への期待」

コーディネータ 武邑 光裕（札幌市立大学 附属図書館長・デザイン学部教授）

パネリスト 天野 郁夫（東京大学 名誉教授）

山岸 正美（NPO法人北海道デザインネットワーク 理事）

大田 すみ子（社日本看護協会 北海道地区理事）

6 サテライトキャンパスの開設

札幌市立大学サテライトキャンパスは、生涯学習や産学連携の促進などを支援するため、以下のよう
な機能を併せ持つ施設として、都心部に開設した。

また、サテライトキャンパス開設にあたり、開設記念事業を行った。

<概 要>

開設時期：平成18年10月

場 所：札幌市中央区北3条西4丁目 日本生命札幌ビル5階

機 能：

- ・ 社会人に対する特別プログラムの提供
- ・ 市民向けの公開講座、セミナー等
- ・ 産学連携の窓口となるサテライトオフィス
- ・ 産学連携等にかかる情報交換などの交流スペース

<開設記念事業>

開 催 日：平成18年10月24日

会 場：札幌市中央区北3条西4丁目 日本生命札幌ビル5階

参加者数：約200名

プログラム：

13時00分～15時30分 第1部 開設記念事業

来賓挨拶 上田文雄（札幌市長）

挨 拶 中村恵子（札幌市立大学 副学長・看護学部長）

特別講演 「地域産業振興におけるデザイン戦略」

講師 田中義信（前勲日本産業デザイン振興会 振興事業部長）

記念講演 「北海道感性産業の創造」

講師 原田 昭（札幌市立大学 理事長・学長）

15時45分～18時00分 第2部 シンポジウム（北海道感性産業開発ネットワーク 共催）

パネルディスカッション「異分野横断型連携と北海道感性・創造産業」

コーディネータ 及川雅稔（北海道立工業試験場 デザイン開発科長）

田中義信（前勲日本産業デザイン振興会 振興事業部長）

武邑光裕（札幌市立大学 附属図書館長・デザイン学部教授）

久保 洋（室蘭工業大学 教授）

辰巳治之（札幌医科大学 教授）

高橋昭憲（㈱データクラフト 代表取締役）

教育活動

1 教育活動概要

「共通教育科目」は、デザインと看護の両学部共通とし、両学部に通ずる「人間重視」の考え方を基本に、両学部の学生が一緒に学習することにより、学部間の交流を深め、異なる分野を志す学生が互いの発想に触れ、広い視野を持つことができるよう体系化した。また、「共通教育科目」は、①大学における心構えや履修方法、あるいは基本的な学習の進め方や研究方法を学ぶ「導入科目」、②文化や人間、社会に対する理解を目的とする「教養科目」、③語学などのコミュニケーション・ツールの習得を目的とする「コミュニケーション科目」の3つの区分で構成した。

デザイン学部の「専門教育科目」は、デザインの基礎的な理論や技術から、より専門性の高い知識や技術、実践的・発展的な知識やデザインの方法までを体系的に理解できるよう、①「基本科目」、②「展開科目」、③「発展科目」の3つの科目群で構成した。また、デザインの基礎となる分野や学生のレベルに合わせて必要と思われる分野について、造形基礎実習補講、マッキントッシュ講習会、工房安全講習会を実施した。

看護学部の「専門教育科目」は、専門知識と高度な技術を系統的に学習できるよう、①専門科目を学ぶ前提や基礎となる「専門基礎科目」と、②看護の専門的知識・技術を学ぶ「専門科目」の2つの科目群で構成した。看護学実習は、さまざまな場で生活する人の健康レベル、あらゆる発達段階における人々に対して、それまでに学んだ理論や知識、技術を実践し、実際のかかわりを通して、総合的な看護実践能力を養うことを目的とし、看護職や関連職種の活動を見学体験する看護初期実習を前期に、入院患者の生活を看護の視点で観察し、看護の働きかけを体験的に学ぶ、基礎看護学臨地実習Ⅰを後期に実施した。

また、看護学部における実習の位置付けの理解を得るため、主たる実習施設である市立札幌病院看護部を対象とした実習指導者会議と、全実習施設を対象とした臨地実習指導者会議を開催した。

デザイン学部の教員を対象に、空間、製品、コンテンツ、メディアの4コースの関連性や専門分野全体の理解を促すため、教員紹介ミニ講座としてコース別にプレゼンテーションを実施した。

また、看護学部の教員を対象に、カリキュラムの体系性等を理解するため、学部長による大学及び看護学部の教育研究上の理念等と教育課程の構成に係る概要の説明を行うとともに、領域別のカリキュラムの概要と、領域の構築に向けたプレゼンテーションを行った。また、より実践的な看護職を育成するために客観的臨床能力試験（OSCE）の導入に係る研修を行い、さらに、看護学部の各領域の基盤となる基礎看護の科目展開について研修を実施した。

2 共通教育・連携教育

1) 教育活動

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・目標
スタートアップ演習 ◎原 俊彦 武 邑 光裕 齋 藤 利明 酒 井 正幸 杉 哲 夫 吉 田 和夫 張 浦 華 羽 深 久夫 細 谷 多聞 矢 部 和夫 大 淵 一博 河 野 總子 坂 倉 恵美子 樋之津 淳子 宮 崎 みち子 守 村 洋 菊 地 ひろみ 高 室 典子 藤 井 瑞恵 保 田 玲子 渡 邊 由加利	演習 60時間	1年次 前期	「デザインと看護の連携」をメインテーマに、大講義室での合同講義や小グループ編成によるプロジェクト企画立案作業を通じ、文献講読、図書館の活用、レポート・論文作成、グループ討論など、主体的に勉学・研究を進めるための基礎的学習法、課題解決の手法などを習得する。4年間の学生生活や将来の職業生活への展望を持ってもらうためのコア科目。
哲学と倫理 ★坂 井 昭宏	講義 30時間	1年次 前期	「正義と悪」、「生と死」、「戦争と平和」、「環境と開発」など、我々が直面するさまざまな問題を例に、代表的な哲学者の考え方について学ぶとともに、古代ギリシャやキリスト教などの代表的な倫理思想を概観することにより、「人間のあり方」や「生命の尊さ」といった倫理学の基礎を習得する。
環境を考える 矢 部 和夫	講義 30時間	1年次 前期	地球環境問題の根源となっているのは、都市領域が人間の生存環境を作る自然領域を蚕食していったことである。また、地球は地域の集合体であると考えられ、その保全はそれぞれの地域で環境を保全することで達成される。このような視点から、地域環境保全の意義や地球環境の諸問題を取り上げ、その対策について、人間の暮らし、文化との関連で考える。

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学
者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

学内委員会活動

資料

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・目標
人間関係を考える ★椿 武愛子	講義 30時間	1年次 前期	挨拶から始まる対人関係と常識的なコミュニケーションが望まれているにもかかわらず、なかなかうまく表現できない人が多いといわれている。同じ職場に長く勤務できないのは、仕事がいやだからではなく、人間関係のトラブルからが多い。我々の日常生活は、家庭、学校、職場などを中心として営まれている。そのいずれにも、必ず他者とかかわらなければならない。そのためにまず、相手を知り、相手を認めることがいかに大切かを知り、コミュニケーションを上手にとるため、そして楽しい生き方をするための人間関係をつくることを目的とする。
現代社会と家族 原 俊彦	講義 30時間	1年次 前期	日常当たり前の存在のように考えられがちな家族は、その時代により、社会により、また個人によって、その意味や位置付けが異なる。現代においては、社会構造の複雑化、グローバル化等が進んでおり、家族のあり方や個人と家族のかかわりも大きく変化している。ここでは、現代の社会的な問題と、家族・地域社会の関係について学び、日本の家族が抱える課題について考察する。
札幌を学ぶ 原 俊彦	講義 30時間	1年次 前期	さまざまな分野で活躍している方をゲストスピーカーとしてお招きし、札幌の地域特性や、道都としての札幌と北海道各地の関係について、お話をお聞きしともに考える。科目担当の専任教員は、ゲストスピーカーの紹介、学生への情報提供と評価を担当する。
英語ⅠA ★大野 拓恵 ★白土 淳子 ★水島 梨紗 ★亘理 陽一	演習 30時間	1年次 前期	高校までに習得した英語の基礎的な読解力をさらに発展させることを目標とする。ここでは様々なトピックに関する比較的平易な英文を読みながら、英文読解力、語彙力の向上を目指す。進度によっては、英文の新聞・雑誌記事などを副教材とし英語力の更なるレベルアップをはかる。
英語ⅠB 松井 美穂 ★大野 拓恵 ★白土 淳子 ★向井 千和子	演習 30時間	1年次 前期	高校までに習得した文法を再確認するとともに、英文の構造を理解しながら、英語でコミュニケーションをするために必要な作文力を身に付ける。ここでは一定の長文（前期ではパラグラフ程度の長さの文）を表現できるレベルの英作文力の習得を目標とする。
英語ⅠC ★マツダヴァ セヴィンジ ★山田 パトリシア	演習 30時間	1年次 前期	英語による口頭でのコミュニケーション能力の基礎習得を目標とする。伝えたいことを正確に英語で表現する力を身に付けるとともに、英語で自分の意見を発信する能力を養う。CD等の教材を使用し、リスニング力の向上に努めながら、（日常の英会話で必要な表現力についても学ぶ一方、）英語でのプレゼンテーション能力を身に付けることを主たる目的とする。
日本語表現法 ★千葉 孝一	演習 30時間	1年次 前期	さまざまな事例を通じ、適切な日本語表現について正しく理解するとともに、自分の気持ちや考えを相手に的確にわかりやすく伝える言語表現力や文章力を習得する。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・目標
基礎カウンセリング ★村田 忠良	演習 30時間	1年次 前期	現代社会の混乱の要因は“人間関係失調”にあると考えられる。看護学の根底に、人間学に基づくカウンセリング学を必須とすることは勿論であるが、いわゆるカウンセリングマインドは豊かな人間性を基礎とする芸術性を高めるためにも不可欠のものである。人間学的カウンセリングの考察を深めて行きたい。
情報リテラシーⅠ ◎原 俊彦 ★畑中 勝守	演習 30時間	1年次 前期	これから大学で勉強をしてゆく上でも、また社会に出て働く上でもパーソナルコンピュータを日常のコミュニケーション・ツールとして自由自在に使いこなすことが求められます。このため情報リテラシーⅠではコンピュータの仕組みや操作方法、データの保存方法などについて学ぶとともに日常業務に不可欠なワープロ・表計算・プレゼンテーションなどのアプリケーション操作の基礎や自在に使いこなすための工夫・テクニックについて学びます。
宗教と思想 ★堀 雅彦	講義 30時間	1年次 後期	世界のさまざまな地域にある多様な社会を理解するには、その背景となる宗教についての知識が不可欠である。日本人の場合も「神道」や「仏教」の影響は無視できない。こうしたことから、キリスト教やイスラームなどさまざまな宗教と、そこに根ざした社会の特徴について学び、宗教と人間の関係について理解を深める。
芸術と文化 ★望月 澄人	講義 30時間	1年次 後期	「人と芸術」とのかかわりについて学び、考察する。さまざまな芸術文化活動の事例を通して、「美とは何か」、「芸術とは何か」を探究する。また、絵画や彫刻をはじめとするさまざまな芸術作品や著名な作者を通して、芸術が社会や人間に与える影響についても考察する。
心のしくみ ★橋本 道子	講義 30時間	1年次 後期	日常生活行動に見られる人間の行動を理解するに当たって、それらの行動をコントロールしているさまざまなシステムや現象について、心理学的に理解する。また、人間の心を科学的に研究した知見と現代心理学の各分野を概観し、人間の心と行動についての基礎を学ぶ。
体のしくみ 田中 敏明	講義 30時間	1年次 後期	人間の体のしくみについて運動動作を中心に学習し、ヒトの正常状態について学ぶ。具体的には、正常な身体運動を運動学的分析の視点から考察する。また、筋や関節が運動動作にどのようにかかわっているかについて、生体の構造と機能や、運動・感覚器官との関連から理解を深める。 到達目標 1. 生体の構造と機能を運動学的観点から理解する。 2. 身体運動を理解するための運動学的分析方法を説明できる。 3. 動作分析方法について説明できる。 4. 歩行、姿勢に関して運動学的な見方を説明できる。 5. 体表解剖の基礎を理解する。

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

学内委員会活動

資料

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・目標
現代社会と経済 ★倉田 健児	講義 30時間	1年次 後期	現代社会のさまざまな経済活動を理解するために、経済学や経営学の基本的な知識を習得する。また、身近な経済トピックスなどを通じて、経済のグローバル化、情報化の現状を概観する。具体的には、社会の経済主体の中心である企業が社会的な環境意識の高まりの中で構築を求められた「環境マネジメントシステム」と、その基となった考え方に焦点をあてる。このような考え方はどのような背景の下に生まれ、どのような経緯を経て社会の中で広く共有されるに至っているのだろうか。環境マネジメントシステムという考え方を制度として具体化したものの一つが、国際標準化機構（ISO）が策定した国際規格ISO14001といえる。具体的な制度であるISO14001の、制度としての解説は世に溢れているが、その基となった考え方に関して言及がなされることは、殆どといっていいほどない。本講義では、この環境マネジメントシステムという考え方に着目し、これが社会の中でどのように生まれ、広がり、そしてISO14001という国際規格になったのかを概説する。その上で、このような考え方が、これからの社会の中でどのような意味を持ち、また、どのような役割を果たしていくかを展望する。
統計の世界 原 俊彦	講義 30時間	1年次 後期	さまざまなデータの分析を行うための基礎となる統計学的な考え方や基本的な手法を理解・習得することを目標とする。このため、表計算ソフトを用いてデータを加工し、必要な情報を探り出すための簡単な統計処理方法を学ぶ。また、データに基づいて物事を考える力を養う。
英語ⅡA 松井 美穂 ★白土 淳子 ★水島 梨紗 ★亘理 陽一	演習 30時間	1年次 後期	「英語ⅠA」で培った読解力をさらにレベルアップし、アカデミック・スタディに必要な英文読解力の充実を目指す。さまざまな英文について、正確かつ的確に内容を理解する訓練を行うとともに、平易な長文の大意を短時間で把握する速読、パラグラフ・リーディングの練習も行う。また、併せて辞書を使用せずに一定レベルの英文を読み取る語彙力も身に付ける。
英語ⅡB ★大野 拓恵 ★白土 淳子 ★向井 千和子	演習 30時間	1年次 後期	「英語ⅠB」で培った作文力をもとに、英語で自分の考えや意見を論理的に表現できる力や研究レポート等を英語で表現できる力を身に付ける。英文の文章構成力を習得し、最終的にはエッセイ・ライティングレベルの長文を書く技術を身に付けることを目指す。
英語ⅡC ★マツダヴァ セヴィンジ ★山田 パトリシア	演習 30時間	1年次 後期	「英語ⅠC」で培ったスピーキング力、リスニング力、プレゼンテーション能力をさらに向上させ、一定レベルの内容を英語で受信、発信する力を養う。ネイティブの会話や説明内容を正確に理解できるように、CD等の教材を活用し、リスニング力を身に付けるとともに、英語で自らの考えや意見を論理的に発信できることを目指す。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・目標
プレゼンテーション ◎吉田 和夫 齋藤 利明 原 俊彦	演習 30時間	1年次 後期	今日の社会では、文書・画像・音声などさまざまな表現手段を組み合わせ、情報を効果的に伝達することが重要になっている。ここでは、情報を伝達する相手や目的に合った情報の収集や編集方法を学ぶとともに、プレゼンテーション用のソフトを活用し、多様な表現手段と説得力あるプレゼンテーション技術を習得する。
対人コミュニケーション ★町田 佳世子	演習 30時間	1年次 後期	私たちはコミュニケーションなしに社会生活を送ることはできない。コミュニケーションの仕組みを知ることは、よりよいコミュニケーションの担い手への第一歩である。この授業では、心理学、社会学、言語学、社会心理学などの研究成果を基に、コミュニケーションという現象にアプローチすることを試みる。また対人関係におけるコミュニケーション能力を高めるために、円滑なコミュニケーションを行うための基礎能力を養う。
手話 ★佐々木 大介	演習 30時間	1年次 後期	このクラスでは、実技指導などを通し、日本人ろう者のコミュニケーション手段の1つである「日本手話」の基礎を学びます。また、ろう者及びろうをめぐる問題についても考えてみたいと思います。
情報リテラシーⅡ ◎原 俊彦 ★岩崎 日出夫	演習 30時間	1年次 後期	これから大学で勉強をしてゆく上でも、また社会に出て働く上でもパーソナルコンピュータを日常のコミュニケーション・ツールとして自由自在に使いこなすことが求められます。このため情報リテラシーⅡでは、インターネットを通じ、さまざまなデータベースから情報を的確に収集・検索する方法を学ぶとともに、情報の加工やホームページの作成などを通じ、自ら情報発信する技術を身に付けます。またセキュリティの問題や個人情報の扱い方などについても学びます。

◎印：科目責任者（オムニバス形式等の場合）

★印：非常勤講師

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

学内委員会活動

資料

3 デザイン学部

1) 平成18年度時間割

① デザイン学部 前期

		月	火	水	木	金
1	9:00 ～ 10:30		デザイン史 C-102 武邑 原田 羽深	哲学と倫理 C-102 坂井	環境を考える C-201 矢部	情報リテラシー I C-203 原 情報リテラシー I 情報演習室 畑中
2	10:40 ～ 12:10	デザイン原論 C-102 吉田 (恵) 原田 武邑	色彩設計論 C-102 中井	札幌を学ぶ C-201 原	日本語表現法 C-104 千葉 英語 I A 1A 水島 英語 I B 2B 松井 英語 I B ゼミ室1 大野 英語 I C 2A 山田	情報リテラシー I C-203 原 情報リテラシー I 情報演習室 畑中
3	13:10 ～ 14:40	造形基礎実習 I デッサン室 齋藤 (利) 石崎 上遠野 杉	造形基礎実習 I デッサン室 齋藤 (利) 石崎 上遠野 杉	英語1A 2B 白土 英語1A ゼミ室2 亘理 英語1B ゼミ室1 向井 英語1C 2A マッドマドヴァ	日本語表現法 C-104 千葉 英語 I A 1A 水島 英語 I B 2B 松井 英語 I B ゼミ室1 大野 英語 I C 2A 山田	現代社会と家族 C-201 原
4	14:50 ～ 16:20	造形基礎実習 I デッサン室 齋藤 (利) 石崎 上遠野 杉	造形基礎実習 I デッサン室 齋藤 (利) 石崎 上遠野 杉	英語1A 2B 白土 英語1A ゼミ室2 亘理 英語1B ゼミ室1 向井 英語1C 2A マッドマドヴァ	スタートアップ演習 2A/2B/ 原※ ゼミ室他 ※他両学部教員計20名	基礎カウンセリング C-102 村田 英語1A ゼミ室1 大野 英語1B 2B 白土 英語1C 2A 山田 英語1C 1A マッドマドヴァ
5	16:30 ～ 18:00			人間関係を考える C-102 椿	スタートアップ演習 2A/2B/ 原※ ゼミ室他 ※他両学部教員計20名	基礎カウンセリング C-102 村田 英語1A ゼミ室1 大野 英語1B 2B 白土 英語1C 2A 山田 英語1C 1A マッドマドヴァ

② デザイン学部 後期

		月	火	水	木	金
1	9:00 ～ 10:30	プログラミングⅠ 情報演習室 大洲 C-203 城間	デザイン方法論 C-102 酒井	現代社会と経済 C-104 倉田	芸術と文化 階段教室 望月	情報リテラシーⅡ C-203 原 情報リテラシーⅡ 情報演習室 岩崎
2	10:40 ～ 12:10	プログラミングⅠ 情報演習室 大洲 C-203 城間	感性科学 C-102 張	英語ⅡA C-104 白土 英語ⅡA C-203 亘理 英語ⅡB 2B 向井 英語ⅡC 2A 山田	統計の世界 C-201 原	情報リテラシーⅡ コンピュータ室 原 情報リテラシーⅡ 情報演習室 岩崎
3	13:10 ～ 14:40	コンピュータ基礎実習Ⅰ 情報演習室 大洲 城間 吉田(和) 造形基礎実習Ⅱ 基礎デザイン室 杉 塑造室 石崎 上遠野 齋藤(利)	コンピュータ基礎実習Ⅰ 情報演習室 大洲 城間 吉田(和) 造形基礎実習Ⅱ 基礎デザイン室 杉 塑造室 石崎 上遠野 齋藤(利)	英語ⅡA C-104 白土 英語ⅡA C-203 亘理 英語ⅡB 2B 向井 英語ⅡC 2A 山田	対人コミュニケーション C-102 町田 英語ⅡA C-203 水島 英語ⅡB 2B 向井 英語ⅡB C-104 大野 英語ⅡC 2A 山田	プレゼンテーション 情報演習室 原、齋藤(利)、吉田(和) 英語ⅡA ゼミ室1 松井 英語ⅡB 2B 白土 英語ⅡC C-104 山田 英語ⅡC 1A マッマドヴァ
4	14:50 ～ 16:20	コンピュータ基礎実習Ⅰ 情報演習室 大洲 城間 吉田(和) 造形基礎実習Ⅱ 基礎デザイン室 杉 塑造室 石崎 上遠野 齋藤(利)	コンピュータ基礎実習Ⅰ 情報演習室 大洲 城間 吉田(和) 造形基礎実習Ⅱ 基礎デザイン室 杉 塑造室 石崎 上遠野 齋藤(利)	宗教と思想 C-201 堀	対人コミュニケーション C-102 町田 英語ⅡA C-203 水島 英語ⅡB 2B 向井 英語ⅡB C-104 大野 英語ⅡC 2A 山田	プレゼンテーション 情報演習室 原、齋藤(利)、吉田(和) 英語ⅡA ゼミ室1 松井 英語ⅡB 2B 白土 英語ⅡC C-104 山田 英語ⅡC 1A マッマドヴァ
5	16:30 ～ 18:00			心のしくみ C-201 橋本	体のしくみ C-102 田中	手話 C-103 佐々木

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学
者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

学内委員会活動

資料

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

区 分		授 業 科 目 の 名 称	単 位 数		配 当 年 次	修 得 単 位 数		
			必 修	選 択				
共 通 教 育 科 目	導入科目		スタートアップ演習	2		1年前期	2単位	
	教 養 科 目	文化に対する 理解	哲学と倫理		2	1年前期	4単位 以上	
			宗教と思想		2	1年後期		
			芸術と文化		2	1年後期		
			環境を考える		2	1年前期		
			教育を考える		2	2年後期		
		人間に対する 理解	心のしくみ		2	1年後期	4単位 以上	
			体のしくみ		2	1年後期		
			ジェンダーを考える		2	2年前期		
			人間関係を考える		2	1年前期		
		健康とスポーツ		2	2年後期			
		社会に対する 理解	現代社会と家族		2	1年前期	6単位 以上	
			現代社会と国際関係		2	2年前期		
	現代社会と経済			2	1年後期			
	札幌を学ぶ			2	1年前期			
	ボランティア活動を考える			2	2年後期			
	統計の世界		2	1年後期				
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 科 目	外国語	英語ⅠA		1	1年前期	8単位 以上	
			英語ⅠB		1	1年前期		
			英語ⅠC		1	1年前期		
英語ⅡA				1	1年後期			
英語ⅡB				1	1年後期			
英語ⅡC				1	1年後期			
実践英語A				1	2年前期			
実践英語B				1	2年後期			
韓国語				1	2年後期			
中国語				1	2年前期			
ロシア語				1	2年前期			
コミュニケーション・ 情報技術			日本語表現法		1	1年前期		4単位 以上
			プレゼンテーション	1	1	1年後期		
			基礎カウンセリング		1	1年前期		
		対人コミュニケーション		1	1年後期			
グループ・ダイナミクス			1	2年前期				
手話			1	1年後期				
情報リテラシーⅠ		1		1年前期				
情報リテラシーⅡ	1		1年後期					
合 計						28単位以上		

区 分		授業科目の名称	単 位 数		配 当 年 次	修 得 単 位 数		
			必 修	選 択				
専 門 教 育 科 目	基 本 科 目	デザイン基礎	デザイン原論	2		1年前期	16単位 以上	さらに基本科目から10単位以上
			デザイン史	2		1年前期		
			デザイン方法論	2		1年後期		
			色彩設計論	2		1年前期		
			感性科学	2		1年後期		
			感性デザイン論	2		2年前期		
			ユニバーサルデザイン論	2		2年前期		
			創造産業論	2		2年前期		
			現代芸術論		2	2年前期		
			デザイン解析論		2	2年前期		
	造形基礎	ヒューマンファクターズ入門		2	2年前期	6単位 以上		
		認知科学		2	2年前期			
		デザイン法規		2	2年前期			
		エコロジーデザイン論		2	2年後期			
		情報社会論		2	2年後期			
		造形基礎実習Ⅰ	2		1年前期			
		造形基礎実習Ⅱ	2		1年後期			
		デザイン材料加工実習Ⅰ	2		2年前期			
		デザイン材料加工実習Ⅱ		2	2年後期			
		情報基礎	コンピュータ基礎実習Ⅰ	2			1年後期	
コンピュータ基礎実習ⅠA(3D)			2	2年前期				
コンピュータ基礎実習ⅠB(ムービー)			2	2年後期				
コンピュータ基礎実習ⅠC(CAD)			2	2年後期				
プログラミングⅠ	2			1年後期				
プログラミングⅡ			2	2年前期				
合 計						40単位以上		

区分	授業科目の名称	単位数		配当 年次	修得 単位数
		必修	選択		
専門教育科目	空間 デザイン系	空間デザイン論	2	2年後期	8単位 以上
		空間デザイン史	2	2年後期	
		景観デザイン論	2	3年前期	
		都市計画論	2	3年前期	
		空間デザイン法規	2	3年後期	
		構造力学	2	3年後期	
		建築構法	2	3年後期	
		構造・材料実験	2	3年後期	
		建築設備計画	2	4年前期	
		建築計画論	2	3年前期	
専門教育科目	製品 デザイン系	環境計画論	2	3年前期	8単位 以上
		家具・インテリアデザイン	2	2年後期	
		住宅論	2	4年前期	
		製品デザイン論	2	2年後期	
		製品デザイン史	2	3年後期	
		製品造形論	2	2年後期	
		製品計画論	2	3年前期	
		感性情報学	2	3年前期	
		ヒューマンファクターズ	2	2年後期	
		インタラクションデザイン	2	3年前期	
専門教育科目	コンテンツ デザイン系	メカトロニクス	2	3年後期	8単位 以上
		ロボティクス	2	4年前期	
		感性インタラクションデザイン	2	3年後期	
		プロトタイプシミュレーションⅠ	2	3年前期	
		プロトタイプシミュレーションⅡ	2	3年後期	
		ヒューマンケア機器デザイン	2	4年前期	
		コンテンツデザイン論	2	2年後期	
		デジタル映像史	2	3年後期	
		コンテンツ制作システム論	2	3年前期	
		物語デザイン論	2	3年前期	
専門教育科目	メディア デザイン系	バーチャルリアリティ	2	3年後期	8単位 以上
		コンピュータグラフィクス	2	2年後期	
		アニメーションⅠ	2	3年前期	
		アニメーションⅡ	2	3年後期	
		デジタル音響デザイン	2	4年前期	
		ダイナミックオブジェクトデザイン	2	2年後期	
		マルチメディアコンテンツデザイン	2	3年前期	
		デジタル映像コンテンツデザイン	2	3年後期	
		ネットワークシステムデザイン	2	4年前期	
		メディアデザイン論	2	2年後期	
専門教育科目	メディア デザイン系	メディア文化史	2	3年前期	8単位 以上
		知的財産権論	2	3年前期	
		メディア芸術論	2	3年後期	
		アートマネジメント論	2	3年後期	
		広告デザイン	2	2年後期	
		ブランド構築	2	3年前期	
		デジタルアーカイブ	2	3年後期	
		コンテンツ流通技術	2	4年前期	
		メディアビジネス	2	2年後期	
		出版メディアデザイン	2	3年前期	
専門教育科目	メディア デザイン系	インターネットメディアデザイン	2	3年後期	8単位 以上
		放送メディアデザイン	2	4年前期	
		合 計			34単位以上

専 門 教 育 科 目	発 展 科 目	デザイン応用	寒冷地デザイン論		2	3年後期	8単位 以上
			観光とデザイン		2	3年後期	
			地場産業振興論		2	3年後期	
			デザインマネジメント		2	4年前期	
			起業論		2	4年前期	
			デザイン英語		2	4年前期	
			学外実習A(インターンシップ)		2	3年前期	
			学外実習B(フィールドスタディ)		2	3年前期	
		学部連携	学部連携演習	2		3後～4前	2単位
		デザイン 総合実習	デザイン総合実習Ⅰ	2		2年後期	6単位
デザイン総合実習Ⅱ	2			3年前期			
デザイン総合実習Ⅲ	2			3年後期			
卒業研究	卒業研究	6		4年	6単位		
合 計						22単位以上	

自由科目	学芸員課程 関連科目	生涯学習概論	1(自由)	2年後期	11単位
		博物館概論	2(自由)	2年後期	
		博物館経営論	1(自由)	3年前期	
		博物館資料論	2(自由)	3年前期	
		博物館情報論	1(自由)	3年前期	
		博物館実習	3(自由)	3年前期	
		視聴覚教育メディア論	1(自由)	2年後期	

② 卒業要件

区分	必修	選択	合計
共通教育科目	13	15	28
専門教育科目	40	56	96
(基本科目)	(26)	(14)	(40)
(展開科目)	－	(34)	(34)
(発展科目)	(14)	(8)	(22)
合計	53	71	124

3) 教育活動

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・目標
デザイン原論 ◎吉田 恵介 原田 昭 武邑 光裕	講義 30時間	1年次 前期	デザインの概説、また、これまでの、あるいはこれからのデザインについて、デザインの基本的な考え方と広範なデザインの対象を理解する。まず、原田はデザインの基本的な考え方や概念について述べ、また、さまざまな製品のデザインについて、デザインの対象、設計・計画手法、最近の取組を概説する。つぎに、吉田は公園や緑地等の大規模空間を含む空間のデザインについて、デザインの対象や設計・計画手法を具体的な事例を取り上げて解説する。さらに、武邑はデジタル映像やゲーム、ウェブに至る多様なコンテンツ創造とメディア流通計画やビジネスモデルのデザインについて、最新の取組を具体的な事例を取り上げて解説する。
デザイン史 ◎武邑 光裕 原田 昭 羽深 久夫	講義 30時間	1年次 前期	デザインの理解を深めるため、社会、産業、生活、文化が変化する中で、どのようにデザインが変遷してきたのか、デザインの時系列的な変遷を背景となる環境と対比しながら概説する。デザインの歴史的変遷について、代表的なデザイン思想とその歴史的意味について概観し、あわせて現代デザインの問題点とその展開について理解することを目的とする。
色彩設計論 ★中井 和子	講義 30時間	1年次 前期	色彩は、デザインの基礎となる重要な要素である。ここでは色彩の基本原則を学び、応用する能力の習得を目指す。色彩の基本的な原則を学習するとともに、色の測定方法や表現方法のほか、色彩応用・色彩計画の概要、さらにはデジタルによる色彩の基礎を理解させる。また、色の心理的な作用について理解させた上で、色彩の有効的な活用方法について事例を交えながら学ぶ。
造形基礎実習Ⅰ ◎齋藤 利明 石崎 友紀 上遠野 敏 杉 哲夫	実習 60時間	1年次 前期	対象を的確にとらえる観察力や洞察力と、取り込んだイメージを正確に表現する基礎的能力を身に付けるため、鉛筆デッサン等のトレーニングを行う。モチーフを観察し、そこに潜むかたち・色・材質感などの特徴をとらえながら、用具の特性を生かして描写することにより、デザインの基礎となる観察力や平面での描写力、構成力、表現力などを身に付ける。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・目標
デザイン方法論 酒井 正幸	講義 30時間	1年次 後期	生活者のニーズを把握し、それに適合する製品コンセプトの創出、プロトタイプの制作、検証、市場導入までの一連のデザインプロセスと各ステージでの方法論を学ぶ。具体的には、①フォーカスグループや生活現場での直接観察等による生活者ニーズ及び問題点の抽出、②ブレインストーミングや商品地図法等のコンセプトメイキング手法によるコンセプトの立案とプロタイピング、③ユーザビリティテスト、アピランテスト等による検証と改善、④市場導入に当たって配慮すべき事項等について、具体的事例を取り上げながら概説する。
感性科学 張 浦 華	講義 30時間	1年次 後期	人間は理性によって合理的判断をすることのほかに、感性の働きによって心地よいといった感情を持つが、こうした感性の働きはデザインに大きく取り入れられようとしている。感性は曖昧であるという理由で自然科学の対象とされてこなかったが、近年になって感性の働きが理性の働きと同様に重要な意味を持っていることが解明されてきた。感性の働きが人間にとってどのような役割を果たしているのか、これまでの感性科学の取組を紹介しながら、感性科学の基礎を理解させる。
造形基礎実習Ⅱ ◎杉 哲 夫 石崎 友紀 上遠野 敏 齋藤 利明	実習 60時間	1年次 後期	造形基礎実習Ⅰで身に付けた平面の表現能力をもとに、立体的なアイデアをスケッチ・パースや展開図、投影図等により平面表現する手法を習得する。平面の図案からクレイや石膏といった実材を使った立体モデルを制作することによって、2次元の図面と3次元モデルの関係やデザインに必要な立体物の構成について理解させるとともに、立体物の制作を通じて3次元の表現力を養う。
コンピュータ基礎実習Ⅰ ◎大 渕 一 博 城 間 祥 之 吉 田 和 夫	実習 60時間	1年次 後期	コンピュータを利用したデザイン作業において一般的に用いられるフォトタッチソフト及びドロー系ソフトの基本操作を理解させる。フォトタッチソフトでは、写真画像の補正、効果、変形の技術をフォトコラージュ作品の制作を通して学習させる。ドロー系ソフトでは、ベジェ曲線の操作技術習得を目的として図面、イラストレーション、オリジナルタイプフェイス制作を行う。また、これらのソフトを連携して活用する手法や、ページレイアウトソフト・PDF加工などへの展開も見据えながら、印刷物・Web・オンラインプレゼンテーションなどに応用可能な表現手法を身につけさせる。
プログラミングⅠ ◎大 渕 一 博 城 間 祥 之	演習 30時間	1年次 後期	Webサイト構築に必要とされるプログラミング技術を理解させる。Web制作の現場では、Web制作用ソフトウェアを利用することが多いが、その場合でも基本的なHTMLの知識は必要とされる。具体的には、インターネットのしくみを理解させながら、HTMLによるWebページデザインの制作について演習を行う。また、近年のWebデザインの主流であるスタイルシートを利用する手法、簡易的なインタラクティブ性を実現するJavaScriptについても取り扱う。

◎印：科目責任者（オムニバス形式等の場合）

★印：非常勤講師

4 看護学部

1) 平成18年度時間割

① 看護学部 前期

		月	火	水	木	金
1	9:00 ～ 10:30	形態機能学Ⅰ 講義室1 高野		哲学と倫理 C-102 坂井	環境を考える C-201 矢部	情報リテラシーⅠ C-203 原 情報リテラシーⅠ 情報演習室 畑中
2	10:40 ～ 12:10	形態機能学Ⅰ 講義室1 高野	看護学原論 講義室1 河野	札幌を学ぶ C-201 原	日本語表現法 C-104 千葉 英語ⅠA 水島 英語ⅠB 2B 松井 英語ⅠB ゼミ室1 大野 英語ⅠC 2A 山田	情報リテラシーⅠ C-203 原 情報リテラシーⅠ 情報演習室 畑中
3	13:10 ～ 14:40	地域保健学概論 講義室1 清水 新納 ※9週から講義開始	看護観察技術論 講義室1 大野 基礎看護 佐藤 実習室 星 ※10週から講義開始	英語1A 2B 白土 英語1A ゼミ室2 亘理 英語1B ゼミ室1 向井 英語1C 2A マッドマドヴァ	日本語表現法 C-104 千葉 英語ⅠA 1A 水島 英語ⅠB 2B 松井 英語ⅠB ゼミ室1 大野 英語ⅠC 2A 山田	現代社会と家族 C-201 原
4	14:50 ～ 16:20		看護観察技術論 講義室1 大野 基礎看護 佐藤 実習室 星 ※10週から講義開始	英語1A 2B 白土 英語1A ゼミ室2 亘理 英語1B ゼミ室1 向井 英語1C 2A マッドマドヴァ	スタートアップ演習 2A/2B/ 原※ ゼミ室他 ※他両学部教員計20名	基礎カウンセリング C-102 村田 英語1A ゼミ室1 大野 英語1B 2B 白土 英語1C 2A 山田 英語1C 1A マッドマドヴァ
5	16:30 ～ 18:00			人間関係を考える C-102 椿	スタートアップ演習 2A/2B/ 原※ ゼミ室他 ※他両学部教員計20名	基礎カウンセリング C-102 村田 英語1A ゼミ室1 大野 英語1B 2B 白土 英語1C 2A 山田 英語1C 1A マッドマドヴァ

※集中講義：看護初期実習 6月5日～9日

資料

– 22 –

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

区 分		授 業 科 目 の 名 称	単 位 数		配 当 年 次	修 得 単 位 数	
			必 修	選 択			
共 通 教 育 科 目	教 養 科 目	導入科目	スタートアップ演習	2		1年前期	2単位
		文化に対する理解	哲学と倫理		2	1年前期	4単位以上
			宗教と思想		2	1年後期	
			芸術と文化		2	1年後期	
			環境を考える		2	1年前期	
			教育を考える		2	2年後期	
		人間に対する理解	心のしくみ		2	1年後期	4単位以上
			体のしくみ		2	1年後期	
			ジェンダーを考える		2	2年前期	
			人間関係を考える		2	1年前期	
	健康とスポーツ			2	2年後期		
	社会に対する理解	現代社会と家族		2	1年前期	6単位以上	
		現代社会と国際関係		2	2年前期		
		現代社会と経済		2	1年後期		
		札幌を学ぶ		2	1年前期		
		ボランティア活動を考える		2	2年後期		
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 科 目	外国語	統計の世界	2		1年後期		
		英語ⅠA	1		1年前期	8単位以上	
		英語ⅠB	1		1年前期		
		英語ⅠC	1		1年前期		
		英語ⅡA	1		1年後期		
		英語ⅡB	1		1年後期		
		英語ⅡC	1		1年後期		
		実践英語A		1	2年前期		
		実践英語B		1	2年後期		
		韓国語		1	2年後期		
	コミュニケーション・情報技術	中国語		1	2年前期		4単位以上
		ロシア語		1	2年前期		
		日本語表現法		1	1年前期		
		プレゼンテーション		1	1年後期		
		基礎カウンセリング		1	1年前期		
		対人コミュニケーショングループ・ダイナミックス		1	1年後期		
コミュニケーション・情報技術	手話		1	1年後期			
	情報リテラシーⅠ	1		1年前期			
	情報リテラシーⅡ	1		1年後期			
	合 計						28単位以上

区 分			授 業 科 目 の 名 称	単 位 数		配 当 年 次	修 得 単 位 数
				必 修	選 択		
専 門 教 育 科 目	専 門 基 礎 科 目	人 間 と 命	形態機能学Ⅰ	2		1年前期	5単位 以上
			形態機能学Ⅱ	2		1年後期	
			生命科学		1	2年前期	
			生命倫理		1	2年前期	
			環境保健		1	2年前期	
			人間工学		1	2年前期	
		健 康 と 健康障害と予防	薬理学	1		1年後期	10単位
			臨床薬理学	1		2年後期	
			臨床栄養学	1		2年前期	
			病理病態学	2		1年後期	
			疾病治療学概論	1		2年前期	
			疾病治療学A	1		2年前期	
			疾病治療学B	1		2年前期	
			疾病治療学C	1		2年後期	
			感染予防論	1		1年後期	
		保 健 と 医療と福祉	公衆衛生学	1		2年前期	6単位 以上
			社会福祉学		1	2年前期	
			家族社会学		1	2年前期	
			チーム医療論		1	2年後期	
			感染管理論		1	2年後期	
			臨床心理学		1	2年後期	
地域保健学概論	1			1年前期			
保健医療福祉制度論	1			3年前期			
保健統計	1			3年前期			
医療情報	1			2年前期			
合 計						21単位以上	

区 分			授 業 科 目 の 名 称	単 位 数		配 当 年 次	修 得 単 位 数	
				必 修	選 択			
専 門 教 育 科 目	専 門 科 目	健 康 レ ベ ル に 応 じ て 生 活 を 援 助 す る も の	看護の基礎となるもの	ヒューマンケアの基本	看護学原論	1	1年前期	7単位
					看護理論	1	1年後期	
					援助の人間関係論	1	2年後期	
					人間発達援助論	1	1年後期	
					看護初期実習	1	1年前期	
					看護倫理学	1	2年後期	
					健康教育指導法	1	3年後期	
					看護の基本的展開	看護過程論	1	
			看護観察技術論	1		1年前期		
			症状マネジメント論	2		2年前期		
			基礎看護技術論	2		1年後期		
			基礎看護学臨床実習Ⅰ	1		1年後期		
			基礎看護学臨床実習Ⅱ	2		2年前期		
			研究方法論	1		3年後期		
			小児	小児看護学概論		1	2年後期	5単位
				小児看護援助論	1	3年前期		
				小児看護技術論	1	3年後期		
				小児看護学臨床実習	2	3年後期		
			母性	母性看護学概論	1	2年後期	5単位	
				母性看護援助論	1	3年前期		
				母性看護技術論	1	3年後期		
				母性看護学臨床実習	2	3年後期		
			成人	成人看護学概論	1	2年前期	8単位	
				成人看護援助論	1	2年前期		
				成人看護技術論	1	3年前期		
				成人看護学臨床実習Ⅰ	3	2年後期		
老年	成人看護学臨床実習Ⅱ	2	3年前期	6単位				
	老年看護学概論	1	2年前期					
	老年看護援助論	1	2年後期					
	老年看護技術論	1	3年前期					
精神	老年看護学臨床実習Ⅰ	1	3年後期	5単位				
	老年看護学臨床実習Ⅱ	2	3年後期					
	精神看護学概論	1	2年前期					
	精神看護援助論	1	2年後期					
在宅	精神看護技術論	1	3年前期	5単位				
	精神看護学臨床実習	2	3年前期					
	在宅看護学概論	1	2年後期					
	在宅看護援助論	1	2年後期					
健康問題への対応	在宅看護技術論	1	3年前期	5単位				
	在宅看護学臨床実習	2	3年前期					
	リハビリテーション看護学	1	3年前期					
	がん看護学	1	2年後期					
	コミュニティケアに関するもの	認知症ケア	1	3年前期	5単位以上			
		透析ケア		1		3年後期		
		重症集中ケア		1		3年後期		
		救急看護学		1		3年後期		
		放射線医療管理論		1		3年後期		
		ペリネイタルケア		1		3年後期		
パリアティブケア			1	3年後期				
寒冷地医療			1	3年後期				
発展・統合に関するもの	地域看護学概論	1	3年前期	8単位				
	地域看護援助論	2	3年後期					
	地域看護技術論	1	4年前期					
	ヘルスプロモーション活動論	1	4年前期					
	地域看護学臨床実習	3	4年前期					
学部連携	看護管理学	1	4年前期	11単位以上				
	看護教育学	1	3年後期					
	卒業研究	4	4年					
	ヘルスケアマネジメント実習	3	4年後期					
	看護情報学		1		4年前期			
	災害看護学		1		4年前期			
	国際看護学		1		4年前期			
	国際保健学		1		4年前期			
	医療経営学		1		4年前期			
	医療安全管理論		1		4年前期			
	現代専門職論		1		4年前期			
	合 計							77単位以上

② 卒業要件

区分	必修	選択	合計
共通教育科目	12	16	28
専門教育科目	92	6	98
（専門基礎科目）	(19)	(2)	(21)
（専門科目）	(73)	(4)	(77)
合計	104	22	126

3) 教育活動

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・目標
形態機能学Ⅰ ★高野 廣子	演習 60時間	1年次 前期	形態機能学では、生物学的側面の人間、身体の構造と機能、生命現象の論理的な思考について理解する。ここでは、人体の構造及び細胞・組織など人間の身体の調節系と統御系について、その構造と機能、病態に関連付けて学習し、日常生活活動の維持の仕組みについて理解する。（人体の構造、細胞、体液、組織、神経系、内分泌系、骨格系、筋系）
地域保健学概論 ◎清水 光子 新納 美美	講義 15時間	1年次 前期	保健・医療・福祉の考え方を基盤に、住民主体の保健・医療・福祉活動の基本理念や考え方について学習する。また、産業保健の基本的な知識や保健指導の基礎についても学ぶ。
看護学原論 河野 總子	講義 15時間	1年次 前期	看護学の構築（要素）を基盤とし、生活する人々の体験として健康と健康障害、それを巡る人々の取り組み、そこにかかわる看護実践の方法や場を通し、「看護とは何か」について考え、さらに発展させる基礎とする。
看護初期実習 ◎大野 夏代 清水 光子 守村 洋 菊地 ひろみ 佐藤 公美子 高室 典子 新納 美美 藤井 瑞恵 星 美和子 保田 玲子 渡邊 由加利	実習 45時間	1年次 前期	保健・医療・福祉の看護職が活動する場において、看護職や関連職種の活動を見学体験し、保健・医療・福祉分野への関心と理解を深め、看護学を学ぶ動機付けとする。看護の実際を体験することにより、他職種の専門性と看護職とのかかわりを理解する。
看護観察技術論 ◎大野 夏代 佐藤 公美子 星 美和子	演習 30時間	1年次 前期	アセスメントを基本的人間観察論と位置付け、フィジカルアセスメントを中心とした技術演習を行う。特に看護過程の一部として状態把握の基礎技術の重要性について演習を通して学ぶ。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・目標
形態機能学Ⅱ ★高野 廣子	演習 60時間	1年次 後期	人体の構造の中でも器官系（血液・造血器、循環器系、感覚器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系）について構造と機能を統合して学ぶ。さらに、人体の構造と機能が人間の健康障害や疾病、特に病態生理とどのように関連しているかを習得する。
薬理学 ★富樫 廣子	講義 15時間	1年次 後期	医薬品の生体に及ぼす作用について理解し、医薬品の有効性、安全性、薬物が生体に作用する仕組みを幅広く学ぶ。また、薬物の相互作用による副作用を学ぶとともに、主な疾患の薬物療法に必要な基礎知識を習得する。
病理病態学 ★小林 正伸	演習 60時間	1年次 後期	病理学の概念、病因論、病変の特徴、健康障害の仕組みについて学び、各器官における疾病を学ぶ上での基礎知識を習得する。また、人体に備わる病態からの回復機構とともに生態防御機構についての概要を理解する。
感染予防論 ★滝沢 慶彦	講義 15時間	1年次 後期	微生物学の基礎を踏まえ感染症の概念、病原体の特徴と疾患、治療について理解し、免疫現象が病気・病態とどのようにかかわっているかを理解する。また、病原体と免疫反応から感染の予防について学ぶ。
看護理論 中村 恵子	講義 15時間	1年次 後期	看護の実践において用いられている看護理論の意義と理論構成について、歴史的発展を踏まえて理解する。また、それぞれの理論や看護モデルを通して、看護の主要な要素とその概念について学ぶ。
人間発達援助論 ◎宮崎 みち子 中村 恵子 坂倉 恵美子 松浦 和代	演習 30時間	1年次 後期	人間を生涯発達の視点でとらえ、人間発達の共通性と特異性を理解する。また、人間の発達段階各期における看護援助の視点を明らかにし、母性、小児、成人、老年における看護を理解するための基礎的知識を学ぶ。
看護過程論 ◎大野 夏代 佐藤 公美子 渡邊 由加利	演習 30時間	1年次 後期	看護現象を判断し、対象の健康問題を解決するために情報、アセスメント、計画、実践、評価と一連の“問題解決思考と行動”及びそれを支える看護理論を平行させながら看護過程の実際を学習する。
基礎看護技術論 ◎樋之津 淳子 大野 夏代 菊地 ひろみ 佐藤 公美子 藤井 瑞恵 星 美和子 渡邊 由加利	演習 60時間	1年次 後期	対人関係の基本を学ぶとともに、看護行為に共通な援助技術、日常生活行動を促進する技術、生命活動を支える技術、治療・処置に伴う援助技術などの導入として、看護の基本となる実践的援助技術を主体的に学ぶ。

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学
者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

学内委員会活動

資料

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・目標
基礎看護学臨地実習Ⅰ ◎樋之津 淳子 大野 夏代 菊地 ひろみ 佐藤 公美子 星 美和子 渡邊 由加利	実習 45時間	1年次 後期	患者のおかれている入院生活環境を知り、入院患者の生活を看護の視点で観察し、看護の働きかけを体験的に学ぶ。①対象を生活している人として理解する。②対象へ行われている日常生活援助技術について体験的に学ぶ。③対象とのかかわりを通して、ヒューマンケアの基本を学ぶ。

◎印：科目責任者（オムニバス形式等の場合）

★印：非常勤講師

4) 実習概要

科目名	実習期間	実習機関	延べ人数
看護初期実習	平成18年6月5日～9日	市立札幌病院	81人
		札幌市第二かしわ学園	14人
		札幌市あかしあ学園	15人
		札幌市はるにれ学園	12人
		札幌市かしわ学園	15人
		札幌市みかは整肢園	13人
		札幌市ひまわり整肢園	12人
		札幌北訪問看護ステーション	7人
		札幌白石訪問看護ステーション	9人
		札幌清田訪問看護ステーション	6人
		札幌西訪問看護ステーション	7人
		札幌手稲訪問看護ステーション	7人
		札幌市北区第2地域包括支援センター	15人
		札幌市東区第1地域包括支援センター	15人
		札幌市豊平区第1地域包括支援センター	15人
		札幌市中央老人福祉センター	15人
		札幌市東老人福祉センター	15人
		札幌市厚別老人福祉センター	12人
		札幌市豊平老人福祉センター	12人
		札幌市南老人福祉センター	12人
		札幌市西老人福祉センター	15人
基礎看護学臨地実習Ⅰ	平成19年2月26日～3月9日	市立札幌病院	324人

5 その他

1) ゲストスピーカー

① 授業科目「札幌を学ぶ」 担当教員：原 俊彦

月日	講師
平成18年5月11日	上田 文雄（札幌市長）
平成18年5月18日	築 島 健（札幌市保健福祉局精神保健福祉センター 所長）
平成18年6月1日	三井 一敏（札幌市子ども未来局 子ども企画課長）
平成18年6月15日	梅津 康弘（札幌市観光文化局 観光企画課長）
平成18年6月22日	樋 泉 実（北海道テレビ放送(株) 取締役）
平成18年6月29日	児玉 芳明（(株)北海道フットボールクラブ 社長）
平成18年7月6日	伊藤 博之（クリプトン・フューチャー・メディア(株) 代表取締役）
平成18年7月13日	三井 雅勝（札幌市市民まちづくり局総合交通計画部 交通企画課長）
平成18年7月20日	竹中 万紀子（北海道東海大学 非常勤講師）
平成18年7月27日	島田 英二（映画監督）

② 授業科目「デザイン方法論」 担当教員：酒井 正幸

月日	講師
平成19年1月23日	堀 武幸（三菱電機(株)デザイン研究所情報システムデザイン部 情報第2グループマネージャー）

2) 特別講義

月日	タイトル	講師
平成18年9月26日	日本の戦後看護史	ライダー島崎 玲子（青森中央短期大学 看護学科長）

3) その他

講習会・補講	対象者	期間	担当教員
造形基礎実習補講	造形基礎実習Ⅰ受講者	平成18年7月10日～31日（6コマ）	石崎 友紀
マッキントッシュ講習会	情報リテラシーⅠ・Ⅱ受講者	平成18年9月22日（3コマ）	大淵 一博
工房安全講習会	造形基礎実習Ⅱ受講者	平成18年9月25日～26日（2コマ）	上遠野 敏 齋藤 利明

研究活動

1 研究活動概要

基礎的な研究を推進するため、①職位に応じた「個人研究費」、②法人が重視する分野の研究等を促進するため個人研究費から一定割合を控除した額を原資とした「学術奨励研究費」、③デザインと看護の連携、地域貢献など本学の使命や意義に基づく研究を遂行するための「共同研究費」を創設した。

「共同研究費」については、①本学が特徴とする、デザイン学部と看護学部の連携研究推進のための学部間共同研究費「共同研究A」と、②学部内共同研究費「共同研究費B」を創設した。共同研究の実施体制の構築については、両学部教員による研究交流会を実施し、それぞれの研究テーマを紹介し、意見交換を行うなど、教員相互の理解と学内の教育・研究の活性化を図った。

平成18年度採択	学術奨励研究費	12件	6,143千円
	共同研究費A	8件	5,962千円
	共同研究費B	6件	7,475千円

外部資金については、文部科学省及び厚生労働省の科学研究費補助金をはじめ、国内外の競争的資金に関する情報収集を積極的に行い、資金を獲得することにより、学内の研究を促進した。

また、行政や産業界との連携を深めるため、北海道や札幌市をはじめ、札幌商工会議所、北海道中小企業家同友会、その他民間企業等との情報交換・意見交換等を積極的に行い、地域課題に対応した共同研究や受託研究を行うとともに、研究成果を地域社会に還元した。

外部資金	計23件	93,162千円
① 科学研究費補助金	11件	31,350千円
② 受託研究費	9件	45,358千円
③ 研究助成	1件	454千円
④ 寄附金	2件	16,000千円

2 連携研究一覧

共同研究A（学部間）

教員名	研究課題
◎田中 敏明 石崎 友紀 三谷 篤史 高室 典子	高齢者・障がい者のための携帯型移乗・移動介助福祉機器開発研究
◎張 浦 華 宮崎 みち子	アイデンティティ表現としての香りのイメージ調合比に関する研究
◎羽深 久夫 武邑 光裕 宮崎 みち子	札幌市における子育てコミュニティ形成のための育児支援型コレクティブハウスの構築にむけた基礎的研究
◎三谷 篤史 河村 奈美子 進藤 ゆかり 塚辺 繭子 松村 寛子	医療場面におけるインフォームドコンセント時の説明内容を自動的に記録するための音声変換システムの開発
◎大野 夏代 細谷 多聞 樋之津 淳子 佐藤 公美子 渡邊 由加利	病室環境における「快適性」実現のための調査研究：ME機器の空間配置とその改善の試み
◎清水 光子 新納 美美 保田 玲子 塚辺 繭子 松村 寛子	地域資源が高齢者の生活行動に及ぼす影響とその健康との関連に関する基礎研究：外出傾向とその根拠となる心理社会的要求に焦点をあてて
◎渡邊 由加利 吉田 恵介 矢部 和夫 樋之津 淳子 大野 夏代 佐藤 公美子	病院からみた緑景観が入院生活の快適性に及ぼす効果
◎多賀 昌江 酒井 正幸 三谷 篤史 神島 滋子 照井 レナ	安全でユーザビリティの優れた医療用具開発のための基礎研究：点滴スタンド

◎印：代表者

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学
者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

学内委員会活動

資料

3 個人研究費による研究一覧

デザイン学部

教員名	研究課題
原 田 昭	・札幌市立大学の外部連携研究環境構築のための研究
吉 田 恵 介	・北海道のオープンガーデンの景観特性について ・北海道の文化景観評価 ・都心の垂直緑化の可能性に関する研究
武 邑 光 裕	・デジタルコンテンツ超流通時代における知的財産管理の手法開発
石 崎 友 紀	・21世紀様式の地域型デザイン製品開発（セミプロダクト、クラフト、福祉機器等の造形デザイン）
上 遠 野 敏	・現代美術創作研究 ・同時代の美術研究 ・日本の美意識研究
齋 藤 利 明	・ビスクドールによる空間演出とコミュニケーションロボットへの応用
酒 井 正 幸	・製品・設備・空間のユニバーサルデザイン化を実現するためのユーザー調査分析、および開発ツール・開発方法論研究
城 間 祥 之	・積層造形向き3D CADデータの作成方法に関する研究
杉 哲 夫	・プロダクトデザイン事例研究 ・デザインマネジメント事例研究 ・デザイナーの職能資格認証研究
田 中 敏 明	・高齢者・障がい者のバランストレーニング ・上肢リハビリのためのコンピュータセラピー ・寒冷地における杖に関する福祉機器開発研究
原 俊 彦	・北海道における少子化：地域出生力低下のシステム・ダイナミック・モデルの構築その2（文部科学省科学研究費基盤研究（C）（2）課題番号15530335、H15-H17年度の続き） ・札幌市の少子化の要因とその特徴（札幌市こども未来局との共同研究） ・年齢別出生率の時系列変化：サーモグラフ化による分析手法の開発 ・ドイツ連邦共和国・第7次家族報告書（2005）：家族政策転換の背景と内容の分析
吉 田 和 夫	・視覚デザイン感性教育におけるコンピュータの活用と将来像 ・デザイン手法としてのDTPの可能性と電子メディアへの展開
張 浦 華	・香りのイメージに関する研究
羽 深 久 夫	・北海道における歴史的建造物の保存・再生・活用 ・米国・東欧・北欧における木造建築の保存・再生・活用 ・世界の高等教育機関における建築教育調査と相互交流
細 谷 多 聞	・既存型生活用具を核とした高度情報環境創出に関する実証型研究
矢 部 和 夫	・湿原景観の保全と再生に関する研究
大 沢 一 博	・PC上で動作する感性評価アプリケーションの開発研究
松 井 美 穂	・20世紀アメリカ南部文学の研究・20世紀アメリカの女性作家によるジェンダー表象の分析
三 谷 篤 史	・のこぎり歯形状表面を有する表面によるマイクロパーツの輸送
片 山 めぐみ	・都市に住む主婦の地震に対する災害観

看護学部

教員名	研究課題
中村 恵子	・救急・クリティカルケア領域における人材育成に関する研究
河野 總子	・看護職の組織コミットメントと職務満足調査：看護管理者が副院長である施設と看護部長の施設の比較検討 ・看護師集団におけるキャリア・アンカーと組織のキャリア開発支援
坂倉 恵美子	・地域高齢者のソーシャルサポート・ネットワークと医療の関連 ・家族看護学の視点研究：HIV/AIDS感染患者の配偶者（妻）が必要とする支援内容
樋之津 淳子	・病院からみた緑景観が入院生活の快適性に及ぼす効果
松浦 和代	・看護学生および新人看護師の自己決定型学習能力の育成に関する研究
宮崎 みち子	・胎児の生きる権利に関する研究（日本とアメリカに焦点をあてて）
大野 夏代	・国際的に通用する看護職の人材育成 ・病床環境の整備に関する研究 ・指圧・マッサージなど看護技術に関する研究
清水 光子	・ヘルスプロモーションと環境整備
守村 洋	・精神障害者への地域生活支援に関する研究
菊地 ひろみ	・北海道の在宅看護の動向に関する基礎的研究
佐藤 公美子	・占領期における看護改革に関する研究
高室 典子	・母性看護学の学習支援に関する研究
新納 美美	・触法精神看護に携わる看護職員のメンタルヘルスに関する基礎研究
藤井 瑞恵	・糖尿病初期段階の外来患者の自己管理に関する実態調査
星 美和子	・Vulnerability, Self-Transcendence, and Well-being among Japanese Elders
保田 玲子	・地域資源が高齢者の外出行動に及ぼす影響に関する基礎的研究 ・要支援者向生活家電機器のユニバーサルデザインの研究
渡邊 由加利	・妊娠末期にある夫婦の夫婦関係の実態と関連要因の検討：ペアデータの分析
太田 晴美	・災害看護への取り組みを支える要因の分析：災害看護に興味を持った経験のある看護師の動機づけ
神島 滋子	・脳卒中患者の看護実践についての研究
河村 奈美子	・発達段階各期における精神保健（思春期・母子・高齢者）と看護
進藤 ゆかり	・地域高齢者の帯状疱疹後神経痛の生活にかかわる研究 ・医療版音声変換システム開発に向けて ・母乳栄養の確立に向けての地域支援に関する研究 ・積雪寒冷地地域高齢者の健康生活に関する研究
多賀 昌江	・初めて「夫立ち会い分娩」をした夫の分娩時における心理的動向
塚辺 蘭子	・発達段階各期における支援専門職のメンタルヘルスケアおよび、心理社会的側面に関する研究：今年度は主に母子保健活動に関して
照井 レナ	・訪問看護領域で働く看護職の勤務継続意志に関する実態調査研究
福島 眞里	・排泄に障害がある児の発達への影響を分析する：自己導尿をしながら社会生活をおくるということ
松村 寛子	・保健師の育児支援に関する研究

4 学内公募研究課題一覧

学術奨励研究

教員名	研究課題
杉 哲 夫	デザイナーの職能資格認証研究
原 俊 彦	札幌市の少子化：その要因と背景－統計及びコンピュータシミュレーションによる分析
細 谷 多 聞	生活用具における高度情報表現の創出に関する実証型研究
大 淵 一 博	Web2.0技術を利用した新しいWebコンテンツの教育的利用に関する基礎的研究
松 井 美 穂	20世紀アメリカ女性文学と視覚芸術におけるジェンダー表象の研究
片山 めぐみ	世界遺産・知床における登録地の保全に関する研究：住民の環境認知・行動を重視した管理計画に向けて
佐藤 公美子	占領期における看護政策の決定過程に関する研究；GHQ/PHW Section；Weekly Bulletinからの考察
高 室 典 子	乳児へのマッサージが母親に及ぼす影響に関する研究
太 田 晴 美	災害看護への取り組みを支える要因の分析：災害看護に興味を持った経験のある看護師の動機づけ
神 島 滋 子	外来脳卒中患者における服薬の行動化のプロセス
照 井 レ ナ	訪問看護領域で働く看護職の勤務継続意志に関する実態調査研究
福 島 眞 里	健康障害が児の発達に及ぼす影響を分析する：自己導尿をしながら学校生活を過ごすことの意味

共同研究A（学部間） ※P29より再掲

教員名	研究課題
◎田中 敏明 石崎 友紀 三谷 篤史 高室 典子	高齢者・障がい者のための携帯型移乗・移動介助福祉機器開発研究
◎張 浦 華 宮崎 みち子	アイデンティティ表現としての香りのイメージ調合比に関する研究
◎羽深 久夫 武邑 光裕 宮崎 みち子	札幌市における子育てコミュニティ形成のための育児支援型コレクティブハウスの構築にむけた基礎的研究
◎三谷 篤史 河村 奈美子 進藤 ゆかり 塚辺 繭子 松村 寛子	医療場面におけるインフォームドコンセント時の説明内容を自動的に記録するための音声変換システムの開発
◎大野 夏代 細谷 多聞 樋之津 淳子 佐藤 公美子 渡邊 由加利	病室環境における「快適性」実現のための調査研究：ME機器の空間配置とその改善の試み
◎清水 光子 新納 美美 保田 玲子 塚辺 繭子 松村 寛子	地域資源が高齢者の生活行動に及ぼす影響とその健康との関連に関する基礎研究：外出傾向とその根拠となる心理社会的要求に焦点をあてて

教員名	研究課題
◎渡邊 由加利 吉田 恵介 矢部 和夫 樋之津 淳子 大野 夏代 佐藤 公美子	病院からみた緑景観が入院生活の快適性に及ぼす効果
◎多賀 昌江 酒井 正幸 三谷 篤史 神島 滋子 照井 レナ	安全でユーザビリティの優れた医療用具開発のための基礎研究：点滴スタンド

◎印：代表者

共同研究B（学部内）

教員名	研究課題
◎武邑 光裕 吉田 恵介 上遠野 敏 羽深 久夫 矢部 和夫	地域における大学まちづくり：芸術の森地区アイデアタウン構想立案と創造経済の創出に向けた調査・研究
◎坂倉 恵美子 中村 恵子 清水 光子 守村 洋 太田 晴美 神島 滋子 進藤 ゆかり 照井 レナ 松村 寛子	積雪寒冷地域保健の確立にむけて：積雪寒冷地域に居住する高齢者の主観的幸福感に影響を及ぼす要因研究
◎樋之津 淳子 中村 恵子 河野 總子 坂倉 恵美子 宮崎 みち子	客観的臨床能力研究（OSCE）を用いた統合的看護技術教育プログラムの開発
◎宮崎 みち子 高室 典子 多賀 昌江 福島 眞里	就学前の子どもを育てる働く女性の現状：札幌市の場合
◎河村 奈美子 清水 光子 守村 洋 進藤 ゆかり 塚辺 蘭子 松村 寛子	札幌における母乳育児の未来にむけて：母親の視点から母乳育児継続状況を調査し育児支援を考察する
◎塚辺 蘭子 清水 光子 守村 洋 河村 奈美子 進藤 ゆかり 松村 寛子	子どもの虐待に対する保健師・保育士・児童委員の連携の実態：心理社会的側面に及ぼす影響に焦点をあてて

◎印：代表者

採択状況

学術奨励研究		共同研究A（学部間）		共同研究B（学部内）		合計	
応募件数	採択件数	応募件数	採択件数	応募件数	採択件数	応募件数	採択件数
19	12	11	8	8	6	38	26

5 学外からの研究費、研究補助金などの受入状況

科学研究費補助金

研究代表者	研究課題	交付元	金額
原 田 昭	鶏の形態嗜好に関する日本とタイの多面的比較感性モデル	日本学術振興会	12,870,000円
中 村 恵子	救急部門勤務後2、3年目看護師の職場適応（適応力）と支援モデル構築に関する研究	日本学術振興会	1,400,000円
田 中 敏 明	複合現実感（MR）技術を用いた感覚情報呈示法による姿勢制御に関する基礎研究	日本学術振興会	1,800,000円
矢 部 和 夫	人為的干渉による湿原からハンノキ林への移行メカニズムの解明	日本学術振興会	4,800,000円
三 谷 篤 史	微小物体輸送におけるトライポロジ特性を考慮したダイナミクスの解明	文部科学省	2,400,000円
松 浦 和 代	学校トイレ環境のヘルスプロモーションが児童の排泄に及ぼす効果とその多面的評価	日本学術振興会	800,000円
新 納 美 美	職員の精神的健康維持・増進に寄与する職場風土とその形成を促す保健活動に関する研究	文部科学省	1,600,000円
星 美 和 子	慢性疾患を持つ高齢者のSelf-Transcendence と Well-being	日本学術振興会	1,290,000円
河 村 奈 美 子	高齢者と家族・施設職員の架け橋となるアニマル・セラピーの構築	日本学術振興会	1,800,000円
進 藤 ゆ かり	带状疱疹後神経痛をかかえた在宅高齢者の実態とその影響	日本学術振興会	990,000円
富 樫 武 弘	予防接種で予防可能疾患の今後の感染症対策に必要な予防接種に関する研究	厚生労働省	1,600,000円

受託研究費

研究代表者	研究課題	受託元	金額
原 田 昭	札幌市円山動物園の感性科学に基づく総合デザインの調査研究業務	札幌市	980,000円
原 田 昭	札幌市円山動物園のスネークアート展に係る感性に訴えかける生体展示の調査研究業務	札幌市	520,000円
武 邑 光 裕	札幌ITカロッツェリアの創成（知的創造による地域産学官連携強化プログラム「知的クラスター創成事業」）	（財）北海道科学技術総合振興センター	18,246,000円
城 間 祥之	札幌ITカロッツェリアの創成（知的創造による地域産学官連携強化プログラム「知的クラスター創成事業」）	（財）北海道科学技術総合振興センター	22,499,000円
吉 田 和 夫	障害疑似体験セットのブランディングに関する研究	（株）特殊衣料	1,050,000円
吉 田 和 夫	天然素材を活用した除菌・消臭剤のパッケージに関する研究	（株）EKP	31,500円
吉 田 和 夫	札幌商工会議所100周年記念事業のブランドマークに関する研究	札幌商工会議所	31,500円
羽 深 久 夫	芸術の森地区シーニックバイウェイ構想の実現に向けた空間デザインの研究	札幌市	1,000,000円
矢 部 和 夫	ウトナイ湖北西岸湿地の長期植生動態の解析と湖の水位改変による影響の評価に関する研究	（財）リバーフロント整備センター	1,000,000円

研究助成

教員名	研究課題	助成元	金額
保 田 玲 子	地域の健康づくりグループの発展を促進するための基礎的研究	（財）北海道高齢者問題研究協会	453,634円

6 寄附金の受入状況

教員名	寄附目的	寄附元	金額
武 邑 光 裕	地域連携講座の開催	（株）DGインキュベーション	15,000,000円
矢 部 和 夫	釧路湿原生態系保全に関する研究のため	環境コンサルタント（株）	1,000,000円

7 海外研修記録

期間	教員名	目的国	目的
平成18年5月11日 ～16日	高 室 典 子	オランダ王国	産後1年未満の母親への母乳育児支援についての研究発表
平成18年5月18日 ～22日	原 田 昭	大韓民国	Korea & Japan Joint Symposium on Emotion and Sensibility 特別講演と研修
平成18年8月15日 ～23日	矢 部 和 夫	ロシア連邦	東京農業大学生物生産学部生物資源研 サハリン学術調査 (bog湿原の生態調査)
平成18年8月21日 ～26日	照 井 レ ナ	オーストラリア連邦	在宅看護管理者育成の比較研究準備、訪問看護や施設の管理者との討論、地区踏査
平成18年8月25日 ～9月1日	松 井 美 穂	アメリカ合衆国	20世紀アメリカ女性文学と視覚芸術におけるジェンダー表象に関する研究調査
平成18年9月3日 ～7日	高 室 典 子	タイ王国	(財)青少年野外教育財団からの依頼でユネスコとの共同事業で、タイの子どもと日本の子どもの交流事業を平成18年12月に企画。そのための現地の衛生環境などの現状調査のため。
平成18年9月19日 ～23日	中 村 恵 子	中華人民共和国	天津国際心臓血管病院、承德医学院および医学院附属病院にて招聘講演 急性期病院の看護管理
平成18年9月26日 ～10月2日	原 田 昭	スウェーデン王国	[DESIGN & EMOTION CONFERENCE Sweden 2006] 国際会議参加・鶏飼育調査
平成18年9月26日 ～10月2日	張 浦 華	スウェーデン王国	[DESIGN & EMOTION CONFERENCE Sweden 2006] 国際会議参加・鶏飼育調査
平成18年10月15日 ～23日	羽 深 久 夫	アルメニア共和国	アルメニア正教会の歴史的建造物における保存状況調査
平成18年10月16日 ～23日	原 俊 彦	ドイツ連邦共和国	日独外務省主催「人口・国際関係における世界の挑戦：独日政策対話」にて報告
平成18年10月27日 ～29日	原 田 昭	大韓民国	韓国基礎造形学会特別講演と研修
平成18年11月7日 ～12日	佐藤 公美子	アメリカ合衆国	占領期におけるGHQによる医療・看護改革研究の調査
平成18年12月2日 ～14日	羽 深 久 夫	デンマーク王国、 スウェーデン王国、 フィンランド共和国	北欧諸国における子育て支援システムの実態調査
平成18年12月12日 ～20日	武 邑 光 裕	オーストリア連邦、 オランダ王国	欧州創造都市施策の新潮流に関する研究視察

期間	教員名	目的国	目的
平成18年12月13日 ～19日	星 美和子	アメリカ合衆国	The Collaborative Institutional Training Initiative (CITI)における「Human Research Curriculum, Basic Course for Biomedical Research Investigators/Social & Behavioral Research Investigators」(生物科学・社会／行動科学系研究者のための研究倫理トレーニング)終了・試験合格(2年毎に更新必要なため)
			University of Arizona College of Nursingにて、大学院教授陣と日本人高齢者のWell-beingに関する研究についての意見交換・Dissertation現状確認
平成19年1月28日 ～2月7日	羽 深 久夫	デンマーク王国、 フィンランド共和国、 ノルウェー王国	北欧諸国における子育て支援システムの実態調査
平成19年1月28日 ～2月4日	宮崎 みち子	デンマーク王国、 フィンランド共和国	北欧諸国における子育て支援システムの実態調査
平成19年3月14日 ～23日	原 俊彦	ドイツ連邦共和国	家族政策における協力関係の樹立に関する日独ワークショップに参加
平成19年3月24日 ～29日	星 美和子	台湾	2つの共分散構造分析ソフト(AMOS・EQS)についての比較及び自身の研究へ採用の妥当性についての検討・調査。大学・大学院におけるE-Learning System及びネットワーク利用の現状調査。

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

学内委員会活動

資料

8 個人別業績一覧

デザイン学部

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称
原田 昭	<学術論文等>			
	1 文様デザインの認知構造分類における関係と性質	共著	平成18年5月	日本デザイン学研究、日本 デザイン学会研究論文集、 第53巻第1号、通巻175号
	2 Kansei Model on Preference of Chicken Figure in Japan and Thailand	共著	平成18年6月	The 2006 HCMR (Human-Chicken Multi- Relationships Research Project)、 日タイ東京会議2006、 HCMR東京会議
	3 Driver's Comfortableness and Vehicle's Characteristics in Linear Movement	共著	平成18年6月	Kansei Engineering International, Japan Society of Kansei Engineering, Vol. 6, No. 2
	<学会発表>			
	1 鶏の形態嗜好における日本とタイの多面的比較感性 モデル－沖縄における鶏形態に対する嗜好調査に基 づく－	共同	平成18年9月	日本感性工学会第18回あい まいと感性研究部会ワーク ショップ講演論文集
吉田 恵介	<著書>			
	1 北のランドスケープ（都市のニワ／都市近郊におけ る「みどり」の管理）	共著	平成19年3月	環境コミュニケーションズ
	<学術論文等>			
	1 アーバンフリンジ周辺における地域環境保全プログ ラム	共著	平成18年8月	平成18年度教育教員講演論 文集、独立行政法人国立高 等専門学校機構
	2 アトリウム環境における樹木の生育状況－苫小牧サ ンガーデンを事例として	共著	平成18年9月	平成18年日本造園学会北海 道支部大会研究・事例報告 発表要旨
	3 オープンガーデンの諸形態－写真分析を通じた考察	共著	平成19年1月	環境情報科学35-4、(社)環境 情報科学センター

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称
武 邑 光 裕	<学術論文>			
	1 CoNav-Concentric Navigator Specification: Definition of a strict hierarchical organized navigator and media-presentation.	共著	平成18年4月	立命館大学アトリサーチセンター「デジタル時代のメディアと映像に関する総合的研究プロジェクト」平成13年度～平成17年度文部科学省私立大学学術高度化推進事業「オープン・リサーチ・センター整備事業」研究成果報告書
	<その他論文>			
	1 キーワード解説「デジタルアーカイブ」	単著	平成18年5月	(社)行政情報システム研究所、『行政&ADP』2006年5月号、第42巻5号
	2 キーワード解説「機関レポジトリ」	単著	平成18年10月	(社)行政情報システム研究所、『行政&ADP』2006年10月号、第42巻10号
	<学会発表>			
石 崎 友 紀	1 創造都市におけるデザインとアートの役割 ークリエイティブクラスの活動と居住をめぐって	単独	平成19年3月	北海道芸術学会第8回例会 (北海道立近代美術館)
	2 創造都市におけるデザインとアートの役割 ークリエイティブクラスの活動と居住をめぐって	基調講演 (招待)	平成19年3月	北海道芸術学会第8回例会
	<著書>			
	1 NHKテレビテキスト「つくってあそぼ」2006年4月～7月	共著	平成18年4月	日本放送出版協会
	2 NHKテレビテキスト「つくってあそぼ」2006年9月～12月	共著	平成18年7月	日本放送出版協会
	3 わくわくゴロリのうごくのりものをつくろう	共著	平成18年7月	日本放送出版協会
	4 NHKテレビテキスト「つくってあそぼ」2007年1月～3月	共著	平成18年12月	日本放送出版協会
	5 わくわくゴロリのうごくきょうりゅうをつくろう	共著	平成19年3月	日本放送出版協会
	<学術論文等>			
	1 良い道具の創造	単著	平成18年8月	道具学会、道具学への招待 第17号
	2 北海道グッドデザインコンペティションに見る地域 様式の道具学的考察	単著	平成18年12月	道具学会、道具学論集第13集
	3 道具学にとって研究とはなにか	共著	平成18年12月	道具学会、季刊道具学15号

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称
石崎 友紀	<シンポジウム・パネリスト> 1 21世紀道具学の視座 2 デザインを創る、デザインが創る		平成19年1月 平成19年3月	道具学会フォーラム 北海道芸術学会フォーラム
	<指名選抜による展覧会等への出品> 1 サッポロクラフト2006 2 第46回日本クラフト展 3 日本クラフトデザイン協会会員展		平成18年4月 平成18年5月 平成18年10月	(開催地) 芸術の森工芸館（札幌） 丸ビル・ホール（東京） 渋谷東急本店（東京）
	<入選・受賞> 1 太刀風（TACHIKAZE）1～5 2006伊丹国際クラフト展 入選	単独	平成18年10月	伊丹市、(財)伊丹市文化振興財団
	<作品発表> 1 鏡像：フラ・アンジェリコ 2 鏡像：オフィーリア 3 鏡像：早来迎図 4 鏡像：九相図	単独 単独 単独 単独	平成18年11月 平成18年11月 平成18年11月 平成18年11月	FIX・MAX・MIX! 現代アートのフロントライン（北海道立近代美術館）主催：FIX・MAX・MIX! 実行委員会／北海道新聞社
齋藤 利明	<個展> 1 個展	単独	平成19年3月	マリヤ・ギャラリー（札幌）
	<作品> 1 創作人形「石楠花」 2 創作人形「槐」（えんじゅ） 3 創作人形「夕霧」 4 創作人形「玉藻Ⅱ」	単独 単独 単独 単独	平成19年3月 平成19年3月 平成19年3月 平成19年3月	マリヤ・ギャラリー（札幌） マリヤ・ギャラリー（札幌） マリヤ・ギャラリー（札幌） マリヤ・ギャラリー（札幌）
酒井 正幸	<学会発表> 1 拡大されたUD概念に基づく製品開発手法の一提案 2 インタフェース機能標記の調査分析 3 ラフ近似AHP法を用いたユーザビリティ評価手法の提案	共同 共同 共同	平成18年10月 平成18年11月 平成19年3月	第2回国際ユニヴァーサルデザイン会議 日本人間工学会中国・四国支部大会第39回大会 日本感性工学会第3回春季大会

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称
城 間 祥 之	<学術論文等>			
	1 情報機器デジタルプロトタイプを用いた操作性テスト結果のモデル品質依存性	共著	平成18年9月	ヒューマンインタフェース学会、ヒューマンインタフェースシンポジウム2006論文集
	2 Assessment for Information Appliances Using User-Interface Operable 3D Digital Mochups	共著	平成18年11月	発行所：Springer Verlag 発表雑誌（CD-ROM名）：Research in Interactive Design ISBN: 2-287-48363-2
	<学会発表>			
	1 3次元デジタルプロトタイプと眼球運動データを用いた情報機器の高精度ユーザビリティ評価に関する研究	共同	平成18年9月	精密工学会北海道支部、2006年度精密工学会北海道支部学術講演会講演論文集
	2 情報機器デジタルプロトタイプを用いた操作性評価結果のモデル表示品質依存性の検討	共同	平成18年9月	精密工学会、2006年度精密工学会秋季大会学術講演会講演論文集
	3 認知的ワークスルー法と情報機器デジタルプロトタイプを用いたユーザビリティ評価・分析システムの開発	共同	平成19年3月	精密工学会、2007年度精密工学会春季大会学術講演会
	<学術講演>			
	1 国際ワークショップSapporo-Delft Design Workshopを通じたデザイン教育・戦略	単独	平成18年11月	第20回北海道技術・ビジネス交流会ビジネスセミナー
	2 情報機器のデザイン・プロトタイピングプロジェクト研究	単独	平成18年11月	精密工学会デジタルスタイルデザイン研究分科会
	3 北海道における情報機器の筐体デザインとラピッド・プロトタイピング	単独	平成18年11月	第2回北海道感性産業開発推進事業 感性技術フォーラム

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会及び教育研究審議会

学内委員会活動

資料

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称
城間 祥之	<研究報告書>			
	1 加圧脈波計（APMOS）の筐体、及び画面表示部のデザイン 文部科学省知的クラスター創成事業「健康バイオ向け生活習慣病（動脈硬化）予防システム」研究開発報告書	単独	平成19年2月	文部科学省知的クラスター創成事業「健康バイオ向け生活習慣病（動脈硬化）予防システム」研究開発報告書
	2 IT要素技術と工業デザイン手法の融合に係る実証・評価研究 文部科学省知的クラスター創成事業「札幌ITカロッツェリア」	単独	平成19年3月	文部科学省知的クラスター創成事業「札幌ITカロッツェリア」
	3 A Report on Sapporo-Delft Design Workshop 2006	単独	平成19年3月	文部科学省知的クラスター創成事業「札幌ITカロッツェリア」 IT要素技術と工業デザイン手法の融合に係る実証・評価研究プロジェクト
	<研究成果の出展>			
	1 「プレゼンスBOX」、「MY LOGGER」の試作品展示	共同	平成18年6月	第17回設計・製造ソリューション展、東京ビッグサイト、2006年6月21日～23日
	2 「脈波計（APMOS）」の展示・臨床試験	共同	平成18年9月	北海道中小企業家同友会札幌支部20周年記念イベント、札幌メディアパークSPICA、2006年9月23日～24日
	3 「プレゼンスBOX」、「MY LOGGER」、「脈波計（APMOS）」の試作品展示	共同	平成18年10月	CEATEC Japan 2006、幕張メッセイベントホール産学交流プラザ、2006年10月3日～7日

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称
城間 祥之	<研究成果の出版>			
	4 「プレゼンスBOX」、「MY LOGGER」、「脈波計 (APMOS)」、「TAJODAマウス型固定タイプ」、「高齢者ドライバーサポートシステム用ログ収集端末」の試作品展示	共同	平成18年11月	ビジネスEXPO「第20回北海道技術・ビジネス交流会」、札幌メディアパーク SPICA、2006年11月9日～10日
	5 「脈波計 (APMOS)」、「高齢者ドライバーサポートシステム用ログ収集端末」の試作品展示	共同	平成18年11月	組込総合技術展 Embedded Technology 2006、パシフィコ横浜、 2006年11月15日～16日
	6 「脈波計 (APMOS)」、「TAJODAマウス型固定タイプ」、「高齢者ドライバーサポートシステム用ログ収集端末」の試作品展示	共同	平成18年11月	地域発先端テクノフェア 2006、2006年11月29日～12月1日
	<知財(特許・意匠)>			
	1 意匠に係る物品：アイビー電話用情報表示器 意匠権者：札幌市 意匠の創作をした者：中居創、大島康彰、城間祥之 登録日：平成19年1月5日 登録番号：1292627号 備考：プレゼンスBOX（アクリル調モデル）	共同	平成19年1月	
	2 意匠に係る物品：アイビー電話用情報表示器 意匠権者：札幌市 意匠の創作をした者：榊田聡志、大島康彰、城間祥之 登録日：平成19年1月5日 登録番号：1292628号 備考：プレゼンスBOX（木目調モデル）	共同	平成19年1月	
	<入選・受賞>			
	1 Honour Article Award（優秀論文賞）		平成18年11月	メキシコで開催されたバーチャル・コンセプトに関する国際会議：The 6th International Conference Virtual Concept 2006, Cancun, MEXICOにて。 主催団体：ESTIA (ECOLE D'INGENIEURS)

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

学内委員会活動

資料

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称
田中 敏明	<学術論文等>			
	1 足部への荷重変化が足アーチに与える影響－足アーチ評価に関する検討－	共著	平成18年4月	第41回日本理学療法学術大会論文集、Vol.33、No.2
	2 車椅子操作方法の注意喚起システムの試作	共著	平成18年6月	第7回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集、3D1-4
	<研究報告書>			
	1 複合現実感（MR）技術を用いた感覚情報呈示法による姿勢制御に関する基礎研究	共著	平成19年3月	平成17～18年度文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書
	<講演>			
	1 「振動刺激を用いたバランストレーニング装置の開発」		平成18年9月	イノベーションジャパン2006、東京（東京国際フォーラム）
原 俊彦	<著書>			
	1 日本・フランス・ドイツにおける家族・家庭生活に関する調査	共著	平成18年4月	内閣府社会経済研究所・家計経済研究所編、国立印刷局 ISBN-13:978-4172205517
	<学術論文等>			
	1 年齢別特殊出生率・年齢別出生順位別出生率の時系列変化－サーモグラフ化による分析の試み－	単著	平成19年3月	札幌市立大学研究論文集、第1巻第1号
	<学会発表>			
	1 北海道における少子化－シミュレーション・モデルの作成	単独	平成18年6月	第58回日本人口学会
	2 『人口減少下の日本社会』3.高年齢者層を中心として	単独	平成18年6月	第58回日本人口学会
	3 札幌市の少子化－その特徴と要因－	単独	平成18年9月	人口学会東日本部会
	4 Session I：The Effects of Demography in Political Perspective-Demographic Change in Japan and Germany. “Demography Worldwide-Challenges in International Relations-A German-Japanese Policy Dialogue”	単独	平成18年10月	Federal Foreign Office in Berlin, Ministry of Foreign Affairs of Japan, Robert Bosch Foundation
	5 Geburtenrückgang in Sapporo：Demographie in ihrer Bedeutung für die Familienpolitik	単独	平成19年3月	Deutsch-Japanischer Workshop zu Fragen der Kooperation im Bereich der Familienpolitik, in Japanisch-Deutschen Zentrum

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称
吉田 和夫	<デザイン制作作品発表>			
	1 札幌市立大学ホームページ基本デザイン	単独	平成18年6月～ 平成18年8月	札幌市立大学
	2 平成18年度札幌市立大学学生募集パンフレット基本 デザインとディレクション	共同	平成18年6月～ 平成18年8月	札幌市立大学
	3 平成18年度札幌市立大学ポスター	単独	平成18年6月	札幌市立大学
張 浦 華	4 札幌市立大学 新聞、雑誌広告制作	単独	平成18年6月～ 平成18年11月	札幌市立大学 掲載メディア名：北海道新 聞半5段広告／デザイナー ズウィークパンフレット見 開き／Sapporo Styleコレッ ク シ ョ ン ブ ッ ク 2006 1/4 ページ／エコバッグ展パン フレット1ページ／FIX・ MAX・MIX!展覧会パンフ レット1ページ
	<学会発表>			
	1 CI要素としての香りの応用の試み	単独	平成18年9月	日本感性工学会第18回曖昧 と感性部会ワークショップ 講演論文集
羽 深 久 夫	<学術論文等>			
	1 北海道の近代和風建築における和風意匠の地域的特徴	共著	平成18年7月	日本建築学会北海道支部研 究報告集、No.79
	<研究報告書>			
	1 北海道の近代和風建築	共著	平成19年3月	近代和風建築総合調査報告書
矢 部 和 夫	2 今後の「大学像」の在り方に関する調査研究：校地・ 校舎	共著	平成19年3月	文部科学省平成18年度先導 的大学改革推進委託事業報 告書
	3 芸術の森地区シーニックバイウエイ構想の実現に向 けた空間デザインの研究	共著	平成19年3月	札幌市平成18年度委託研究 報告書
	<学術論文>			
	1 アーバンフリンジ周辺における地域環境保全プログ ラム	共著	平成18年8月	平成18年度教育教員講演論 文集、独立行政法人国立高 等専門学校機構
矢 部 和 夫	2 登別市キウシトに自生する貴重湿原群落の保全・再 生のための取り組み	単著	平成19年3月	北海道の自然、45

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

学内委員会活動

資料

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称
矢部 和夫	<学会発表>			
	1 胆振東部の海岸に分布する自然草原－どれだけの原 景観が残されているか－	共同	平成18年9月	平成18年度日本造園学会北 海道支部大会
	2 釧路湿原ハンノキ林の分布・動態・更新 #1 ハンノキ林の分布と立地環境	共同	平成19年3月	第54回生態学会大会
	3 釧路湿原ハンノキ林の分布・動態・更新 #2 実生による更新は可能か？	共同	平成19年3月	第54回生態学会大会
大淵 一博	<国際シンポジウム>			
	1 Oxidation-reduction potentials of tropical peat as the factor controlling the development of swamp forests in Central Kalimantan	共同	平成18年9月	International symposium on nature and land management of tropical peatland in South East Asia
松井 美穂	<学会発表>			
	1 数学の授業におけるブログの活用とその教育効果	単独	平成18年11月	平成18年度情報教育研究集会
三谷 篤史	<学術論文等>			
	1 「グロテスクのポスト／コロニアルな探求－マッカ ラーズの <i>Reflections in a Golden Eye</i> を読む」	単著	平成18年4月	北海道アメリカ文学、第22号
	<書評>			
	1 本村浩二著「自足的なお伽の世界の魅力と限界 －ユードラ・ウェルティの『デルタの結婚式』論」	単著	平成18年4月	北海道アメリカ文学、第22号
	<学術論文等>			
	1 Micro-parts feeding by a saw-tooth surface	共著	平成18年12月	IEEE/ASME Transactions on Mechatronics, Vol.11 No.6
	2 のこぎり歯形状を有する表面によるマイクロパー ツの輸送（マイクロパーツの輸送におけるダイナミ クスの定式化）	共著	平成19年1月	日本機械学会論文集（C 編）、Vol.73、No.725

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称
三谷 篤史	<学会発表>			
	1 のこぎり歯形状を有する表面によるマイクロパーツの輸送	共同	平成18年4月	精密工学会、生産自動化専門委員会、研究例会講演
	2 のこぎり歯表面による振動輸送におけるマイクロパーツのダイナミクス	共同	平成18年9月	第24回日本ロボット学会学術講演会
	3 のこぎり歯形状を有する表面によるマイクロパーツの輸送 ～第5報 より微小なワークの輸送における駆動条件の検討～	共同	平成18年12月	第7回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会（SI2006）
	4 のこぎり歯形状を有する表面によるマイクロパーツの対称振動輸送 ～パーツサイズの違いが輸送に及ぼす影響～	共同	平成19年3月	精密工学会、2007年度春季学術講演会
	<制作物>			
	1 札幌市円山動物園スネークアート展用カメラシステム1「近接型カメラ」	共同	平成19年3月	札幌市円山動物園スネークアート展、3月17日～25日、2007
片山 めぐみ	2 札幌市円山動物園スネークアート展用カメラシステム2「万華鏡カメラ」	共同	平成19年3月	札幌市円山動物園スネークアート展、3月17日～25日、2007
	<入選・受賞>			
	1 SI2005ベストセッション賞		平成18年9月	計測自動制御学会
片山 めぐみ	<学術論文等>			
	1 地下鉄駅における主観的な移動距離および深さに影響する環境要因	共著	平成18年12月	日本建築学会計画系論文集、No.610
片山 めぐみ	<学会発表>			
	1 都市に住む主婦の地震に対する災害観	共同	平成18年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集、F-1

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

学内委員会活動

資料

看護学部

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称
中村 恵子	<著書>			
	1 救急看護QUESTION BOX-2「救急実践に生きる アセスメント」	監修	平成18年5月	中山書店
	2 救急看護QUESTION BOX-4「外傷の初期対応」	監修	平成18年8月	中山書店
	3 救急看護QUESTION BOX-3「観察とモニタリング」	監修	平成18年10月	中山書店
	4 事例から学ぶ安全で有効な外来がん化学療法の実践 「外来がん化学療法を受ける患者への支援のポイント」	共著	平成19年3月	先端医学社
	<学術論文>			
	1 青森県立保健大学における主体的学習者育成システ ムの現状と課題	共著	平成18年6月	青森県立保健大学雑誌7(1)
	2 がん患者の代替療法に対する看護職者の認識	共著	平成19年3月	青森県立保健大学雑誌7(2)
	3 糖尿病をもち在宅で療養する後期高齢者の現状と課題 -病棟管理日誌から分析する夜間・休日電話相談-	共著	平成19年3月	札幌市立大学研究論文集、 第1巻第1号
	<その他の論文>			
	1 疾患別看護過程-糖尿病-	監修	平成18年4月	プチナース
	2 疾患別看護過程-心筋梗塞-	監修	平成18年5月	プチナース
	3 疾患別看護過程-クモ膜下出血-	監修	平成18年6月	プチナース
	4 疾患別看護過程-食道がん-	監修	平成18年7月	プチナース
	5 疾患別看護過程-気管支喘息-	監修	平成18年8月	プチナース
	6 疾患別看護過程-胃・十二指腸潰瘍-	監修	平成18年9月	プチナース
	7 疾患別看護過程-統合失調症-	監修	平成18年10月	プチナース
	8 疾患別看護過程-脳梗塞-	監修	平成18年11月	プチナース
	9 疾患別看護過程-慢性閉塞性肺疾患-	監修	平成18年12月	プチナース
	10 疾患別看護過程-大腿骨頸部骨折-	監修	平成19年1月	プチナース
	11 疾患別看護過程-認知症-	監修	平成19年2月	プチナース
	12 疾患別看護過程-胃がん-	監修	平成19年3月	プチナース
	<学術集会 基調講演>			
	1 日本健康科学学会第22回学術大会 基調講演「救急 医療の変遷と看護師の人材育成」	単独	平成18年10月	日本健康科学学会
	<学術集会 交流集会>			
	1 介護老人保健・福祉施設の看護職者のための教育プ ログラム開発と支援	共同	平成18年11月	日本老年看護学会第11回学 術集会

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称
中村 恵子	<学術集会> 1 介護保険施設の看護管理者のリーダーシップ行動変化に関する調査－研修前後の比較から－	共同	平成18年12月	第26回日本看護科学学会学術集会
	<研究報告書> 1 看護記録の実態と法的整備の在り方に関する研究	共同	平成18年4月	平成17年度厚生労働科学研究費補助金(特別研究事業)
河野 總子	<入選・受賞> 1 北海道社会貢献賞		平成18年5月	北海道
坂倉 恵美子	<学会発表> 1 Intervention Study on the Effectiveness of Learning Therapy (Oral Reading Method) for Preventing Deterioration of Cognitive Function in the Elderly	共同	平成18年10月	Nursing Perspective on Health Aging
	2 成熟社会における経年的高齢化に伴う環境の問題化に関する記述的研究	共同	平成18年10月	第17回日本公衆衛生学会
	3 臨地実習における看護学生のインシデント体験と発生要因分析－老年看護学実習の横断調査から－	共同	平成18年8月	日本看護学教育学会
樋之津 淳子	<学術論文等> 1 前立腺がん罹患による食事内容の変化－大豆イソフラボン摂取量と血中濃度に焦点をあてて－	共著	平成18年7月	日本がん看護学会誌、第20巻1号
	2 更年期症状に関する女性の認識と身体的・心理社会的要因との関連	共著	平成18年10月	東京学芸大学紀要芸術・スポーツ科学系、第58集
	3 臨地実習における看護学生の気分変化と自律神経反応との関連	共著	平成19年3月	札幌市立大学研究論文集、第1巻第1号
	<研究報告書> 1 日本における看護職によるスタンダードプレコーションの実践の現状と普及に関する研究	共著	平成19年3月	平成17・18年度科学研究費補助金(基盤研究C)研究成果報告書
	<学会発表> 1 臨地実習における看護学生の月経関連愁訴と心臓自律神経機能の変化	共同	平成18年8月	第32回日本看護研究学会
	2 看護職による感染予防対策実践の現状に関する分析	共同	平成18年12月	第26回日本看護科学学会学術集会

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会及び教育研究審議会

学内委員会活動

資料

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称
松浦 和代	<著書>			
	1 看護学全書28、小児看護学①、第2版	共著	平成18年12月	メヂカルフレンド社
	2 看護学全書29、小児看護学②、第2版	共著	平成18年12月	メヂカルフレンド社
	<学術論文等>			
	1 小児看護の技と心を伝える未来の架け橋、自己決定型学習の準備性と小児看護学実習	単著	平成18年4月	日本小児看護学会誌、15(1)
	2 小児看護臨床における心理社会的支援の強化－現実的な方向性を探る	単著	平成18年9月	病気の子どもと医療・教育、13
	<学会発表>			
	1 重症先天性心疾患患児の経管栄養離脱までの実態	共同	平成18年7月	第42回日本小児循環器学会 学術総会
	2 新人看護師の職業性ストレスに対する「自己決定型学習の準備性」の影響度	共同	平成18年8月	第32回日本看護研究学会学 術集会
	3 子どもの『育ち』を援助する教育とライフスキル	単独	平成18年9月	日本特殊教育学会第44回大会
	4 温罨法によるめまい患者の肩こり緩和効果	共同	平成18年10月	第37回日本看護学会成人看 護 I
	5 Factors affecting high blood pressure in medical college students	共同	平成18年10月	The 21 st Scientific Meeting of the International Society of Hypertension
	6 小児慢性疾患キャリアオーバーの社会的自立過程における相談概況	共同	平成18年10月	第53回日本小児保健学会
	7 学校トイレと子どもの排泄に関する文献検討	共同	平成18年10月	第53回日本小児保健学会
	8 「しっかり眠ろう週間」の実施と評価	共同	平成18年11月	第53回日本学校保健学会
	<研究報告書>			
	1 病院におけるセラピューティック・アプローチの専門家の配置と協働の促進に関する研究	共著	平成18年5月	2005年度西南女学院大学共 同研究費報告書
	2 学校トイレ環境のヘルスプロモーションが児童の排泄に及ぼす効果とその多面的評価	共著	平成19年3月	平成16・17・18年度科学研 究費補助金基盤研究（C） （2）研究成果報告書 （課題番号16592189）
宮崎 みち子	<学術論文>			
	1 The history of abortion-related acts and current issues in Japan	単著	平成18年8月	Journal of Forensic Medicine, Vol.49, No.2-3
	<学会発表>			
	1 母体保護法に関する一つの提言	単独	平成18年11月	第18回日本生命倫理学会

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称
大野 夏代	<学術論文等>			
	1 手荒れの有無による手指消毒の効果－ハンドケアの有効性について－	共著	平成18年6月	インフェクションコントロール、15 (6)
	2 米国のテキストにおける「異文化看護」の記述内容の検討	単著	平成19年3月	札幌市立大学研究論文集、第1巻第1号
	<研究報告書>			
	1 細菌学的分析を通じての「手荒れ」の人への手洗方法の提案 (2)	共著	平成18年5月	埼玉県立大学短期大学部平成17年度奨励研究報告書
清水 光子	<学会発表>			
	1 科目「国際看護論」の関心について－各単元のイメージマップの分析より－	単独	平成18年9月	国際看護研究会第9回学術集会
守村 洋	<学術論文等>			
	1 地域の健康づくりグループの発展を促進するための基礎的研究－グループ活動初期段階においてリーダーシップが発揮される条件とは何か－	共著	平成19年3月	北海道高齢者問題研究協会編、高齢者問題研究、No.23
	<その他>			
菊地 ひろみ	1 障害者自立支援法時代における精神障害者セルフヘルプ・グループの地域活動	単著	平成19年3月	札幌市立大学研究論文集、第1巻第1号
	<その他>			
	1 高齢者の心理的状況－喪失体験なんてプッ飛ばせ！－	単独	平成19年1月	シルバーネットワーク、No.60、北海道高齢者総合センター情報誌
	<著書>			
佐藤 公美子	1 臨床病態学 各論Ⅰ 第1章 脳・神経系疾患	共著	平成18年11月	ヌーヴェルヒロカワ
	<学会発表>			
	1 多発性硬化症患者の生活の質に関する調査結果－SEIQoL-DWによるQOL評価－	単独	平成18年8月	第11回日本難病看護学会学術集会
	<その他>			
佐藤 公美子	1 多発性硬化症患者に対するSEIQoL-DWの介入効果	単独	平成19年3月	第5回緩和ケアセミナー
	<著書>			
	1 考える基礎看護技術Ⅱ・第3版3刷 「第Ⅳ編 第28章 胃・腸・膀胱洗浄のための看護」	共著	平成19年1月	ヌーヴェルヒロカワ
	<学会発表>			
佐藤 公美子	1 占領期における地方の看護改革－地方軍政部公衆衛生課の陣容と看護教育政策の方法－	共同	平成18年8月	日本看護学教育学、Vol.16
	2 占領期日本における地方軍政部からみた看護改革	共同	平成18年12月	日本看護科学学会、Vol.26

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

学内委員会活動

資料

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称
高室 典子	<学術論文等> 1 産褥期の腰痛に関する研究	共著	平成18年9月	看護総合科学研究会誌
	<学会発表> 1 地域における育児の現状 2 産後における腰痛の実態調査	単独 共同	平成18年5月 平成18年11月	第59回日本保育学会 第57回北海道理学療法士学 術大会
	3 The effects of continuous breastfeeding support for the first mothers after giving birth.	単独	平成18年5月	5 th European Conference Breastfeeding and Lactation
藤井 瑞恵	<学術論文等> 1 糖尿病をもち在宅で療養する後期高齢者の現状と課題 －病棟管理日誌から分析する夜間・休日電話相談－	共著	平成19年3月	札幌市立大学研究論文集、 第1巻第1号
	<学会発表> 1 膝関節症を患った高齢者の対処行動とQOL（生活 の質）	共同	平成18年7月	第32回看護研究学会
保田 玲子	<学術論文> 1 地域の健康づくりグループの発展を促進するための基礎 的研究－グループ活動初期段階においてリーダーシップ が発揮される条件とは何か－	共著	平成19年3月	北海道高齢者問題研究協 会編、高齢者問題研究、 No.23
	<学会発表> 1 北海道T町の酪農家の腰痛等に関する疫学調査	共同	平成18年10月	第65回日本公衆衛生学会
渡邊 由加利	<学会発表> 1 妊娠末期における夫婦間の意見の一致度と関連要因 の検討－妻と夫のペアデータの分析－	単独	平成19年3月	第21回日本助産学会学術集会
太田 晴美	<その他> 1 災害看護 注射の施行中、地震が！災害時の正しい 対処と行動のしかた	単著	平成19年1月	エキスパートナース、 Vol.23、No.1
神島 滋子	<学会発表> 1 高齢の通院脳血管障害患者の健康管理に関するセル フエフィカシーの検討	単独	平成18年9月	第33回日本脳神経看護研究 学会
	2 更年期女性の健康管理状況に関連する要因の検討	単独	平成18年10月	第5回日本健康行動科学会 学術集会
	<入選・受賞> 1 ブレインナーシング賞 受賞		平成18年9月	メディカ出版

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称
河村 奈美子	<学術論文等>			
	1 Long-term evaluation of animal-assisted therapy for institutionalized elderly people: a preliminary result	共著	平成19年3月	Psychogeriatrics, Vol.7 (1)
	<学会発表>			
	1 The co-utilization of clinical practice and an educational blockbuster film in psychiatric nursing practice for students.	共同	平成18年10月	American Psychiatric Nursing Association 20th Annual Conference, Official Conference program book
	2 認知症と診断された新規入居者の意思表示引き出しに小型犬との交流の活用とQOL向上－理解力不明の利用者の小型犬との交流の活用からの学び－	共同	平成18年10月	第7回日本認知症ケア学会抄録集
	3 犬好き認知症高齢者の犬との遊び効果のサーモグラフによる観察及び青年との対比	共同	平成18年6月	第48回老年社会科学会
多賀 昌江	<学会発表>			
	1 ラオスの出産事情と日本の母子手帳の使われ方	単独	平成18年9月	国際看護研究会第9回学術集会抄録
	2 Toll-like receptor (TLR)のLeucine rich Repeat (LRR)	共同	平成18年11月	第43回日本生化学会北海道支部例会抄録集
	3 初めて「夫立会い分娩」をした夫の内的経験	単独	平成19年3月	第21回日本助産学会学術集会
塚辺 繭子	<学術論文等>			
	1 地域の健康づくりグループの発展を促進するための基礎的研究－グループ活動初期段階においてリーダーシップが発揮される条件とは何か－	共著	平成19年3月	北海道高齢者問題研究協会編、高齢者問題研究、No.23
	<学会発表>			
	1 新人看護師の医療事故防止に関連する知識・技術の習得状況と卒後教育の検討	共同	平成18年8月	第32回日本看護研究学会学術集会、日本看護研究学会雑誌、29 (3)
照井 レナ	<学術論文等>			
	1 地域の健康づくりグループの発展を促進するための基礎的研究－グループ活動初期段階においてリーダーシップが発揮される条件とは何か－	共著	平成19年3月	北海道高齢者問題研究協会編、高齢者問題研究、No.23
	<学会発表>			
	1 配偶者の施設入所により一人暮らしになった男性高齢者の「食」に対する思いと行動	単独	平成18年10月	日本健康行動科学会第5回学術大会

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

学内委員会活動

資料

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称
福島 眞里	<研究報告書> 1 学校トイレ環境のヘルスプロモーションが児童の排泄に及ぼす効果とその多面的評価	共同	平成19年3月	平成16・17・18年度科学研究費補助金基盤研究（C） （2）研究成果報告書 （課題番号16592189）
	<学会発表> 1 小児慢性疾患の治療・定期健診を続ける18歳以上の若者の社会生活支援の課題－二分脊椎の治療・定期検診を続ける18歳以上の若者の社会生活支援の課題－	単独	平成19年2月	患者・家族のトータルケアを進めるジョイント・シンポジウム、セラピューティック・アプローチ研究会
松村 寛子	<学術論文> 1 地域の健康づくりグループの発展を促進するための基礎的研究－グループ活動初期段階においてリーダーシップが発揮される条件とは何か－	共著	平成19年3月	北海道高齢者問題研究協会編、高齢者問題研究、No.23

社会活動

1 地域貢献諸活動

1) 地域との連携研究

研究課題	期間	概要	連携先
芸術の森地区シーニックバイウェイ構想の実現に向けた空間デザインの研究	平成19年2月～ 平成19年3月	観光分野の視点から、芸術の森地区住民及び「まちづくりセンター」と連携し「芸術の森地区シーニックバイウェイ構想の実現に向けた空間デザインの研究」を受託し、研究を進めた。	札幌市 芸術の森地区住民及び「まちづくりセンター」
札幌市円山動物園の感性科学に基づく総合デザインの調査研究業務	平成18年11月～ 平成19年3月	円山動物園について、「札幌市円山動物園の感性科学に基づく総合デザインの調査研究」を受託した。	札幌市
地域における大学まちづくり：芸術の森地区アイデアタウン構想立案と創造経済の創出に向けた調査・研究	平成18年4月～ 平成19年3月	「地域における大学まちづくり：芸術の森地区アイデアタウン構想立案と創造経済の創出に向けた調査・研究」を共同研究費として採択し、研究を進めた。	札幌市
積雪寒冷地域保健の確立にむけて：積雪寒冷地域に居住する高齢者の主観的幸福感に影響を及ぼす要因研究	平成18年4月～ 平成19年3月	「積雪寒冷地域保健の確立にむけて：積雪寒冷地域に居住する高齢者の主観的幸福感に影響を及ぼす要因研究」を共同研究費として採択し、研究を進めた。	石狩市
札幌ITカロッツェリアの創成（知的創造による地域産学官連携強化プログラム「知的クラスター創成事業」）	平成18年4月～ 平成19年3月	新規産業創出を目指す産学官連携プロジェクトである「札幌ITカロッツェリアの創成」に係る研究2件を受託した。加圧脈波計等の試作品製作を行い、企画立案からソフトウェア開発・試作品製作までトータルビジネスが展開できる企業群の創設、新生札幌IT産業の創設を目指して取り組んだ。	(財)北海道科学技術総合振興センター
札幌商工会議所100周年記念事業のブランドマークに関する研究	平成18年5月～ 平成18年6月	「札幌商工会議所100周年記念事業のブランドマークに関する研究」を札幌商工会議所から受託した。	札幌商工会議所
天然素材を活用した除菌・消臭剤のパッケージに関する研究	平成18年4月～ 平成18年7月	「天然素材を活用した除菌・消臭剤のパッケージに関する研究」を民間企業から受託した。	(株)EKP

研究課題	期間	概要	連携先
障害疑似体験セットのブランディングに関する研究	平成18年8月～ 平成19年3月	「障害疑似体験セットのブランディングに関する研究」を民間企業から受託した。	(株)特殊衣料
北海道感性産業開発推進事業	平成18年10月～ 平成19年3月	平成18年度産学官連携推進事業助成事業に「北海道感性産業開発推進事業」が採択された。	北海道中小企業家同友会
地域の健康づくりグループの発展を促進するための基礎的研究	平成18年4月～ 平成19年1月	「地域の健康づくりグループの発展を促進するための基礎的研究」への研究助成を受けた。	(財)北海道高齢者問題研究協会
ウトナイ湖北西岸湿地の長期植生動態の解析と湖の水位改変による影響の評価に関する研究	平成18年8月～ 平成19年3月	「ウトナイ湖北西岸湿地の長期植生動態の解析と湖の水位改変による影響の評価に関する研究」を民間企業から受託した。	(財)リバーフロント整備センター

2) 高校出前講座

開催日	高校名	タイトル	教員名
平成18年10月26日	北海道札幌新川高等学校	1 ナイチンゲールの業績 2 保健学～メンタルヘルスについて	1 河野 総子 2 守村 洋
平成18年11月15日	北海道札幌国際情報高等学校	1 ユニバーサルデザイン 2 コンテンツとメディアデザイン	1 酒井 正幸 2 武邑 光裕
平成18年11月15日	北海道札幌旭丘高等学校	空間デザインにおける建築士の役割	羽深 久夫

3) 中学生を対象にした職業体験のキャリア教育

開催日	中学校名	タイトル	教職員名
平成18年8月29日	石狩市立花川北中学校	北中タイム（職業体験）	宮崎 みち子
平成18年8月31日	北広島市立大曲中学校	自分の今後の生き方を考える	樋之津 淳子
平成18年9月6日	斜里町立斜里中学校	学校・企業訪問	樋之津 淳子
平成18年10月19日	江別市立江陽中学校	職場見学学習（職場見学）	芳村 直孝 （桑園担当課長）

4) 学生参加事業

期間	事業	担当教員
平成18年8月17日～ 25日	オランダ・デルフト工科大学教員及び学生との国際デザインワークショップ (会場：札幌市立大学芸術の森キャンパス)	酒井 正幸 城間 祥之 杉 哲夫
平成18年8月27日	札幌テレビ放送(株)「24時間テレビ」 ペットボトルによる環境モニュメント・制作 (会場：イオン札幌平岡ショッピングセンター)	齋藤 利明
平成18年8月27日	性と健康を考える女性専門家の会主催「どうする？日本のお産 札幌ディス カッション大会」の開催協力 (会場：札幌市立大学桑園キャンパス)	宮崎 みち子 渡邊 由加利
平成18年10月～ 平成19年3月	札幌市円山動物園プロジェクト ・学生ボランティアとして再生化計画への参与、研究の補助、アイデア企 画等(酒井正幸・守村洋) ・学生ボランティア活動として意見収集(張浦華) ・スネークアート展(細谷多聞・三谷篤史)	酒井 正幸 張 浦 華 細谷 多聞 三谷 篤史 守村 洋
平成18年10月14日	シーニックバイウエイ構想への挑戦「沿道空間をより美しく、より楽しくす るために」のワークショップへの参加 (会場：札幌市立大学芸術の森キャンパス)	羽深 久夫
平成18年11月24日～ 25日	札幌メディア・アート・フェスタ2006 札幌メディア・アート・トライアル 出展参加(メディア・アート・フェスタ賞受賞)	武邑 光裕 齋藤 利明 細谷 多聞
平成18年12月2日～ 平成19年1月7日	さっぽろイルミネーション電車プロジェクトの装飾デザイン・施工	城間 祥之
平成18年12月4日～ 平成19年3月14日	札幌市東区安心安全なまちシンボルグッズの制作／コンペ形式	杉 哲夫
平成18年12月17日～ 平成19年1月20日	札幌市交通局地下鉄ウィズユーカード(大人用、子供用)デザイン／コンペ 形式	吉田 和夫
平成19年2月18日	「まちづくりプレゼンテーション大会 in 札幌～大学生と地域が共に行動する まちづくり～」において「芸術の森地区 シーニックバイウエイ構想への挑戦」 について発表 (会場：札幌市立大学サテライトキャンパス)	羽深 久夫

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

学内委員会活動

資料

5) ボランティア活動

① 教員

参加日・期間	内容	主催者	会場	教員名
平成18年4月～9月	北海道精神障がい者セミナー&キャンプの第9回目を札幌に誘致し、実行委員として活動	北海道精神障がい者セミナー&キャンプ in さっぽろ実行委員会	滝野すずらん丘陵公園	守村 洋 河村 奈美子
平成18年4月～ 平成19年3月	こころの健康相談	NPO法人こころ	北海道医療大学札幌サテライトキャンパス	塚辺 蘭子
平成18年4月29日	「旧盛田家住宅移築再生見学会」企画運営	NPO法人北の民家の会	茅部郡森町	羽深 久夫
平成18年5月27日	「春の山で植林他ツアー」企画運営	NPO法人北の民家の会	夕張郡栗山町・三笠市	羽深 久夫
平成18年6月～10月	母乳相談を実際に行う助産師、保健師への実践を通した母乳育児相談の教授（4回）	札幌市北保健センター	札幌市北保健センター	高室 典子
平成18年6月4日	「古き建物を描く会 石山・軟石の古き建物」スケッチ会の企画運営	古き建物を描く会	ぼすとかん（旧石山郵便局）	羽深 久夫
平成18年6月24日	NPO法人北の民家の会第2回定期総会・記念講演会「発想の背景」・シンポジウム「君の椅子プロジェクト」司会・進行	NPO法人北の民家の会	豊平館	羽深 久夫
平成18年7月2日	「古き建物を描く会 西岡・赤レンガの古き建物」スケッチ会の企画運営	古き建物を描く会	西岡ぬまた公園	羽深 久夫
平成18年7月2日	「第11回精神障害者社会参加促進研修会及び第22回道回連総会」の運営補助業務	北海道精神障害者回復者クラブ連合会	札幌市社会福祉総合センター	守村 洋 河村 奈美子
平成18年8月5日～ 8日	トライアスカル 小学生体験学習キャンプ	江別市・江別市教育委員会・アトリエ陶「風の村」	アトリエ陶	矢部 和夫
平成18年8月6日	「古き建物を描く会 江別・元江別の古き建物」スケッチ会の企画運営	古き建物を描く会	江別市	羽深 久夫
平成18年8月17日～ 24日	青少年の野外教育における医療職として同行	文部科学省所管 (財)青少年野外教育財団	鹿児島県加計呂麻島	高室 典子

参加日・期間	内容	主催者	会場	教員名
平成18年8月18日～ 20日	「北海道民家の学校サマーセミナー」 司会・進行	NPO法人北の民家の会	札幌市・開拓の村・ アルテピアッツァ 美唄	羽 深 久 夫
平成18年9月3日	「古き建物を描く会 栗山・小林酒造 の古き建物」スケッチ会の企画運営	古き建物を描く会	小林酒造(株)	羽 深 久 夫
平成18年9月9日	美術館めぐり「心に残る美術館への 誘い」司会・進行	NPO法人北の民家の会	富良野市・上川郡 美瑛町	羽 深 久 夫
平成18年9月30日	「秋の山体験と製材ワークショップ」 司会・進行	NPO法人北の民家の会	山崎木材	羽 深 久 夫
平成18年10月1日	「古き建物を描く会 月寒・八紘学園 の古き建物」スケッチ会の企画運営	古き建物を描く会	八紘学園	羽 深 久 夫
平成18年10月2日	NPO法人北の民家の会産学官＋市 民連携公開講座「アメリカにおける 建築界の動向と産学の結びつき」司 会・進行	NPO法人北の民家の会	豊平館	羽 深 久 夫
平成18年10月3日	公開講座「アメリカにおける空間デ ザイン教育の動向と産学の結びつ き」司会・進行	NPO法人北の民家の会	北海道職業能力開 発大学校・札幌市 立大学・北海道工 業大学	羽 深 久 夫
平成18年10月22日	「とんでん健康フェア2006」にて介 護相談コーナーを担当し、住民の相 談に対応	屯田地区健康づく り実践会	屯田地区センター	菊 地 ひろみ
平成18年10月24日 平成19年1月18日 平成19年3月20日	「感性技術フォーラム」の企画運営	北海道感性産業開 発ネットワーク	札幌市立大学サテ ライトキャンパス	酒 井 正 幸
平成18年10月28日	道民森づくりネットワークの集い 「木づかいの広場」展覧会の説明	北海道	北海道庁赤れんが広場	羽 深 久 夫
平成18年10月28日 平成19年1月27日	保健師・助産師・看護師の三者が協 力し合い、市民の心身の相談事に対 応する活動	(社)北海道看護協会	旭山公園通地区セ ンター	宮 崎 みち子
平成18年10月29日	医療通訳ボランティアを養成する活 動、異文化間の国際ボランティア活動	NPO法人エスニコ	(財)札幌国際プラザ	高 室 典 子
平成18年11月8日～ 24日	サイン計画のデザイン技術指導	(株)北海道日建設計	石狩老人看護施設 プラットホーム	石 崎 友 紀

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学
者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

学内委員会活動

資料

参加日・期間	内容	主催者	会場	教員名
平成18年12月19日	子育て支援団体からの依頼で、親と子の絆づくりのために、ベビーマッサージ技術を教授した子育て支援活動	NPO法人ワーカーズコレクティブ ちいさなおうち	NPO法人ワーカーズコレクティブ ちいさなおうち	高室 典子 多賀 昌江
平成19年3月8日	「デザインとビジネス特別講演会」の企画運営	北海道感性産業開発ネットワーク	札幌市立大学サテライトキャンパス	酒井 正幸

② 学生参加

参加日・期間	内容	主催者	会場	参加 学生数	担当教員
平成18年7月15日	南区砥山地区で地元の農家などが参加するさくらんぼ祭りの企画運営	さくらんぼ祭り実行委員会	八剣山果樹園	3人	吉田 恵介
平成18年8月26日	桑園地区子ども大縄跳び大会の運営協力	桑園地区青少年育成委員会	札幌市立桑園小学校	6人	保田 玲子
平成18年8月27日	「どうする？日本のお産 札幌ディスカッション大会」の開催協力	性と健康を考える女性専門家の会	札幌市立大学	2人	宮崎 みち子 渡邊 由加利
平成18年9月3日	第23回桑園地区大運動会	桑園地区連合町内会	札幌市立桑園小学校	6人	照井 レナ
平成18年9月30日	「すくすく・いきいきファミリーフェスタ in ちゅうおう」の健康づくりコーナーにて健康チェック補助	札幌市中央区保健福祉部	中央区民センター	3人	清水 光子 保田 玲子 松村 寛子
平成18年10月8日	南区砥山地区で地元の農家などが参加する収穫祭の企画運営	八剣山発見隊	八剣山果樹園	3人	吉田 恵介
平成18年10月14日～ 15日	第18回桑園地区文化祭の会場設営・運営協力	桑園地区連合町内会（文化部）	桑園ふれあいセンター	2人	保田 玲子 照井 レナ
平成18年11月12日	第21回桑園地区ボウリング大会	桑園地区連合町内会（体育部）	サンコーボウル	2人	保田 玲子 照井 レナ
平成18年12月2日～ 平成19年1月7日	さっぽろイルミネーション電車プロジェクトの装飾デザイン・施工	さっぽろイルミネーション電車プロジェクト実行委員会	札幌市交通局 高速電車部電車事業所	10人	城間 祥之
平成18年12月9日	幼児・児童のおもちつき大会	桑園地区連合町内会	桑園児童会館	9人	照井 レナ

2 公開講座開催実績

1) 産学連携公開講座

開催日	タイトル	講師等	参加人数
平成18年9月25日	＜価値創造経済へのロードマップ＞ Roadmap to creative economy	ローレンス・レッシング (スタンフォード大学ロー・スクール 教授) 伊藤 穰一 (㈱デジタルガレージ共同創業者)	100名
平成18年10月21日	走れ!!サッポロ	中野 裕之 (映像作家)	50名
平成18年11月2日	札幌市立大学のブランド・アイデンティティ	ジョン・ワーウィッカー (デザイナー、tomato創設メンバー)	100名
平成19年2月2日	＜メディアデザインの現在＞ “No border, no limit” 「境界も、限界もなし」	水口 哲也 (クリエイター)	90名
平成19年3月11日	＜クリエイターと創造都市＞ 第1部 基調講演 「ヤバいぜっ! デジタル日本」 第2部 パネルディスカッション 「創造都市札幌とクリエイター」	高城 剛 (フューチャー・パイレーツ 代表取締役) パネラー 高城 剛 (映像作家／ハイパーメディア・クリエイター) (フューチャー・パイレーツ 代表取締役) 大口 岳人 (シフトプロダクション 代表) 江川 克之 (㈱SPフォーラム 代表取締役) 福井 知克 (札幌市経済局長) コーディネータ 武邑 光裕 (札幌市立大学 附属図書館長・デザイン学部教授)	100名

2) 附属図書館主催市民講座

開催日	タイトル	講師等	参加人数
平成18年7月8日	Web2.0の時代：情報社会の飛躍	月尾 嘉男 (東京大学名誉教授・元総務省審議官) 浜野 保樹 (東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授) 廣瀬 通孝 (東京大学大学院情報理工学系研究科・先端科学技術研究センター 教授) コーディネータ 武邑 光裕 (札幌市立大学 附属図書館長・デザイン学部教授)	100名

3) 福祉工学デザイン講座

期間	タイトル	講師	参加延べ人数
平成18年12月22日～ 平成19年3月9日 2コース全4回	足振動刺激付きバランス機器による転倒予防 ーバランストレーニングで健やかな老後をー	田中 敏明 (札幌市立大学 デザイン学部教授)	135名
平成19年1月13日～ 3月23日 2コース全4回	足振動刺激付きバランス機器による転倒予防 ーバランストレーニングで健やかな老後をー	田中 敏明 (札幌市立大学 デザイン学部教授)	129名

4) 特別公開講義

開催日	タイトル	講師	参加人数
平成18年9月26日	日本の戦後看護史	ライダー島崎 玲子 (青森中央短期大学 看護学科長)	92名

5) 札幌市立大学サテライトキャンパス開設記念事業

開催日：平成18年10月24日

参加人数：200名

タイトル	講師等
第1部 開設記念事業	
特別講演 「地域産業振興におけるデザイン戦略」	講師 田中 義信 (前財日本産業デザイン振興会 振興事業部長)
記念講演 「北海道感性産業の創造」	講師 原田 昭 (札幌市立大学 理事長・学長)
第2部 シンポジウム(北海道感性産業開発ネットワーク 共催)	
パネルディスカッション 「異分野横断型連携と北海道感性・創造産業」	コーディネータ 及川 雅稔 (北海道立工業試験場 デザイン開発科長)
	パネリスト 田中 義信 (前財日本産業デザイン振興会 振興事業部長)
	武邑 光裕 (札幌市立大学 附属図書館長・デザイン学部教授)
	久保 洋 (室蘭工業大学 教授)
	辰巳 治之 (札幌医科大学 教授)
	高橋 昭憲 (株)データクラフト 代表取締役)

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学
者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

学内委員会活動

資料

3 学会及び社会における活動

デザイン学部

教員名	所属学会・委員会等
原 田 昭	日本デザイン学会 監査 日本感性工学会 会長／編集委員会委員 日本認知科学会 (社)日本インダストリアルデザイナー協会 感性工学と感情研究の国際会議2007準備委員会 委員長（日本感性工学会） 札幌市円山動物園リスタート委員会 委員長（札幌市） スイーツの街・札幌ブランド発信事業 委員（札幌商工会議所） 北海道感性産業開発ネットワーク（KIND） 会長 産業技術研究助成事業 ピアレビューア（新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO））
吉 田 恵 介	北海道都市計画学会 論文委員会委員 日本造園学会 北海道支部幹事 日本都市計画学会 環境情報センター 人文地理学会 北海道特定開発行為審査会 委員（北海道） 公園事業に係る設計業務のプロポーザル選定委員会 委員（札幌市） 電子入札システム開発業務に係る総合評価委員会 委員（札幌市） 札幌市都市景観アドバイザー 委員（札幌市） 地球温暖化対策地域推進計画改定専門家会議 委員（札幌市）
武 邑 光 裕	情報文化学会 芸術科学会 日本予防医学リスクマネジメント学会 理事 ACM DIME 2006 conference paper review 国際査読委員 MCN（Museum Computer Network） Japan SIG Chair 札幌駅前通公共地下歩行空間活用検討会 委員長（札幌市） 札幌市地上デジタル放送活用構想検討委員会 副座長（札幌市） 札幌コンテンツ流通実証実験実行委員会 委員長（札幌市／総務省） 北海道における地域映像活用調査検討会 座長（北海道総合通信局） コンテンツ制作者の人材育成に関する調査 委員長（総務省／札幌総合情報センター） ICT国際競争力懇談会 コンテンツSWG 副座長（総務省）

教員名	所属学会・委員会等
石 崎 友 紀	道具学会 理事 日本クラフトデザイン協会 教育研究担当理事 日本デザイン学会 環境芸術学会 芸術工学会 北海道芸術学会 札幌芸術の森工芸部委員会 委員長（財札幌市芸術文化財団） 北海道グッドデザインコンペ審査委員会 審査員（北海道経済部） 公共建築の日ポスターコンペ審査委員会 審査員（北海道開発局） 札幌スタイル選定委員会 選定担当（札幌市経済部）
齋 藤 利 明	テレビ日本美術家協会 理事・北海道支部長 芸術工学会 北海道芸術学会 北海道デザイン協議会 第22回全国健康福祉祭・北海道札幌大会 マスコットキャラクター選考委員会 委員（北海道）
酒 井 正 幸	日本人間工学会 日本デザイン学会 日本感性工学会 日本ヒューマンインタフェース学会 北海道感性産業開発ネットワーク（KIND） 事務局長
城 間 祥 之	芸術工学会 校閲委員 日本機械学会 日本設計工学会 情報処理学会 IEEE ACM 「札幌ITクラスター事業の提案に関する検討会議」 委員（北海道） 精密工学会 デジタルスタイルデザイン研究分科会 委員（精密工学会）
杉 哲 夫	日本デザイン学会 日本感性工学会 (社)日本インダストリアルデザイナー協会（JIDA） アクレッジット委員会 委員
田 中 敏 明	日本理学療法士協会 日本リハビリテーション工学協会 日本義肢装具学会 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO） 技術評価委員

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

学内委員会活動

資料

教員名	所属学会・委員会等
原 俊 彦	日本人口学会 理事／組織・制度検討委員会副委員長／東日本地域部会担当 日本社会学会 研究活動委員会 委員 日本家族社会学会 編集委員会 委員 北海道社会学会 理事／研究活動委員会委員長 日本政治学会 日本情報考古学会 研究評価委員会 委員（国立社会保障・人口問題研究所）
吉 田 和 夫	東京グラフィックデザイナーズクラブ（TGC） 日本広告技術者協議会（NAAC） 札幌スタイルデザインコンペティション実行委員会 委員（札幌市経済局） 札幌市広告アドバイザー会議 委員（札幌市建設局） 札幌市景観審議会 委員（札幌市市民まちづくり局） ビジネス検討会議 アドバイザー（財北海道科学技術総合振興センター） 2006エコバッグふろしきキャンペーン実行委員会 委員・審査員 札幌市中央区「広報さっぽろ用ロゴタイプ」審査委員会 委員（札幌市中央区）
張 浦 華	日本デザイン学会 日本感性工学会
羽 深 久 夫	日本建築学会論文集委員会 査読委員 日本建築学会建築歴史・意匠委員会日本建築史小委員会 委員 日本建築学会北海道支部歴史意匠専門委員会 委員 日本建築学会北海道支部学術委員会 委員 日本建築学会北海道支部特定課題研究委員会 主査 建築史学会 日本生活文化史学会 日本家政学会 北海道考古学会 NPO法人日本民家再生リサイクル協会 理事 NPO法人北の民家の会 理事長 札幌市文化財保護審議会 委員（札幌市） 「建築学および建築学関連分野」JABEE審査プログラム 審査委員（日本技術者教育認定機構・日本建築学会） 近代和風建築総合調査委員会 主任調査員代理（文化庁・北海道教育委員会） 文部科学省平成18年度先導的・大学改革推進委託事業「今後の「大学像」の在り方に関する調査研究：校地・校舎」調査研究委員会 委員（東京工業大学）
細 谷 多 聞	日本デザイン学会 理事 芸術工学会 日本感性工学会 理事

教員名	所属学会・委員会等
矢部 和夫	日本造園学会 支部会幹事 日本生態学会 応用生態工学会 植生図検討委員会 委員（環境省） 釧路湿原自然再生協議会 委員（環境省） 美々川・ウトナイ湖自然再生ワーキング 委員（北海道） 安平川水系河川整備検討委員会 委員（北海道）
大淵 一博	電子情報通信学会 日本教育工学会 日本感性工学会
松井 美穂	日本アメリカ文学会 日本英文学会 北海道アメリカ文学会 会計監査 日本ウィリアム・フォークナー協会 Carson McCullers Society
三谷 篤史	日本機械学会 計測自動制御学会 精密工学会 日本ロボット学会 IEEE 札幌市円山動物園リスタート委員会 札幌市円山動物園ロボット玩具WG 委員（札幌市） 札幌市円山動物園リスタート委員会 札幌市円山動物園生体展示WG 委員（札幌市）
片山 めぐみ	日本建築学会 人間・環境学会 日本造園学会 こども環境学会 日本展示学会

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学
者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

学内委員会活動

資料

看護学部

教員名	所属学会・委員会等
中村 恵子	日本救急看護学会 理事長／理事／評議員 日本クリティカルケア看護学会 監事／評議員 日本臨床救急医学会 理事／評議員 日本集団災害医学会 評議員 日本健康科学学会 理事／評議員 日本災害看護学会 査読委員 日本老年看護学会 日本病院管理学会 日本看護診断学会 評議員 日本がん看護学会 日本看護科学学会 日本糖尿病教育・看護学会 日本難病看護学会 日本看護研究学会 日本看護管理学会 査読委員 日本集中治療医学会 日本看護協会認定看護師認定制度委員会 委員長 日本看護協会専門看護師認定実行委員会 委員 青森県立保健大学救急看護認定看護師教育課程入試委員会 委員長 青森県立保健大学救急看護認定教育課程教員会 委員長 日本臨床救急医学会倫理委員会 委員 日本臨床救急医学会会則委員会 委員 日本看護協会資格認定制度将来構想検討プロジェクト 委員 救急救命士試験委員（財）日本救急医療財団）
河野 總子	日本看護協会日本看護学会 北海道救急医学会 日本看護研究学会 日本病院管理学会 北日本看護学会 日本看護科学学会 日本災害看護学会 日本看護教育学会 医療経済学学会 組織行動学学会 癒しの環境研究学会

教員名	所属学会・委員会等
坂倉 恵美子	日本老年看護学会 日本家族看護学会 地域看護学会 日本高齢者虐待学会 日本公衆衛生学会 日本地域看護学会 日本看護科学学会 日本看護研究学会 日本看護学教育学会 北海道建築審査会 審査委員（北海道） 介護認定審査会 審査委員（札幌市）
樋之津 淳子	日本看護研究学会 日本保健医療行動科学会 日本人間工学会 看護人間工学部会総務・研究誌編集委員 日本泌尿器科学会 日本がん看護学会 日本看護学教育学会 日本看護科学学会
松浦 和代	日本小児保健学会 評議委員 日本小児看護学会 査読委員 日本看護研究学会 日本母性衛生学会 日本特殊教育学会 日本小児がん学会 日本看護科学学会 北海道小児保健研究会 幹事
宮崎 みち子	北海道母性衛生学会 日本母性衛生学会 日本助産学会 北海道公衆衛生学会 評議員 北海道衛生公衆衛生セミナー 日本看護 Critical Thinking 研究会 日米法学会 日本看護科学学会 日本助産師会 日本医事法学会 日本生命倫理学会 日本看護研究学会

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会及び教育研究審議会

学内委員会活動

資料

教員名	所属学会・委員会等
宮崎 みち子	日本看護学教育学会 (社)北海道看護協会教育委員会 委員
大野 夏代	国際看護研究会 運営委員／第9回学術集会実行委員 看護実践における指圧マッサージ研究会 運営委員 日本看護科学学会 日本看護研究学会 日本渡航医学会 日本国際保健医療学会 日本人間工学会
清水 光子	北海道公衆衛生学会 日本公衆衛生学会 日本地域看護学会 北海道衛生公衆衛生セミナー
守 村 洋	日本精神障害者リハビリテーション学会 日本社会福祉学会 日本地域福祉学会 日本社会福祉実践理論学会 日本精神保健看護学会 北星学園大学社会福祉学会 札幌市地域福祉生活支援センター契約締結審査会 委員 すみれ会 顧問 特定非営利活動法人福祉オンブズマンほっかいどう オンブズマン 北海道精神障がい者セミナー&キャンプ in さっぽろ実行委員会 実行委員
菊地 ひろみ	日本難病看護学会 日本看護学教育学会 日本プライマリ・ケア学会 看護総合科学研究会
佐藤 公美子	日本看護科学学会 日本看護研究学会 日本看護学教育学会 日本看護歴史学会 日本医史学会 聖路加看護学会

教員名	所属学会・委員会等
高 室 典 子	日本助産学会 日本公衆衛生学会 日本母性衛生学会 日本保健医療行動科学学会 日本母乳哺育学会 日本助産師学会 日本渡航医学会
新 納 美 美	日本産業精神保健学会 日本地域看護学会 職業性ストレス研究会 日本アディクション看護学会 理事／評議員 日本公衆衛生学会 日本ブリーフサイコセラピー学会 日本看護科学学会 日本産業衛生学会 司法看護研究会 設立コアメンバー（発起人、事務担当）
藤 井 瑞 恵	日本看護学会 平成19年度成人I学会準備委員 北海道看護教育研究会 公報委員 看護総合科学研究会 査読委員 日本看護研究学会 日本看護科学学会
星 美 和 子	Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing Western Institute of Nursing
保 田 玲 子	日本保健医療行動科学学会 日本看護科学学会 日本地域看護学会 日本公衆衛生学会
渡 邊 由 加 利	日本看護科学学会 日本助産学会 日本看護教育学会 母性衛生学会
太 田 晴 美	日本集団災害医学会 日本災害看護学会

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

学内委員会活動

資料

教員名	所属学会・委員会等
神 島 滋 子	日本看護科学学会 日本脳神経看護研究学会 北海道部会副会長 日本救急看護学会 日本看護研究学会 日本公衆衛生学会 日本病院脳神経外科学会 日本更年期医学会 日本健康行動科学会
河村 奈美子	日本看護研究学会 日本精神保健看護学会 日本老年精神医学会 日本痴呆ケア学会 日本看護科学会 北海道精神障がい者セミナー&キャンプ in さっぽろ実行委員会 実行委員
進藤 ゆかり	ホスピスケア研究会 日本家族看護学会 看護総合科学研究会
多 賀 昌 江	日本助産学会 日本看護科学学会 日本文化人類学会 北海道民族学会 日本助産師学会 日本渡航医学会
塚 辺 蘭 子	日本産業衛生学会 北海道地方会産業看護部会役員 日本看護科学学会 日本精神保健看護学会 日本地域看護学会 日本看護研究学会
照 井 レ ナ	日本公衆衛生学会 北海道公衆衛生学会 日本地域看護学会 日本在宅ケア学会 北海道医療大学看護福祉学部学会 日本健康行動科学会
松 村 寛 子	日本地域看護学会 日本公衆衛生学会 日本精神保健看護学会

4 非常勤講師等実績

デザイン学部

教員名	大学等の名称	科目名
原 田 昭	筑波大学大学院	感性情報学
吉 田 恵 介	札幌市立高等専門学校	環境デザイン概論、環境デザイン演習、環境デザイン実習、環境デザイン卒業制作・研究
	札幌市立高等専門学校専攻科	環境デザイン専攻実習（2）
武 邑 光 裕	札幌市立高等専門学校	デザイン・マネージメント、視覚デザインⅠ、視覚デザインⅡ
	札幌市立高等専門学校専攻科	デザインマーケティング特論
石 崎 友 紀	札幌市立高等専門学校	工芸・意匠概論、工芸デザインⅠ、工芸デザインⅡ、工芸デザイン実習、工芸デザイン卒業制作・研究
	札幌市立高等専門学校専攻科	近代デザイン史特論、工芸デザイン特論Ⅲ、工芸デザイン専攻実習（3）
上 遠 野 敏	北海道情報大学	芸術演習「彫刻」
	北星学園短期大学	芸術文化創造論
	札幌市立高等専門学校	造形基礎実技、視覚デザイン卒業制作・研究
齋 藤 利 明	札幌市立高等専門学校	視覚情報概論、視覚デザイン演習1、視覚デザイン実習、視覚デザイン実習2、視覚デザイン卒業制作・研究
	札幌市立高等専門学校専攻科	視覚デザイン専攻実習（2）、専攻修了制作
酒 井 正 幸	札幌市立高等専門学校	人間工学、工業デザイン演習
城 間 祥 之	札幌市立高等専門学校	情報処理、視覚デザイン卒業制作・研究
	札幌市立高等専門学校専攻科	CAD特講、画像設計演習
杉 哲 夫	札幌市立高等専門学校	デザイン・マネージメント、工業デザイン演習、工業デザイン卒業制作・研究
	札幌市立高等専門学校専攻科	製品開発計画特論
田 中 敏 明	小樽看護専門学校	人間工学
	札幌市立高等専門学校	美術解剖学、人間工学
原 俊 彦	北星学園大学	人口社会学
吉 田 和 夫	札幌市立高等専門学校	視覚情報概論、視覚デザイン演習、視覚デザイン実習1、視覚デザイン卒業制作・研究
	札幌市立高等専門学校専攻科	視覚デザイン専攻実習（1）、視覚デザイン特論Ⅲ、専攻修了制作
張 浦 華	札幌市立高等専門学校	視覚デザインⅠ
	札幌市立高等専門学校専攻科	工業デザイン特論Ⅲ
羽 深 久 夫	放送大学大学院 客員助教授	修士全科生研究指導
	札幌市立高等専門学校	建築概論、建築デザインⅠ、建築デザイン演習、建築デザイン実習、建築デザイン卒業制作・研究
	札幌市立高等専門学校専攻科	建築史特論、建築デザイン特別演習、建築デザイン専攻実習（1）、建築デザイン専攻実習（2）、専攻修了制作

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

学内委員会活動

資料

教員名	大学等の名称	科目名
細谷 多聞	札幌市立高等専門学校 札幌市立高等専門学校専攻科 長岡造形大学	環境デザイン実習、視覚デザインⅠ、視覚デザインⅡ 材料科学論、視覚デザイン特別演習、専攻修了制作 マルチメディア論
矢部 和夫	札幌市立高等専門学校 札幌市立高等専門学校専攻科 北海道大学	環境デザイン概論、環境デザインⅠ、環境デザインⅡ、環境デザイン演習、環境デザイン実習、環境デザイン卒業制作・研究 環境保全論、環境デザイン専攻実習（1）、専攻修了制作 湿原の科学
大淵 一博	札幌市立高等専門学校	情報処理、視覚デザイン卒業制作・研究
松井 美穂	北星学園大学 札幌市立高等専門学校	アメリカ小説研究AⅠ、アメリカ小説研究AⅡ 英語Ⅲ
三谷 篤史	札幌市立高等専門学校 札幌市立高等専門学校専攻科	数学Ⅲ 材料力学論
片山 めぐみ	札幌市立高等専門学校 札幌市立高等専門学校専攻科	建築デザインⅠ、建築デザイン演習、建築デザイン実習、建築デザイン卒業制作・研究 住居形態特論、建築デザイン特別演習、建築デザイン専攻実習（1）、 建築デザイン専攻実習（2）

看護学部

教員名	大学等の名称	科目名
中村 恵子	北里大学大学院 青森県立保健大学大学院 客員教授 青森県立保健大学教育センター	クリティカルケア看護学 クリティカルケア看護学特論・演習、救急看護学特論、特別研究 救急看護概論、安全管理
河野 總子	北海道医療大学 北海道医療大学大学院	看護管理 看護管理特論
坂倉 恵美子	北海道教育大学 国立西札幌病院附属札幌看護学校 札幌市立高等看護学院	家庭と保育 老年看護学概論 老年看護学概論
松浦 和代	旭川医科大学大学院	母子看護学特別研究
清水 光子	札幌医科大学	地域看護活動論Ⅲ
守村 洋	藤女子大学 浅井学園大学 国立西札幌病院附属札幌看護学校 王子総合病院附属看護専門学校	精神保健福祉論Ⅰ 精神科リハビリテーション 精神看護概論Ⅰ、精神看護概論Ⅱ 精神保健

教員名	大学等の名称	科目名
高 室 典 子	日本看護福祉学院	看護研究の基礎
	札幌大谷短期大学	小児保健実習
	北海道立衛生学院	健康教育の実際、地域母子保健活動
	北海道立旭川高等看護学院	出産前教育の実際、乳房管理と母乳育児支援
	北海道大学	特別講義「先駆的助産活動」
神 島 滋 子	札幌市立高等看護学院	成人看護学実習
河村 奈美子	札幌市立高等看護学院	成人看護学実習
進藤 ゆかり	札幌市立高等看護学院	老年臨床看護Ⅲ
多賀 昌江	札幌市立高等看護学院	母性演習
照井 レナ	札幌市立高等看護学院	在宅看護論実習Ⅱ
松村 寛子	札幌市立高等看護学院	成人看護学実習

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学
者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

学内委員会活動

資料

5 専門職支援・セミナー講師等

デザイン学部

1) セミナー講師等

開催日・期間	タイトル	主催者	教員名
平成18年5月19日	特別講演「Domain of the Kansei」	Korea & Japan Joint Symposium on Emotion and Sensibility	原 田 昭
平成18年6月29日	第12回札幌支部定時総会「大学における分野横断型教育と社会貢献」	北海道保険医会	原 田 昭
平成18年7月14日	造形理論のこれまでとこれから	北海道造形教育研究会 石狩支部	石 崎 友 紀
平成18年7月18日	乾燥地における水資源・環境管理	独立行政法人国際協力機構 札幌国際センター (JICA札幌)	矢 部 和 夫
平成18年8月2日	札幌市の少子化の要因について（レクチャー）	札幌市子ども未来局 (札幌市(市長会議室))	原 俊 彦
平成18年8月25日	建築家セミナー（第19回）札幌スタイル・デザインセミナー「歴史的建造物『小林酒造』酒蔵群の保存と再生」	(社)日本建築家協会北海道支部・札幌市経済局	羽 深 久 夫
平成18年8月30日	第55回全国都市監査委員会総会「異種横断型連携による都市機能の活性化」	全国都市監査委員会	原 田 昭
平成18年9月19日	平成18年度 札幌市・区明るい選挙推進協会 委員研修会「札幌の未来2000年→2030年：人口学者の視点から」	札幌市・区明るい選挙推進協会	原 俊 彦
平成18年9月29日	特別スピーチ「Kansei Engineering as Human Discipline」	Design & Emotion Society, Sweden	原 田 昭
平成18年10月6日	第10回人口問題基礎講座「地域人口の将来」	(財)厚生統計協会	原 俊 彦
平成18年10月6日	日本建築のながれにおける神社建築と仏寺建築の関係、北海道地区11回中堅神職研修（乙）宗教概説（仏寺建築）	北海道神社庁	羽 深 久 夫
平成18年10月19日	北海道ビジネスフォーラム2006「北海道のデザインを考える」	北海道銀行・札幌市・(株)日経BP・「日経ベンチャー」経営者クラブ	原 田 昭
平成18年10月20日	放送教育の現場活用1	(財)北海道私立幼稚園協会北見支部	石 崎 友 紀
平成18年10月27日	21世紀COEプログラム「こころを解明する感性科学の推進」 第23回定期セミナー「デザイン表現の論理性」	筑波大学	細 谷 多 聞

開催日・期間	タイトル	主催者	教員名
平成18年10月28日	特別講演「感性工学を基盤とした感性産業ネットワークの構築」	韓国基礎造形学会	原 田 昭
平成18年11月8日	「感性」に訴えるものづくり－感性工学のすすめ－	北海道中小企業家同友会産学官連携研究会	原 田 昭
平成18年11月9日	第20回北海道技術・ビジネス交流会ビジネスセミナー 「国際ワークショップSapporo-Delft Design Workshopを通じたデザイン教育・戦略」	北海道技術・ビジネス交流会実行委員会	城 間 祥之
平成19年1月18日	第2回北海道感性産業開発推進事業 感性技術フォーラム 「感性技術が拓く北海道のビジネス」	北海道感性産業開発ネットワーク	原 田 昭
平成19年1月18日	第2回北海道感性産業開発推進事業 感性技術フォーラム 「北海道における情報機器の筐体デザインとラピッド・プロトタイピング」	北海道感性産業開発ネットワーク	城 間 祥之
平成19年1月18日	第2回北海道感性産業開発推進事業 感性技術フォーラム 「生活の感性とデザイン」	北海道感性産業開発ネットワーク	細 谷 多聞
平成19年2月2日	「看護・介護／理学療法学／福祉工学デザイン－福祉機器を導入する利点と課題－」「教育講座：福祉のテクノロジー－支援工学の基礎技術－」	(財)神奈川科学技術アカデミー	田 中 敏 明
平成19年2月11日	産業遺産活用まちづくりシンポジウム－産業遺産を活用してまちを元気にするには－	北海道開発局	羽 深 久 夫
平成19年2月17日	放送教育の現場活用2	(財)北海道私立幼稚園協会石狩支部	石 崎 友 紀
平成19年2月20日	Creative Conversations 2007～Ideas are the future. (創造は未来へ) ～	札幌市・(財)さっぽろ産業振興財団	武 邑 光 裕

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会及び教育研究審議会

学内委員会活動

資料

看護学部

1) 専門職支援

開催日・期間	タイトル	対象者	主催者	教員名
平成18年4月14日	看護の視点で考えるメンタルヘルス対策	看護職	健保連北海道産業保健師看護師連絡協議会	新納 美美
平成18年5月～ 平成19年3月 計5回	北海道整形外科記念病院看護研究	北海道整形外科記念病院看護師	北海道整形外科記念病院	藤井 瑞恵
平成18年6月～9月 計4回	救急看護セミナー「救急看護師の役割」	看護師	日本救急看護学会	中村 恵子
平成18年6月10日	母乳育児支援者のための「母乳育児講座」	看護師・助産師	(株)プチブレスト	高室 典子
平成18年6月16日	助産師の起業について	出産に関わる専門職 (医師・看護職など)	出産のヒューマニゼーション研究会	高室 典子
平成18年6月30日～ 7月1日	看護管理者ファーストレベル「看護管理概説」	看護職	(社)青森県看護協会	中村 恵子
平成18年7月～8月 計5回	平成18年度看護教員養成講習会「研究方法」	看護職の養成機関に勤務する教員、勤務予定の看護職。実習機関に所属する看護職。	北海道保健福祉部	菊地 ひろみ 新納 美美
平成18年7月3日	看護師研修：事例検討と看護倫理	北海道社会保険病院看護師（主として2年目看護師）	北海道社会保険病院	宮崎 みち子
平成18年7月8日	母親役割到達過程を考えた援助	看護職	柳瀬ワイチ(株)	高室 典子
平成18年7月11日	健康障害をもつ小児の看護研修会	看護職	(社)北海道看護協会	松浦 和代
平成18年7月22日	多発外傷の初期診療研修会「家族への対応」	看護師	名古屋掖済会病院救急科	中村 恵子
平成18年8月30日	ポジティブコミュニケーション研修	保健師	九州電力㈱宮崎支店	新納 美美
平成18年9月1日	ポジティブコミュニケーション研修	事業所に勤務する看護職および栄養士等	健保連宮崎保健師連絡協議会	新納 美美
平成18年9月14日 平成18年9月19日	平成18年保健師助産師看護師等実習指導者講習会「看護過程①」「看護過程②」	看護実習施設の実習指導担当、もしくは担当予定の看護職	北海道保健福祉部	大野 夏代
平成18年9月20日 平成18年9月22日	平成18年保健師助産師看護師等実習指導者講習会「看護過程③」「看護過程④」	看護実習施設の実習指導担当、もしくは担当予定の看護職	北海道保健福祉部	佐藤 公美子

開催日・期間	タイトル	対象者	主催者	教員名
平成18年9月29日	看護職のメンタルヘルス研修会(札幌第3支部)「看護職のメンタルヘルス支援Ⅰ」	看護職	(社)北海道看護協会	守村 洋
平成18年10月6日	救急看護の専門性	救急看護師	(財)日本救急医療財団	中村 恵子
平成18年10月20日	看護職員研修会「看護研究」	旭川医科大学病院看護職	旭川医科大学病院	松浦 和代
平成18年11月21日 ～22日	訪問看護師養成講習会	訪問看護に従事中、もしくは従事予定の看護職	(社)北海道看護協会	菊地 ひろみ
平成18年11月25日 ～26日	看護に役立つ脳神経領域におけるフィジカルアセスメント～あなたも明日からスペシャリスト	看護職	日本脳神経看護研究学会北海道部会	神島 滋子
平成18年12月1日	第3回北海道ホスピタルショウ2006「看護職の早期離職問題と人材育成－急性期看護場面からの発信－」	看護職、医療従事者、その他	(社)日本経営協会	中村 恵子
平成18年12月5日	特別講義「看護におけるフィジカルアセスメントについて」	心臓血管センター北海道大野病院看護部	心臓血管センター北海道大野病院	樋之津 淳子
平成19年2月16日	看護管理者ファーストレベル「専門職論」	看護職	(社)北海道看護協会	中村 恵子
平成19年2月22日	平成18年度看護研究発表会	札幌中央病院看護職員	札幌中央病院	坂倉 恵美子 菊地 ひろみ
平成19年3月13日	心臓血管センター北海道大野病院研修会「プリセプターシップについて」	看護師	心臓血管センター北海道大野病院	中村 恵子

2) セミナー講師等

開催日・期間	タイトル	主催者	教員名
平成18年4月～ 平成19年3月 計24回	メンタルヘルス研修「ハッピーコミュニケーション研修」	本田技研工業(株)和光健康管理センター	新納 美美
平成18年4月25日	新しいいのちの誕生	北星学園大学	高室 典子
平成18年5月～12月 計8回	こころの健康講座	本田技研工業(株)和光人事ブロック	新納 美美
平成18年5月22日	産後の母親の心と体について	札幌市東区保育・子育て支援センター	高室 典子
平成18年5月26日	職場における心の健康課題－健康職場づくりのための管理職の役割－	本田技研工業(株)和光人事ブロック	新納 美美
平成18年6月13日	自分で守る、自分のからだと命	北海道武蔵女子短期大学	高室 典子
平成18年6月20日	高機能広汎性発達障害学習会 ～基礎知識編～	札幌市立高等看護学院	守村 洋

開催日・期間	タイトル	主催者	教員名
平成18年7月13日	健康管理セミナー「ストレスと上手につきあう法（心の健康講座）」	Honda和光ビル安全衛生協議会 新緑会	新納 美美
平成18年7月15日	産前産後セミナー	北海道ベビーメイト協会	高室 典子
平成18年8月8日	高機能広汎性発達障害学習会 ～事例編～	札幌市立高等看護学院	守村 洋
平成18年9月12日	みんなの心と体	小樽市立桂岡小学校	高室 典子
平成18年9月14日	生きがいがづくりクリエイター養成講座「集団心理」	(財)北海道長寿社会振興財団	守村 洋
平成18年9月24日	老年看護と在宅訪問における対人関係	北海道大学大学院医学研究科	坂倉 恵美子
平成18年10月16日	中央区みんなの講演会「女性が仕事を続けること！健康を維持すること！」	札幌市中央区・中央区連合町内会女性部連絡会議	中村 恵子
平成18年10月21日	土曜講座「看護師・保健師・助産師の仕事の概要と資格の仕組み」	立命館慶祥高等学校	大野 夏代
平成18年10月26日	平成18年度難病ケア研修会「神経難病患者さんの理解と心理的サポート」	留萌保健福祉事務所保健福祉部	菊地 ひろみ
平成18年11月6日	親と子の絆づくりのためのふれあい教室	厚真町子育て支援課	高室 典子
平成18年11月8日	産後の母親のこころとからだ	札幌市豊平区保育・子育て支援センター	高室 典子
平成18年11月19日	出産準備講座「新しい家族を迎える準備」	(株)赤ちゃん本舗 赤ちゃん大学	高室 典子
平成18年12月12日	国家試験対策講座「精神看護」	国立西札幌病院附属札幌看護学校	守村 洋
平成19年1月18日	専門員学習会「精神障がい者に対する各種制度と接し方について」	札幌市地域福祉生活支援センター	守村 洋
平成19年1月20日	精神療養講座「精神障がい当事者への支援～すみれ会との関わり～」	札幌市	守村 洋
平成19年1月23日	楽しく大切な命を育むために（思春期の性教育）	札幌市立星置東小学校PTA	高室 典子
平成19年2月28日	札幌市立高等看護学院 特別講義	札幌市立高等看護学院	中村 恵子
平成19年3月6日	思春期の子を持つ親のための性教育講座	札幌市立あいの里西小学校PTA	高室 典子
平成19年3月13日～14日	認知症を理解する	桑園地区福祉のまち推進センター	清水 光子

6 国際交流

大学間提携

韓国大田市にある又松大学（ウソン大学）と学術交流及び協力に関する基本協定を締結した。
（平成18年6月17日）

7 サテライトキャンパスの利用状況

利用目的	学内利用件数	学外貸出件数	計
セミナー	17	10	27
会議	56	11	67
その他	17	4	21
合計	90	25	115

平成19年度入学者選抜結果

1 入学者選抜要項

1) アドミッションポリシー

<教育研究の理念>

本学は、デザイン学と看護学を教育研究の対象とする。デザイン学と看護学は、いずれも人間を対象とした学問領域であることから、両者に共通する「人間重視」の考え方を常に基本とし、一人の人間から社会全体までを対象に、安全で快適な暮らしを創造できる幅広い教養と豊かな人間性を有する職業人を育成する。市民の負託にこたえ、「市民に開かれた大学」「市民の力になる大学」「市民が誇れる大学」という三つの視点を掲げて、地域貢献という使命を果たしていくため、時代の要請に柔軟に対応しながら質の高い教育研究を追求する。

<教育研究の特長>

デザイン学と看護学それぞれの専門性を極める教育を行うとともに、幅広くデザインと看護の連携を目指す。また、市民、産業界、公的機関などと連携することにより、幅広いネットワークを持った大学とし、地域課題等に対応した教育研究を積極的に展開する。

<デザイン学部の求める学生像>

- 1 人間尊重・人間重視の姿勢を持ち、デザインを通して社会に貢献しようとする姿勢を持った人
- 2 豊かな感性と見識を持って、主体的かつ協同して未来のデザインを創造することに意欲のある人
- 3 デザインを通じ、地域活性化のリーダーとして文化・産業の発展に寄与する意志を持った人

<看護学部の求める学生像>

- 1 人々の健康、心、暮らしに関心を持ち、生命の尊厳を理解しようとする姿勢を持った人
- 2 豊かな感性と探求心を持って、柔軟に物事を考え、自主的・意欲的に学修できる人
- 3 他者と協調し、信頼関係を築くことができ、地域に根ざした医療に貢献する意志と責任感を備えた人

2) 平成19年度入学者選抜概要

入学定員・募集人員

学部・学科名	入学定員	募集人員				
		一般選抜		特別選抜		
		前期日程	後期日程	推薦入学	社会人	私費外国人留学生
デザイン学部 デザイン学科	80人	54人	14人	12人	若干名	若干名
看護学部 看護学科	80人	48人	—	32人	若干名	—

選抜日程

選抜区分		出願期間	試験日	合格発表等
特別選抜	推薦入学 社会人	平成18年 11月1日（水） ～ 11月7日（火）	平成18年 11月25日（土）	平成18年 12月6日（水） 【入学手続期間】 平成18年 12月6日（水）～ 12月12日（火）
	私費外国人留学生（※）	平成19年 1月29日（月） ～ 2月6日（火）	平成19年 2月25日（日）	平成19年 3月8日（木） 【入学手続期間】 平成19年 3月8日（木）～ 3月15日（木）
一般選抜	前期日程	平成19年 1月29日（月） ～ 2月6日（火）	平成19年 2月25日（日）	平成19年 3月8日（木） 【入学手続期間】 平成19年 3月8日（木）～ 3月15日（木）
	後期日程（※）	平成19年 1月29日（月） ～ 2月6日（火）	平成19年 3月12日（月）	平成19年 3月22日（木） 【入学手続期間】 平成19年 3月22日（木）～ 3月27日（火）

（※）は、デザイン学部のみ実施

① 一般選抜募集要項（デザイン学部・看護学部）

試験会場

デザイン学部：札幌市立大学 芸術の森キャンパス

看護学部：札幌市立大学 桑園キャンパス

選抜方法

入学者の選抜は、大学入試センター試験及び本学が実施する個別学力検査等の成績並びに調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。

学部・学科名	学力検査等の 区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等
		教科	科目名等	科目名等
デザイン学部 デザイン学科	前期日程	国 語	「国」（古文・漢文を含む。）	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」のいずれかを選択
		地 歴 公 民	「世A」「世B」「日A」「日B」 「地理A」「地理B」「現社」「倫理」 「政経」から1科目	
		数 学	「数Ⅰ・数A」と「数Ⅱ・数B」 の2科目	
		理 科	「物Ⅰ」「化Ⅰ」「生Ⅰ」「地学Ⅰ」 から1科目	
	後期日程	外国語	「英」（筆記及びリスニング）	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」のいずれかを選択
		国 語	「国」（古文・漢文を含む。）	
		数 学	「数Ⅰ・数A」	
		外国語	「英」（筆記及びリスニング）	
看護学部 看護学科	前期日程	国 語	「国」（古文・漢文を含む。）	面 接
		数 学	「数Ⅰ・数A」	
		理 科	「物Ⅰ」「化Ⅰ」「生Ⅰ」「地学Ⅰ」 から2科目	
		外国語	「英」（筆記及びリスニング）	

② 推薦入学募集要項（デザイン学部・看護学部）

試験会場

デザイン学部：札幌市立大学 芸術の森キャンパス

看護学部：札幌市立大学 桑園キャンパス

選抜方法

学部・学科名	選抜方法
デザイン学部 デザイン学科	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」（いずれかを選択）、面接及び調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
看護学部 看護学科	小論文（看護を学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力を見る。）、面接及び調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。

③ 社会人特別選抜募集要項（デザイン学部・看護学部）

試験会場

デザイン学部：札幌市立大学 芸術の森キャンパス

看護学部：札幌市立大学 桑園キャンパス

選抜方法

学部・学科名	選抜方法
デザイン学部 デザイン学科	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」（いずれかを選択）、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
看護学部 看護学科	総合問題（国語、英語、自然科学、論述）、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。

④ 私費外国人留学生特別選抜募集要項（デザイン学部）

試験会場

札幌市立大学 芸術の森キャンパス

選抜方法

学部・学科名	選抜方法
デザイン学部 デザイン学科	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」（いずれかを選択）、面接、日本留学試験及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。

2 選抜状況

1) 選抜・入学状況

デザイン学部

(単位：人)

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数			入学者数
					一次合格者	追加合格者	計	
一般選抜	前期日程	54	166	165	61	0	61	58
	後期日程	14	186	107	14	0	14	12
特別選抜	推薦入学	12	34	34	12	0	12	12
	社 会 人	若干名	3	3	1	0	1	1
	私費外国人留学生	若干名	0	0	0	0	0	0

看護学部

(単位：人)

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数			入学者数
					一次合格者	追加合格者	計	
一般選抜	前期日程	48	170	164	48	0	48	47
特別選抜	推薦入学	32	64	64	32	0	32	32
	社 会 人	若干名	25	24	3	0	3	3

2) 入学者の内訳

(単位：人)

区分	入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
		道内		道外	男	女
		札幌市内	札幌市外			
デザイン学部	83	45	23	15	27	56
看護学部	82	36	43	3	6	76
合計	165	81	66	18	33	132

附属図書館

1 概要

1) 施設規模

芸術の森キャンパス図書館……… 延べ床面積／1,500㎡

桑園キャンパス図書館…………… 延べ床面積／500㎡

2) 図書・雑誌・視聴覚資料・電子ジャーナル所蔵数

(平成19年3月31日現在)

図書館の名称	図書の冊数		雑誌の種類		視聴覚資料 の所蔵数	電子ジャーナル の種類	計
	和書	洋書	和雑誌	洋雑誌			
芸術の森 キャンパス図書館	50,747冊	6,931冊	246種	39種	2,103点	5種	60,071
桑 園 キャンパス図書館	17,296冊	1,004冊	193種	6種	656点	46種	19,201
合計	68,043冊	7,935冊	439種	45種	2,759点	51種	79,272

3) 年間受入状況

区分			和	洋	計
芸術の森キャンパス図書館	図書 (冊)	購入	4,394	666	5,060
		寄贈	133	25	158
		計	4,527	691	5,218
	雑誌 (種)	購入	37	8	45
		寄贈	4	0	4
		計	41	8	49
桑園キャンパス図書館	図書 (冊)	購入	3,423	300	3,723
		寄贈	175	0	175
		計	3,598	300	3,898
	雑誌 (種)	購入	76	5	81
		寄贈	1	0	1
		計	77	5	82

2 利用状況

1) 開館時間・休館日

開館時間	平 日：午前9時～午後9時 土曜日：午前10時～午後4時 大学の長期休業期間中：午前9時～午後5時
休 館 日	日曜・祝日・年末年始

2) 利用資格

- ① 本学学生及び教職員
- ② 札幌市に在住・在勤する20歳以上の方（館内閲覧のみ）
（平成18年6月19日より両キャンパス図書館を市民に開放）

3) 貸出冊数・期間

利用者	貸出冊数	貸出期間
学部生 （科目等履修生を含む）	10冊	図書：2週間 雑誌：2週間 （製本予定のない雑誌のみ貸出可）
教職員	無制限	図書：2ヶ月間 雑誌：芸術の森キャンパス 1週間 桑園キャンパス 2週間 （製本予定のない雑誌のみ貸出可）

4) 年間利用者数・貸出冊数等

図書館の名称	利用者	開館 日数	入館 者数	貸出 人数	貸出 冊数	ILL件数	
						受付	申込
芸術の森キャンパス 図書館	学生・ 教職員	252	23,103	5,585	10,660	—	—
	市民等 学外者	252	239	—	—	—	—
桑園キャンパス 図書館	学生・ 教職員	262	20,175	3,045	6,231	0	102
	市民等 学外者	262	227	—	—	—	—
合計		—	43,744	8,630	16,891	0	102

ILL：Inter-Library Loan

役員会、経営審議会及び教育研究審議会

1 役員会及び審議会の審議状況

1) 役員会

回数	開催日	議題
第1回	平成18年4月1日	・ 中期目標に関する意見について ・ 業務方法書認可申請について ・ 料金の上限認可申請について ・ 平成18年度予算案について ・ 役員に対する報酬及び退職手当の支給の基準について ・ 役員会規則について ・ 理事の任期等に関する規則について ・ 理事の職務分担に関する規程について
第2回	平成18年6月20日	・ 「公立大学法人札幌市立大学中期計画」について
第3回	平成18年9月22日	・ 平成18年度年度計画について
第4回	平成18年12月1日	・ 学校教育法の一部改正に伴う学則改正について ・ 教職員の給与に関する規程の改正について
第5回	平成19年3月27日	・ 経営戦略について ・ 平成19年度年度計画及び予算案について ・ 教職員の給与に関する規程の改正について

2) 経営審議会

回数	開催日	議題
第1回	平成18年4月1日	・ 中期目標に関する意見について（経営に関するもの） ・ 業務方法書認可申請について ・ 料金の上限認可申請について ・ 学則について（法人の経営に関する部分） ・ 会計規則について ・ 役員に対する報酬及び退職手当の支給の基準について ・ 職員の給与及び退職手当の支給の基準について ・ 平成18年度予算案について ・ 経営審議会規則について
第2回	平成18年6月20日	・ 「公立大学法人札幌市立大学中期計画」について
第3回	平成18年9月22日	・ 平成18年度年度計画について
第4回	平成18年12月1日	・ 学校教育法の一部改正に伴う学則改正について ・ 教職員の給与に関する規程の改正について
第5回	平成19年3月27日	・ 経営戦略について ・ 平成19年度年度計画及び予算案について ・ 教職員の給与に関する規程の改正について

3) 教育研究審議会

回数	開催日	議題
第1回	平成18年4月1日	・ 中期目標に関する意見について（経営に関するものを除く） ・ 料金の上限認可申請について ・ 学則について（法人の経営に関する部分を除く） ・ 平成18年度採用教員について ・ 教育課程の編成に関する方針について ・ 教育研究審議会規則について
第2回	平成18年6月20日	・ 「公立大学法人札幌市立大学中期計画」について
第3回	平成18年9月22日	・ 平成18年度年度計画について
第4回	平成18年12月1日	・ 学校教育法の一部改正に伴う学則改正について
第5回	平成19年3月27日	・ 経営戦略について ・ 平成19年度年度計画及び予算案について ・ 教職員の給与に関する規程の改正について

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学者選抜結果

附属図書館

役員会 経営審議会
及び教育研究審議会

学内委員会活動

資料

2 役員及び審議会委員名簿 (平成19年3月31日現在)

1) 役員

役職	氏名	現職
理事長	原 田 昭	札幌市立大学 理事長・学長
理 事	中 村 恵 子	札幌市立大学 副学長・看護学部長
理 事	横 内 龍 三	(株)北洋銀行 取締役頭取
理 事	金 井 英 明	其水堂金井印刷(株) 代表取締役
理 事	古 田 勝 榮	(財)さっぽろ産業振興財団 専務理事
監 事	小 寺 正 史	弁護士
監 事	山 崎 駿	公認会計士

2) 経営審議会委員

氏名	現職
原 田 昭	札幌市立大学 理事長・学長
中 村 恵 子	札幌市立大学 副学長・看護学部長
横 内 龍 三	札幌市立大学 理事
古 田 勝 榮	札幌市立大学 理事
菊 嶋 明 廣	札幌商工会議所 常務理事・事務局長
谷 紘 子	(財)札幌市芸術文化財団 専務理事
平 本 健 太	北海道大学大学院経済学研究科 助教授
山 岸 正 美	(株)マーケティング・コミュニケーション・エルグ 代表取締役
若 山 登 美 子	(社)北海道看護協会 会長
池 田 捨 成	札幌市立大学 事務局長

3) 教育研究審議会委員

氏名	現職
原 田 昭	札幌市立大学 理事長・学長
中 村 恵 子	札幌市立大学 副学長・看護学部長
金 井 英 明	札幌市立大学 理事
大 田 す み 子	(社)日本看護協会 北海道地区理事
丹 羽 祐 而	札幌市教育委員会 委員長
吉 田 恵 介	札幌市立大学 デザイン学部長
武 邑 光 裕	札幌市立大学 附属図書館長・デザイン学部教授
池 田 捨 成	札幌市立大学 事務局長

学内委員会活動

1 委員会活動状況

1) 企画委員会

① 年間活動概要

企画委員会は平成18年度に計10回の委員会を開催し、広報をはじめ、紀要、学術情報・情報基盤、図書館、研究費、外部資金、知的財産、産学公連携、国際交流等に関わる幅広い事項について審議を行った。また、審議事項が広範なことから、当委員会の中に広報専門部会、図書・情報専門部会、研究・連携専門部会の三つの下部組織を設け、それぞれの部会が専門的に検討を行い、本年度は審議事項に関わる諸規程の整備をはじめ、様々な取り組みを具体化する上で必要となる方針等を作成した。

② 委員会開催状況

第1回		第2回	
開催日	平成18年4月12日	開催日	平成18年5月2日
議 題	・企画委員会の規定・審議事項について ・専門部会の設置及び委員の選任について	議 題	・入学生アンケートの実施について
第3回		第4回	
開催日	平成18年5月24日	開催日	平成18年7月27日
議 題	・委員会、専門部会の進め方について ・入学生アンケートの実施について ・又松大学との提携について	議 題	・図書館の現状と課題について ・サテライトキャンパスの企画について ・入学生アンケートについて ・施設・備品整備について
第5回		第6回	
開催日	平成18年8月29日	開催日	平成18年9月19日
議 題	・施設・備品整備について ・研究倫理規程について ・研究倫理審査委員会規程について ・研究倫理審査要領について ・研究論文投稿要領について ・産学連携公開講座について	議 題	・情報倫理規程等について ・研究交流会について
第7回		第8回	
開催日	平成18年11月29日	開催日	平成18年12月25日
議 題	・総務委員会からの依頼事項について ・漢城大学との連携について ・外部資金に係る研究について	議 題	・ロゴ・レギュレーションについて ・国際交流事業の方針について ・生涯学習事業の方針について ・知的財産ポリシー及び知的財産規程について

第9回		第10回	
開催日	平成19年1月24日	開催日	平成19年2月27日
議 題	・ 知的財産関連規程の策定について ・ 研究協力者への謝金について ・ 国際交流協定に関する基本方針の策定について	議 題	・ 知的財産関連規程の策定について ・ 「国際交流協定に関する基本方針」の策定について ・ ライブラリーシアター・スタジオの整備について

2) 総務委員会

① 年間活動概要

総務委員会は平成18年度に12回の委員会を開催し、個人情報保護及びキャンパス・ハラスメントに関する規程を整備したほか、防災計画や危機管理マニュアルの作成を行った。また、FD研修会や救急蘇生法講習会などを企画・実施したほか、年度後半には全学的な施設・備品整備について要望の取りまとめを行った。

このほか、開学初年度の特別行事として実施した「開学記念行事」の企画・運営を行った。

② 委員会開催状況

第1回		第2回	
開催日	平成18年4月26日	開催日	平成18年5月24日
議 題	・ 総務委員会の審議事項について ・ 個人情報保護について ・ FDについて ・ 開学記念式典について	議 題	・ 個人情報保護ポリシーについて ・ 教職員向け研修について
第3回		第4回	
開催日	平成18年6月28日	開催日	平成18年7月26日
議 題	・ 個人情報保護ポリシーについて ・ FD研修について ・ 防災計画について	議 題	・ 個人情報保護方針について ・ キャンパス・ハラスメントについて ・ 救急蘇生法講習会について
第5回		第6回	
開催日	平成18年9月13日	開催日	平成18年10月11日
議 題	・ 防災訓練について ・ 施設・備品について ・ ハラスメントについて	議 題	・ 施設・備品について ・ 学部FD研修会申請について
第7回		第8回	
開催日	平成18年10月25日	開催日	平成18年11月22日
議 題	・ FD (SD) 研修会 (キャンパス・ハラスメント) について ・ 学部FD研修会申請について ・ ハラスメント規程等について ・ 施設・備品について	議 題	・ 学内・学部FD研修会申請について ・ ハラスメント規程について ・ 施設・備品 (総務委員会分) について ・ 科目等履修生、聴講生の入学検定料、入学科について

第9回		第10回	
開催日	平成18年12月13日	開催日	平成19年1月24日
議 題	・施設・備品について ・ハラスメント規程について	議 題	・施設・備品について ・ハラスメント規程について
第11回		第12回	
開催日	平成19年2月28日	開催日	平成19年3月14日
議 題	・キャンパス・ハラスメント防止ガイドラインについて ・平成19年度入学式について ・危機管理基本マニュアルについて ・学内施設の有効利用について	議 題	・キャンパス・ハラスメント防止ガイドラインについて ・危機管理基本マニュアルについて ・次年度申し送り事項について

③ FD研修会の実施

開催日	タイトル	講師	対象者及び参加人数
平成18年6月19日	高等教育と第三者評価	天野 郁夫 (東京大学名誉教授)	全学 (60名)
平成18年7月19日	領域別看護学の構築	学内	看護学部 (34名)
平成18年9月29日	医療技術系教育におけるOSCEの導入について	阿部 和厚 (北海道医療大学教授)	看護学部 (30名)
平成18年10月18日	基礎看護学領域における演習・実習のすすめかたと修得技術項目について	学内	看護学部 (25名)
平成18年11月15日	キャンパス・ハラスメントとは?	田村 信一 (北星学園大学副学長)	全学 (59名)
平成18年11月16日	入試における面接評価の客観性とスキルについて	山岸 みどり (北海道大学教授)	看護学部 (27名)
平成18年12月26日	iLife'05によるマルチメディアコンテンツ作成講習	学内	全学 (18名)

④ 救急蘇生法講習会の実施

開催日	会場	参加人数
平成18年9月5日	札幌市立大学桑園キャンパス	26名
平成18年9月7日	札幌市立大学芸術の森キャンパス	25名

3) 教務・学生委員会

① 年間活動概要

開学初年度にあたり、共通教育、デザイン・看護の専門教育に関する事項及び学生生活、課外活動支援に関する事項について、年度計画を見据え、かつ実際の授業運営等に則して必要な制度を整備した。

具体的には、年間22回の開催のなかで、学事暦、時間割、シラバス及び定期試験等に関する事、奨学金、大学祭等に関する事及び授業評価アンケートに関する事などについて議論を重ね、教務及び学生生活に関する基盤を構築した。

② 委員会開催状況

第1回		第2回	
開催日	平成18年4月4日	開催日	平成18年4月20日
議 題	・ 授業料減免 ・ 既修得単位の認定 ・ 入学式 ・ 新入生ガイダンス ・ オリエンテーション ・ 授業運営（履修登録・出欠）	議 題	・ 健康診断 ・ 桑園キャンパス見学 ・ 芸術の森キャンパスオリエンテーション
第3回		第4回	
開催日	平成18年4月26日	開催日	平成18年5月10日
議 題	・ 既修得単位の認定 ・ 芸術の森キャンパス周辺の喫煙について ・ 大学祭準備委員会設置に向けた動向について ・ 学生団体の活動について ・ 授業料減免・日本学生支援機構奨学金について	議 題	・ 既修得単位の認定 ・ 定期試験の実施時間について ・ オープンキャンパス日程等について ・ 看護初期実習期間の共通教育科目の休講について ・ 5月1日～2日オリエンテーション報告 ・ TOEICについて ・ 履修登録結果について ・ 来年度学事暦について ・ 来年度大学祭実施日程について ・ 高校訪問について ・ 今年度大学祭について
第5回		第6回	
開催日	平成18年5月18日	開催日	平成18年5月24日
議 題	・ 平成18年度前期授業料減免対象者について ・ 平成18年度日本学生支援機構奨学生について ・ オープンキャンパスについて	議 題	・ 科目等履修生の受け入れについて ・ 定期試験について ・ 北洋銀行との提携ローン概要 ・ 来年度の授業スケジュールについて ・ 大学祭の準備について ・ 共通教育科目の休講について

第7回		第8回	
開催日	平成18年6月14日	開催日	平成18年6月28日
議 題	・ 定期試験について ・ 前期の成績評価について ・ 大学祭の準備状況について ・ 科目等履修生の募集について ・ オープンキャンパスについて ・ エクステンションの実施について ・ 教室内の飲食について	議 題	・ 定期試験について（不正があった場合や遅刻者の扱い、障がいのある学生の特別措置など） ・ 成績評価について（成績照会制度など） ・ 科目等履修生の募集について ・ 平成19年度学事暦について ・ 授業変更届について
第9回		第10回	
開催日	平成18年7月12日	開催日	平成18年7月26日
議 題	・ 定期試験及び成績評価について ・ 授業評価アンケートについて ・ 平成19年度学事暦について ・ 科目等履修生の募集について ・ 施設・備品整備計画について ・ 後期授業担当教員について ・ 大学祭の実施について	議 題	・ 定期試験及び成績評価について ・ 授業評価アンケートについて ・ 後期の科目運営について ・ クラス編成について ・ 平成19年度学事暦について ・ 施設・備品整備計画について ・ 科目等履修生の募集について ・ オープンキャンパスアンケート結果について
第11回		第12回	
開催日	平成18年8月9日	開催日	平成18年9月13日
議 題	・ 後期ガイダンスについて ・ 芸術の森キャンパスの設備・備品整備計画について	議 題	・ 後期科目のクラス編成について ・ 「D」評価について ・ 学事暦について ・ 再履修について ・ 後期科目の変更点について ・ 科目等履修生の選考について ・ 授業評価の結果について ・ ガイダンスの実施について ・ 各種証明書の発行について
第13回		第14回	
開催日	平成18年9月20日	開催日	平成18年10月11日
議 題	・ 後期共通教育科目について	議 題	・ 学事暦について ・ 前期の成績について ・ 奨学金の追加採用について ・ オープンキャンパスアンケート結果について

第15回		第16回	
開催日	平成18年11月1日	開催日	平成18年11月8日
議 題	・学事暦について ・時間割について ・科目担当者について ・シラバスの作成について ・履修希望アンケートについて	議 題	・学事暦について ・時間割について ・シラバス作成ガイドについて ・後期授業料減免について ・D評価について ・スタートアップ演習検討結果について ・基礎看護学臨地実習Ⅰについて（再試験等の配慮） ・施設・備品整備計画について ・科目等履修生の継続について
第17回		第18回	
開催日	平成18年11月22日	開催日	平成18年12月13日
議 題	・時間割について ・学事暦について ・オープンキャンパス日程について ・編入学試験について ・トレーニング室について	議 題	・時間割及び非常勤講師の配置について ・シラバスについて ・科目等履修生の継続について ・平成19年度の保健室の体制について ・平成19年度のカウンセリング体制について ・アリーナ管理者の選任について ・吹奏楽部の創設及び楽器の借用について ・学生向け年金セミナーの実施について ・後援会発足の動向について ・芸術の森キャンパス設備等の整備方針について
第19回		第20回	
開催日	平成19年1月11日	開催日	平成19年1月24日
議 題	・看護学部助手の授業参加について ・看護学部定期試験過去問題の蓄積について ・時間割及び非常勤講師の配置について ・科目等履修生及び聴講生の募集について ・後期定期試験の実施について ・単位互換について ・後期授業評価について ・年度計画の進捗状況について ・平成19年度北海道進学コンソーシアムの活動について ・推薦入試合格者への入学前の課題について	議 題	・看護学部助手の授業参加について ・看護学部定期試験過去問題の蓄積について ・シラバスについて ・時間割及び非常勤講師の配置について ・来年度担当教員について ・学部連携演習の方針検討について ・科目等履修生及び聴講生の募集について ・後期定期試験時間割について ・留学生の受け入れ体制について ・D評価の扱いについて ・授業評価アンケートについて ・後援会の発足について

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学
者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

学内委員会活動

資料

第21回		第22回	
開催日	平成19年2月14日	開催日	平成19年3月2日
議 題	・平成19年度シラバス案について ・時間割及び非常勤講師の配置について ・来年度履修予定科目調査について ・D評価について ・再履修の緩和措置について ・優秀な学生の認定について ・編入学の取扱いについて ・学生の懲戒に関する申し合わせについて ・科目等履修生及び聴講生の出願状況について ・授業評価アンケートについて ・学生ハンドブックについて	議 題	・時間割及び非常勤講師の配置について ・D評価の取り扱いについて ・優秀な学生について ・編入学の既修得単位の認定について ・オープンキャンパス日程について ・懲戒に関する申し合わせについて ・アリーナの部室設置について ・シラバス及びハンドブックについて

4) 入試委員会

① 年間活動概要

開学初年度となる平成18年度は、全8回の委員会を開催した。

主な活動として、入学者受け入れの基本方針となる札幌市立大学アドミッションポリシーを策定し、本学の教育研究内容及び求める学生像について周知を図った。また、入学者選抜試験を公平・公正に実施するため、実施要領の作成等、所要の整備を行った。

② 委員会開催状況

第1回		第2回	
開催日	平成18年4月26日	開催日	平成18年5月26日
議 題	・平成19年度入学者選抜について ・アドミッションポリシーの策定について	議 題	・平成19年度入学者選抜要項について
第3回		第4回	
開催日	平成18年8月30日	開催日	平成18年10月4日
議 題	・アドミッションポリシーの策定について ・平成19年度特別選抜学生募集要項について	議 題	・平成19年度一般選抜学生募集要項について
第5回		第6回	
開催日	平成18年10月17日	開催日	平成18年11月16日
議 題	・平成19年度特別選抜試験実施要領について	議 題	・平成19年度特別選抜試験実施要領について ・大学入試センター試験への従事について ・平成20年度入試実施日程について
第7回		第8回	
開催日	平成19年1月25日	開催日	平成19年2月13日
議 題	・平成19年度一般選抜試験実施準備について	議 題	・平成19年度一般選抜試験実施要領について

5) 大学院設置特別委員会

① 年間活動概要

大学院設置特別委員会は平成18年度に計9回の委員会を開催し、大学院の設置形態はじめ、基本組織、設置時期等について審議を行った。

本年度は大学院設置の基本的な考え方を整理するとともに、本学の特長の一つであるデザインと看護の連携を含めて検討し、デザイン学部、看護学部をそれぞれ基礎に二つの研究科を設置し、博士課程までの設置をも視野に入れた大学院構想第4次案を作成した。

② 委員会開催状況

第1回		第2回	
開催日	平成18年6月1日	開催日	平成18年7月12日
議 題	・大学院設置に向けた今後の進め方等について	議 題	・大学院の設置時期について ・大学院の設置形態について ・大学院計画に関する検討体制について
第3回		第4回	
開催日	平成18年9月6日	開催日	平成18年10月4日
議 題	・大学院の設置形態について ・大学院基本構想の策定について	議 題	・大学院の設置形態について ・基本構想策定のための基礎調査の実施について
第5回		第6回	
開催日	平成18年11月22日	開催日	平成18年12月27日
議 題	・基本構想（案）の策定について	議 題	・基本構想（案）について ・今後の進め方 ・研究科間の連携等
第7回		第8回	
開催日	平成19年1月24日	開催日	平成19年3月6日
議 題	・大学院構想第2次案について ・研究科間の連携等 ・今後の進め方	議 題	・大学院構想第3次案について ・研究科間の連携等 ・今後の進め方
第9回			
開催日	平成19年3月27日		
議 題	・大学院構想第4次案について ・今後の進め方		

6) 教員評価制度特別委員会

① 年間活動概要

教員評価制度特別委員会は平成18年度に6回の委員会を開催し、公立大学法人札幌市立大学の中期目標にも定められているとおり、教員が行う教育研究活動を活性化させるために、教育、研究、学内運営、地域貢献等に関する評価制度の検討を進め、試行案を作成した。

② 委員会開催状況

第1回		第2回	
開催日	平成18年8月2日	開催日	平成18年11月8日
議 題	・意見交換 ・今後の進め方について	議 題	・意見交換 ・今後の進め方について
第3回		第4回	
開催日	平成18年12月10日	開催日	平成19年1月12日
議 題	・教員評価制度素案の検討	議 題	・教員評価制度素案の検討
第5回		第6回	
開催日	平成19年2月14日	開催日	平成19年3月7日
議 題	・教員評価制度素案の検討	議 題	・教員評価制度素案の検討

7) 自己点検・評価委員会

① 年間活動概要

自己点検・評価委員会は平成18年度に計6回開催し、自己点検・評価に関する事項と第三者評価（認証評価）に関する事項について審議を行った。

当委員会では、第1回目の本学の認証評価を（財）大学基準協会で受けることとし、具体の自己点検・評価の実施をはじめ、点検・評価のための基礎データの収集・蓄積について認証評価の実施を視野に入れながら進めていくこととした。

② 委員会開催状況

第1回		第2回	
開催日	平成18年10月25日	開催日	平成18年11月8日
議 題	・自己点検・評価及び認証評価の概要について ・今後のスケジュールについて	議 題	・自己点検・評価に係る基本項目及び評価基準について
第3回		第4回	
開催日	平成18年12月7日	開催日	平成19年1月10日
議 題	・自己点検・評価に係る基本項目及び評価基準について	議 題	・自己点検・評価の実施を想定した認証評価機関の選定について
第5回		第6回	
開催日	平成19年2月22日	開催日	平成19年3月14日
議 題	・認証評価機関の決定について（報告） ・今後の進め方等について	議 題	・平成18年度自己点検・評価委員会まとめ ・「基礎データ」の作成について ・教員の教育・研究業績について

2 委員会委員名簿

区分		委員会名	委員名	
			教職員名	所属・職位等
学内委員会	常置委員会	企画委員会	○武 邑 光 裕 酒 井 正 幸 吉 田 和 夫 羽 深 久 夫 坂 倉 恵 美 子 清 水 光 子 佐 藤 公 美 子 星 美 和 子	附属図書館長・デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部助教授 看護学部教授 看護学部助教授 看護学部講師 看護学部講師
		総務委員会	○中 村 恵 子 城 間 祥 之 細 谷 多 聞 大 淵 一 博 宮 崎 み ち 子 大 野 夏 代	副学長・看護学部長 デザイン学部教授 デザイン学部助教授 デザイン学部講師 看護学部教授 看護学部助教授
		教務・学生委員会	○吉 田 恵 介 齋 藤 利 明 杉 哲 夫 原 俊 彦 河 野 總 子 守 村 洋 渡 邊 由 加 利	デザイン学部長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 看護学部教授 看護学部助教授 看護学部講師
		入試委員会	○齋 藤 利 明 細 谷 多 聞 坂 倉 恵 美 子 樋 之 津 淳 子	デザイン学部教授 デザイン学部助教授 看護学部教授 看護学部教授
	特別委員会	大学院設置特別委員会	○中 村 恵 子 吉 田 恵 介 武 邑 光 裕	副学長・看護学部長 デザイン学部長 附属図書館長・デザイン学部教授
		教員評価制度特別委員会	○吉 田 恵 介 中 村 恵 子 武 邑 光 裕 原 俊 彦 河 野 總 子 松 浦 和 代	デザイン学部長 副学長・看護学部長 附属図書館長・デザイン学部教授 デザイン学部教授 看護学部教授 看護学部教授

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学
者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

学内委員会活動

資料

区分		委員会名	委員名	
			教職員名	所属・職位等
学内委員会	特別委員会	自己点検・評価委員会	○中村 恵子 城間 祥之 細谷 多聞 大渕 一博 宮崎 みち子 大野 夏代	副学長・看護学部長 デザイン学部教授 デザイン学部助教授 デザイン学部講師 看護学部教授 看護学部助教授
	衛生委員会	芸術の森地区衛生委員会	○阿 部 大 石崎 友紀 松井 美穂 浜本 淳二 藤島 亮一 大西 章博	事務局総務課長 デザイン学部教授 デザイン学部講師 産業医 事務局総務課庶務係長 事務局総務課人事担当係長
		桑園地区衛生委員会	○石川 豊治 保田 玲子 照井 レナ 浜本 淳二 木田 敏郎 大西 章博	事務局桑園事務室長 看護学部講師 看護学部助手 産業医 事務局桑園担当課学生支援係長 事務局総務課人事担当係長
学部委員会	デザイン学部	教務委員会	○齋藤 利明 上遠野 敏 原 俊彦 矢部 和夫 大渕 一博 片山 めぐみ	デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部助教授 デザイン学部講師 デザイン学部助手
		学生支援委員会	○杉 哲夫 田中 敏明 張 浦華 羽深 久夫 細谷 多聞 三谷 篤史	デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部助教授 デザイン学部助教授 デザイン学部助教授 デザイン学部講師
	看護学部	教務委員会	○宮崎 みち子 大野 夏代 高室 典子 新納 美美 藤井 瑞恵 多賀 昌江	看護学部教授 看護学部助教授 看護学部講師 看護学部講師 看護学部講師 看護学部助手

区分		委員会名	委員名	
			教職員名	所属・職位等
学部委員会	看護学部	学生支援委員会	○樋之津 淳子	看護学部教授
			清水 光子	看護学部助教授
			菊地 ひろみ	看護学部講師
			神島 滋子	看護学部助手
			塚辺 繭子	看護学部助手
			福島 真里	看護学部助手

○印：委員長

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学
者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

学内委員会活動

資料

資 料

1 中期計画

公立大学法人札幌市立大学は、デザイン学部と看護学部を有する札幌市立大学を設置・管理運営する上での目標である中期目標を達成するために、次のとおり中期計画を策定する。

第1 中期計画の期間

中期計画の期間は、平成18年4月1日から平成24年3月31日までの6年間とする。

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置（住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置）

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育成果に関する目標を達成するための措置

- ア 将来の職業人としての自覚・責任の涵養を基礎として、専門分野の枠を超えて共通に求められる知識等を養うとともに、それぞれの専門分野に求められる知識・技術等を体系的に養う。
- イ インターンシップによる就業体験、医療機関等の実習、起業（アントレプレナーシップ）に対応した教育など実践的な能力を養う。
- ウ 産業界、保健・医療・福祉機関、大学、行政等と連携した教育を行うとともに、本学の持つ様々な知的資源を地域に還元する仕組みをつくり、市民文化の向上やまちづくりに幅広く貢献する。
- エ 学生による授業評価アンケートを平成18年度から導入するほか、卒業生からの情報収集、追跡調査等多様な方法により、教育の成果・効果を客観的に幅広く検証する方策を整備する。

(2) 教育内容に関する目標を達成するための措置

ア 入学者選抜

- (ア) 本学の教育理念に基づき使命感及び勉学意欲を持った学生を確保するため、明確な入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を策定・公表する。
- (イ) アドミッション・ポリシーに基づき、一般選抜、推薦入学、社会人及び私費外国人留学生選抜を実施するほか、AO（アドミッション・オフィス）入試等多様な選抜方法の導入を検討する。
- (ウ) 平成20年度から3年次編入学を実施するなど、より高度な学習ニーズに対応する方策を整備する。
- (エ) 入学者選抜方法の事後評価を継続的に行い、次年度以降の入学者選抜方法の改善・充実を図る。
- (オ) 上記事項を機動的・専門的に実施するため、平成18年度に教職員で構成するアドミッションセンター等の専門組織を設置する。

イ 教育課程

- (ア) 共通教育科目においては、「日本語表現法」、「プレゼンテーション」、「情報リテラシー」等専門分野の枠を超えて共通に求められる知識、思考法等の知的な技法などが身に付くよう教育課程を編成する。また、デザイン学部と看護学部の学生が共に学習することによって、両学部の交流を深めるとともに、「スタートアップ演習」を始め、異なる分野を志す学生が

互いの発想に触れることにより、広い視野を持つことができるよう教育課程を編成する。

- (イ) 各学部は当該学部の共通教育の位置付けを明確にし、共通教育と専門教育の体系性を考慮しながら、早期から専門教育を履修する教育課程を編成する。
- (ウ) 「学部連携演習」など学部間の有機的な連携による授業を展開することにより、学生の専門性を拡充し、もって専門教育の充実を図る。
- (エ) 他大学との連携による単位互換、入学前・後の他大学等における取得単位の認定など単位制度の柔軟な運用について具体的な充実策を検討し、順次、整備・拡充する。
- (オ) 「スタートアップ演習」や「学部連携演習」では地域社会や学外機関と連携したフィールドワーク、調査研究等実践的な授業を展開するほか、寒冷地の長を生かした「寒冷地デザイン」、「寒冷地医療」など、地域をテーマとした教育を進める。

ウ 教育方法及び履修指導方法

(ア) 2キャンパス

- a 両学部の学生が合同で学ぶ共通教育科目は「芸術の森キャンパス」で行い、専門教育科目はデザイン学部の学生は「芸術の森キャンパス」、看護学部の学生は「桑園キャンパス」で実施する。共通教育科目を受講する看護学部の学生が、同日中に2つのキャンパス間を移動することのないよう共通教育科目の教育課程及び時間割編成に配慮する。
- b 図書の検索、貸出し・返却はどちらの図書館においても行えるようにする。
- c 遠隔授業の増加及びeラーニング等による芸術の森と桑園キャンパスとの間のネットワーク上の情報量の増加に合わせ、適正な情報システムの拡張を図る。

(イ) 多様な授業・履修形態

- a 学問分野の特性に応じ、講義・演習・実習等の授業形態を組み合わせた教育を行うとともに、必要に応じて、多様なメディア機器等の活用、セミナー、討論、プレゼンテーション、現地調査などを実施する。
- b 社会人学生ニーズ等に対応し、科目等履修生制度、聴講生制度、研究生制度、特別聴講生制度を導入するとともに、長期履修学生制度等の導入について検討する。

(ウ) 実践的な授業の重視

- a デザイン関連企業・団体、保健・医療・福祉関係機関等社会の多様な組織と連携したインターンシップ・学外実習、臨地実習等を行い、より実務的な経験を得る機会の拡充を図る。
- b 豊富な実務経験を持つ専任教員や企業人等の非常勤講師を活用するなど職業人育成のため実学の充実を図る。
- c 専門知識と高度な技術を系統的に学習できるように体系付け、演習と実習を多く取り入れた教育課程を編成するなど職業人育成に即した授業を行う。

(I) 履修指導方法

- a シラバスは、学習到達目標が明確になるように作成し、ホームページ等で公開する。また、学生の意見を聴取するなどして一層の質的充実を図る。
- b 全教員を対象として、各分野におけるFD（ファカルティ・ディベロップメント）を効果的に実施し、教育方法の継続的な改善を図る。
- c 学生の段階的かつ効果的な履修と学業のきめ細やかな支援を可能とするセメスター制を実施する。
- d 多様化する学生の資質・学力に対応して共通教育科目を充実・強化するとともに、必要

に応じてリメディアル教育（補完授業）の導入を検討する。

- e 履修科目の過剰登録を防ぐ登録単位の上制限など単位の実質化のための措置を講じる。
- f 大学院設置後には、演習・実習等におけるTA（ティーチング・アシスタント）制度を導入するとともに、少人数教育、習熟度別クラス、eラーニング、遠隔授業等個々の学生に見合った指導・教育を可能にする多様な授業形態や制度を整備する。
- g 将来の進路に沿って適切に科目を履修できるよう、具体的な履修モデルを提示するとともに継続的な改善・工夫を図る。

エ 学生の成績評価

- (ア) 教育課程に適した公平かつ適切な成績評価を可能とする基準を設定する。
- (イ) 教育課程における目標の達成度の評価方法、各科目の年度ごとの評価の整合性等を継続的に検討し、成績評価制度の充実・改善を図る。
- (ウ) 成績評価基準の周知徹底を図るため、評価基準をシラバス、ホームページ等で公開する。
- (エ) 成績評価を用いた優秀な学生に対する奨学金制度を検討するほか、表彰制度の整備、充実を図り、学生の研究・学習意欲を高める。
- (オ) 学生からの成績評価に対する照会等の窓口を設置する。

(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

ア 適正な教員の配置

- (ア) 学部の完成年次である平成21年度まで順次教員を採用し、教員組織を完成させる。その間に教育に関する目標を達成するため、授業科目や教育課程の見直しが行われた場合には、求められる教員の資質、研究実績等を把握し、必要に応じ教員組織を見直す。
- (イ) 大学院整備等で新たに必要となる教員を採用する場合には、将来的な教員の年齢構成等にも配慮する。
- (ウ) 平成19年度に実施される学校教育法の改正に対応し、准教授並びに助教及び助手の適切な任用及び配置を行う。
- (エ) 教育現場と実務の積極的な交流により教育研究の充実を図るため、客員教授、特任教授、臨地教授等の制度を導入する。
- (オ) 教育効果を上げるため、授業形態、受講者数等に応じてTA制度を導入する。

イ 教員の資質の維持向上

次の取組を開学初年度から順次実施する。

(ア) FDの実施体制

FDについては、専任教員の代表により構成するファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「FD委員会」という。）を設置し、当該委員会を中心に行う。

(イ) 授業開始前の対応

- a 各教員が、授業内容・方法を決定するに当たり、大学・学部の教育上の目的、育成する人材像、各授業科目の教育目標・位置付け、他の授業科目との接続関係等について理解するために、これらの事項に関する学長、学部長等による研修等を行う。
- b 大学での授業が未経験の教員に対しては、大学における教育制度の基本的な枠組みを理解させるために、FD委員会により、学校教育法等に係る研修を行う。
- c 教員が作成するシラバスについて、FD委員会において、その記載項目、記載方法等に関する一定のルールを作成し、希望する教員に対して、記載方法等の指導・助言を行う。

(ウ) 授業開始後の対応

学生による授業評価アンケートや教員相互の授業参観を実施し、その結果を教員にフィードバックすることにより、授業の内容及び方法の改善に役立てる。

(エ) その他の研修及び研究

FDに関する講演会の開催、FDに関する意見、情報等の交換を行う場の設定、FDに関する研究会、研修会等への教職員の派遣等の取組を行う。

ウ 教育環境の整備

(ア) 札幌市立高等専門学校及び札幌市立高等看護学院が使用しなくなる施設・設備の効果的な転用を図るため、教職員による施設利用の委員会を組織し、計画的な施設整備・改修を進める。

(イ) 施設利用の点検・評価を行い、産学連携等に資する研究・実験スペースを確保するとともに、共用スペースや福利厚生施設の効果的で効率的な運用を図る。

(ウ) 学年進行に合わせ、専門教育に必要な教育研究システムや情報機器を整備するとともに、多様な授業形態を支援するために、平成18年度からeラーニングシステム、遠隔授業システム等を導入する。

(エ) 備品・図書等整備のために教職員による委員会を組織し、年次整備計画の着実な実施を進めるとともに、毎年度、見直し等の計画調整を行い、良好な教育研究環境を整備する。

(オ) 図書等の整備は、札幌市立高等専門学校からの移管図書約30,100冊、札幌市立高等看護学院からの移管図書約5,400冊に開学準備に揃えた約5,900冊の図書に加え、平成18年度には約6,500冊、平成19年度には約7,400冊を整備する。それ以降も図書や視聴覚資料、雑誌、電子ジャーナル等の充実を図る。

(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

ア 学習支援及び学生生活支援

(ア) 学生の修学・進路・生活及び心身の健康等にわたる各種相談等に教員が直接かつ柔軟に対応する体制を設ける。

(イ) 学生のメンタルヘルス、生活相談等、学生生活全般（ハラスメント対策を含む。）を支援する体制を充実する。特に、平成18年度から専門的な職員を配置するなど学生の心身の健康の保持増進とカウンセリングのための機能強化を検討する。

(ウ) 学生の意見・要望を反映させるため、学生支援委員会などを設置し、学生に対するアンケート等を通じて、学生生活の実態や意向を把握しながら、学生生活を充実させる。

(エ) 学生の自主的学習、課外活動などを支援するため、自家用車による通学ができるよう駐車場の整備について検討する。

(オ) 豊かなキャンパスライフを送るため、課外活動の活性化を支援するとともに、課外活動施設・設備の充実を図る。また、食堂・売店等の福利厚生施設等を充実させる。

(カ) 就職情報の収集・提供を一元化し、進路相談に応じる窓口を設置するとともに、学生の就職に関する戦略を構築し、キャリア教育、インターンシップ、就職ガイダンス等を充実するなど積極的に就職活動を支援する委員会などの校内体制を平成20年度までに整備する。

(キ) 行政、地元の企業や関係機関・団体と連携した学生の就職支援体制の整備を推進する。

(ク) 経済的理由により修学の継続が困難な学生に対する授業料の減免等、学生納付金の減免制度を整備する。あわせて、各種奨学金制度の活用を支援するほか、多様な奨学金制度の創設について検討する。

(ケ) 後援会・同窓会等の組織を設け、これらと連携し、学生生活の充実を図る。

イ 留学生及び障がいのある学生に対する支援

(ア) 留学生に対する生活環境の向上のための各種支援、相談指導、地域社会との交流等を支援する。

(イ) 障がいのある学生に対する修学上の支援と相談体制を構築する。また、必要に応じて設備・機器によるバリアフリー支援も併せて実施する。

2 研究に関する目標を達成するための措置

(1) 研究の方向性、研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置

ア 目指すべき研究の方向性

(ア) デザイン学部については、産業や芸術・文化の振興、都市機能・都市景観の向上等に寄与する研究を行う。

(イ) 看護学部については、看護の基礎的な研究に加え、地域看護の充実及び市民の健康の保持増進に寄与する研究を行う。

(ウ) 環境、健康、生活、情報等をキーワードに両学部の共同研究に積極的に関わり、保健・医療・福祉分野を対象とするデザインや看護等新しい研究領域の開拓を目指す。

(エ) 自主研究に加えて、期間を限った受託・共同型の研究に関わり、特に競争的外部研究費を導入した学内外で行う特徴あるプロジェクト型研究を推進する。

イ 研究の水準及び研究成果

(ア) 研究者を受け入れやすい環境（客員研究員・研修員制度、研修派遣制度等）を整備し、国内外の大学や研究機関及び民間企業等との研究者の人事交流を推進する。

(イ) 大学の知を社会に還元するために、公開講座、研究会、講演会等の開催や広報活動を積極的に行う。

(ウ) 研究成果は紀要に掲載するとともに、教員一覧、研究内容の紹介等の情報をホームページ等において公開する。また、国内外を対象とした大学の教育・研究に関わる広報を充実させる。

(エ) 産業界等との連携を深め、共同研究等を推進する体制を整備するとともに地域課題に対応した研究を促進する。

(オ) 研究成果を教育課程にフィードバックすることにより、教育課程の一層の充実を図る。

(カ) 研究成果は定期的に自己点検・評価、外部評価を行い、研究活動の検証体制を整備する。

(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置

ア 研究費

(ア) 個人研究費については、固定的に配分する資金以外に、職業人の育成に資する教育にフィードバックできる研究、地域貢献やデザインと看護の連携に資する研究等大学において重点的に取り組むべき研究等に研究費を厚く配分し、中期目標の達成及び中期計画・年度計画の遂行を確保するために、教員からの申請等に基づき、学長等の判断により配分先を決定できる資金を、平成18年度に設ける。

(イ) 平成22年度をめぐり、教員が行う教育、研究、学内運営、地域貢献等の業績を評価する制度を導入するとともに、その評価の結果を研究費に反映させることとし、研究環境の向上のための研究資金獲得に対するインセンティブを与える。

(ウ) 共同研究費については、平成18年度から、地域貢献に資する共同研究に重点的に配分するとともに、そのうちの一定部分について、デザインと看護の連携に関する教員の共同研究の

ための研究費とし、デザインと看護の連携に関する研究を推進する。

イ 研究の実施体制

(ア) 附属研究所（地域連携研究・支援センター）

地域社会への貢献を具体的に展開するために、平成19年度以降に附属研究所（地域連携研究・支援センター）を設置することとし、以下のような機能を整備する。また、こうした機能や取組を効果的に進めるために、平成18年度中にネットワークの拠点となる都心部サテライト施設を設置し、リエゾンオフィス機能を設ける。

a 産学公連携の促進機能

地元企業や他大学等との共同研究や受託研究による都市機能・都市景観の向上、デザインやIT関連等の産業振興策と連携した地域ブランド及び新産業の創出を支援する。

b デザインと看護の共同研究機能

デザイン・看護両学部との連携によるユニバーサルデザインの視点に立った都市基盤整備や医療・福祉分野を対象とするデザイン研究に取り組む。また、デザインと看護の共同研究や異分野との横断的な取組により、市民の豊かな生活や健康を支援する。

c 地域の健康支援機能

看護職に対する専門的情報の収集・提供、相談・指導窓口の設置や、地域看護や在宅看護、介護に関する相談・研修等を通じて、市民のあらゆる健康な生活を支援する。

(イ) デザイン学部と看護学部の共同研究実施体制

各学部あるいは両学部における研究は、産・看・学・公の連携による取組を特色とし、基礎研究に配慮しつつ萌芽的・先端的研究への支援体制を整備し、学術研究の活性化と卓越した研究に取り組む。

また、道内外の大学・研究機関等と連携・協力して研究を推進する体制を整備する。

3 地域貢献等に関する目標を達成するための措置

(1) 地域貢献に関する目標を達成するための措置

ア 地域の産業、まちづくり、保健・医療・福祉等への貢献

(ア) IT関連分野、観光分野等のデザイン研究、北方圏の新しいデザインモデルの創造等に取り組む。

(イ) 医療・看護・介護機器やバリアフリー住宅に関する研究開発等に取り組む。

(ウ) 地域住民等との連携による地域文化の掘り起こしや、都市機能・都市景観の向上につながる研究に取り組む。

(エ) 地場産品のデザイン研究、農村等の環境や景観向上に関する研究、地域看護に関する研究に係る成果の他自治体への提供等に取り組む。

イ 教育面での貢献

(ア) リカレント教育、公開講座等の教育機能、企業等との窓口機能等を持った都心部サテライト施設を平成18年度中に設置する。また、都心部サテライト施設では、遠隔授業に対応した多様なメディア機器等の整備や情報ネットワーク等の充実を図る。

(イ) 市内の生涯学習機関等と連携した多様なメニューを提供するとともに、デザイン分野及び看護分野における専門職業人の継続教育等への需要にこたえる各種プログラムを開発する。

(ウ) 平成18年度から、本学の教職員及び学生以外の市民に対して、図書館を開放する。

(エ) 高校生対象の公開授業・授業聴講制度等高校生が大学の講義を受講できるシステムの整備、

高校関係者との協議会の設置等、高等学校との連携を強化する。また、小中学生に対しても大学の持つ教育機能を提供する。

- (オ) 札幌市立高等専門学校及び札幌市立高等看護学院の並存期間中における両校の教育環境を維持・向上させるため、教育研究面で積極的に連携・協力する体制を構築する。

ウ 大学間連携

大学間の単位互換や大学施設の相互利用、大学間連携による共同講義、共同公開講座、共同研究等の実施などの施策について検討し、順次整備する。

エ 札幌市との連携

上記取組のうち、札幌市の行政施策と関連する部分については、札幌市が設立する公立大学法人であるメリットを生かして、当該施策との緊密な連携によって、様々な地域課題の解決に積極的に取り組み、地域貢献を実現する。

(2) 国際交流に関する目標を達成するための措置

ア 海外大学との連携等

- (ア) 海外の大学・研究機関等との連携や協定による研究者・学生の交流制度等の充実を推進する。
- (イ) 海外の優れた研究機関等との連携による国際共同研究を推進するとともに、国際会議等を開催し、研究活動の相互交流を促進する。
- (ウ) UMAP（アジア太平洋大学交流機構）等の大学関連国際機関へ参加する。
- (エ) 上記事項を推進するため、国際交流の企画と推進を行う体制を整備する。

イ 留学生の受入れ

- (ア) 海外の交流協定校等との教育研究の連携を強化するとともに、交流の実効性を高めるための明確な受入れ方針を確立する。
- (イ) 留学生に対する生活環境の向上のための各種支援、相談指導、地域社会との交流等を支援する。

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 運営体制・手法に関する目標を達成するための措置

(1) 理事長のリーダーシップに関する目標を達成するための措置

ア 公立大学法人の経営戦略の策定

平成18年度中に、公立大学法人全体の経営戦略を、役員会等の審議を経て、理事長が策定する。

イ 役員会及び理事のサポート

平成18年度から、理事長及び理事を構成員とし、中期目標、中期計画、予算・決算、重要な組織の設置・廃止等公立大学法人における最重要事項を審議する役員会を設置する。

理事は、複数任命するとともに、それぞれの理事が専門性を発揮して理事長をサポートするために、理事の役割を分担する。

ウ 企画戦略室の設置等

平成18年度から、理事長、学内理事、部局長等を構成員とし、公立大学法人の運営に係る戦略を企画・立案する企画戦略室を設置するとともに、事務局に、企画戦略室に係る業務をサポートする職員を5人程度配置する。

エ 学内の資金配分

- (ア) 研究費については、平成18年度から、個人研究費の一定割合を公立大学法人に留保し、それを理事長等の裁量により、重点的に取り組むべき研究に厚く配分する仕組みを導入する。
- (イ) 研究費以外の予算についても、平成19年度予算以降は、公立大学法人全体の経営戦略、札幌市立大学の教育研究上の理念・目的等を考慮して、理事長が予算編成方針を策定し、予算を重点的に配分するとともに、理事長が裁量により配分することができる資金を設けるなど、理事長が戦略的かつ柔軟に予算編成・資金配分を行うことができる仕組みを導入する。

(2) 公立大学法人の組織に関する目標を達成するための措置

ア 理事並びに経営審議会及び教育研究審議会の委員への学外者の登用

次の取組を平成18年度から実施する。

- (ア) 役員会の構成員となる理事には、経営、財務、地域貢献、産・看・学・公連携等に係る専門家・有識者である学外者を積極的に登用する。
- (イ) 経営審議会では、委員の半数以上を学外委員とすることを義務付け、その学外委員には、公立大学法人の経営に関する有識者として、他大学の教員、民間企業関係者等を登用する。
- (ウ) 教育研究審議会にも、札幌市立大学の教育研究に対する外部からの意見を取り入れるために、デザイン又は看護に係る教育研究の有識者、後期中等教育関係者等2人程度の学外委員を登用する。

イ 教授会等

- (ア) 効果的かつ効率的に法人・大学運営を行うために、重要事項の審議は、できる限り役員会並びに経営審議会及び教育研究審議会にゆだね、教員の法人・大学運営に対する負荷を軽減し、より良い教育研究環境を提供するため、教授会及び学内委員会の審議事項を厳選するとともに、全学の学内委員会の数を常に15以下となるようにする。
- (イ) 民主的な学内運営に配慮し、意思決定プロセスの明確化・透明化を図るため、原則的に役員会等の重要な会議の議事内容にすべての教職員がアクセスすることができるようにするなど、情報の共有化を進める。

(3) 経営手法に関する目標を達成するための措置

ア マネジメントサイクルの徹底

公立大学法人の経営戦略に基づいて、公立大学法人全体及び各部局単位で、企画立案から執行、評価、評価に基づく企画立案に至るマネジメントサイクルの徹底を図る。特に、執行状況を把握するための一定期間ごとの役員会等への業務実績報告、点検・評価委員会への業務執行データの蓄積等を行い、これらのデータを評価に生かすことができるような措置を講ずる。

イ 経営資源の管理・活用

理事長を始めとする経営層が、「ヒト」、「モノ」、「カネ」、「情報」といった公立大学法人の経営資源を把握するとともに、これらの経営資源を業務運営の改善及び効率化のために有効に活用する。特に、公立大学法人の運営によって得られた知識、技術等の「情報」は、まちづくり全体により大きな価値を生み出す「知と創造の拠点」となる本学を運営する上で極めて重要な経営資源であることから、情報システム等を用いた情報の共有化を徹底し、その情報を教育研究の活性化や地域貢献に活用する。

(4) 教職員の役割に関する目標を達成するための措置

ア 教職員による運営への関与

学内委員会では、教職員が一体となって公立大学法人を運営する体制を構築し、その企画立案・業務執行体制を強化するために、教員のみを構成メンバーとするのではなく、事務局職員もメンバーとする。

イ 専門性の高い事務局体制

高い専門性を有する事務局職員を確保するために、当初は相当数を占める札幌市からの派遣職員を毎年度計画的に、大学運営に識見を有するプロパー職員等に切り替えるとともに、専門性の高い人材の派遣を民間企業から受け入れる。

学部完成時には、プロパー職員、民間企業からの派遣職員等を事務局職員全体の半数以上とする。

2 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置

(1) 学部・学科

学部・学科については、中期目標期間中の平成21年度に完成年次を迎えることから、完成年次までは、現在の体制を維持する。

平成22年度以降については、教育研究に対する社会的動向やニーズ、自己点検・評価、認証評価機関の評価結果、地方独立行政法人評価委員会の評価結果等を踏まえて、学部・学科体制について検討する。

(2) 大学院

大学院については、より高度な専門性を有する人材の育成、研究機能の向上を通じた一層の地域貢献の実現等に必要なるものであることから、学部を基礎を置く大学院として、段階的に修士課程及び博士課程を設置することとし、具体的な設置時期、専攻分野、定員等について検討を進める。

3 人事の適正化に関する目標を達成するための措置

(1) 人事制度に関する目標を達成するための措置

ア 多様な任用・勤務形態の構築

(ア) 任期制について

平成18年度から全教員に5年の任期制を導入し、任期の更新に業績評価結果を反映させることにより、教員の士気の高揚、教員組織の活性化を図る。

(イ) 任用制度について

教育現場と実務の積極的な交流を行うために客員教授、特任教授、臨地教授等の制度を導入するとともに、様々な知識・経験を有する教職員を任用するために、公立大学法人であるメリットを生かして、本学における教育研究への支障が生じないように配慮しつつ、裁量労働制などの柔軟な勤務形態、兼業許可制度などを導入する。

イ 専門性の高い事務局職員の育成

複雑化・高度化する事務に対応するため、大学事務に精通した高い専門性を有する職員を公立大学法人において育成する。

(2) 評価制度に関する目標を達成するための措置

(ア) 教員が行う教育研究活動等を活性化させるとともに、教員の資質向上を図るため、教育、研究、学内運営、地域貢献等に関する業績を公正・公平に、かつ、客観的・多面的に評価する業績評価制度を導入するとともに、その評価結果を給与、研究費、任期の更新、昇任等に反映させる。

(イ) 具体的な制度導入については、平成18年中に教員の業績評価制度並びに業績の評価結果を反映させる事項及び方法について検討する。

その検討結果に基づいて、平成19年及び平成20年の2年間にわたり教員の業績評価制度を試行的に実施し、平成21年から教員の業績評価制度を本格的に導入するとともに、平成22年度から給与、研究費、昇任等にその評価結果を反映させる。

(ウ) 教員に支給する給与及び研究費に評価結果を反映させる割合については、徐々にその割合を高くしていくこととする。

(エ) 事務局職員についても、その勤務成績を適切に評価するため、公正・公平で客観的な評価システムについて検討の上、実施する。

(3) 教職員の配置・定員の適正化に関する目標を達成するための措置

学部の完成に向けて教員採用を行いながら、中・長期的な大学運営や教育研究活動の展開を把握するとともに、事務の効率化を図りながら定員管理を行うことで適正な教職員数を実現する。

4 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置

(1) 財務会計システム、教学システム、図書システム等を導入することにより事務の効率化・合理化を図る。

(2) 事務処理の効率化・合理化のため、電子化された学籍情報を活用し、就職支援システム、証明書自動発行システム等の導入を進める。

(3) ICカード学生証・教職員証、図書のIC管理タグの導入により、セキュリティが重視される施設への入退室管理、図書の貸出し・返却業務や蔵書点検等の省力化を図る。

(4) 電子メール、電子掲示板等の情報システムの積極的な活用によりペーパーレス化を図り、事務処理の迅速化・効率化を推進する。

(5) 事務局業務については、平成18年度から、当該業務の外部委託及び当該業務を行う職員の人材派遣による受入れ等を実施する。外部委託等による業務の効率化・合理化の効果が高いとの評価が行われた場合には、その業務を拡大する。

第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置

(1) 受託研究・共同研究

ア 受託研究及び共同研究を積極的に受け入れるために、平成18年度から、研究推進や連携促進のための学内委員会を設置するとともに、教員の研究成果に関する情報を収集し、そのデータベースを構築する。

イ 上記学内委員会及び附属研究所を中心に、民間企業、国、地方公共団体等における研究・調査に係るニーズを把握し、学内の研究成果と結び付けることができる体制を構築する。

(2) 科学研究費補助金等

科学研究費補助金等の競争的資金を積極的に獲得するために、競争的資金に係る情報収集、申請に係るサポート等を行う体制を早期に整備し、教員に対して競争的資金獲得のための申請を奨励する。

(3) 外部研究資金の適正な管理

公立大学法人で受け入れた受託研究・共同研究に係る外部からの研究費等外部研究資金については、その適正な管理を担保するために、内部監査や監事監査でのチェック等の体制を構築する。

(4) 自主事業の実施等

ア 平成18年度から、地域貢献につながる公開講座を実施する。

イ 教員が発明等を行った知的財産のうち、公立大学法人において有効に活用することができるものについては、公立大学法人に承継し、実施料等の収益を上げる。

2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置

- (1) 平成18年度から、両キャンパスにおいて重複する事務のうち、特に庶務、経理等の事務を本部がある芸術の森キャンパスにできるだけ集約する。
- (2) 環境に配慮し、全教職員に省エネルギー・省資源に対する意識を醸成させることにより、光熱水費等の抑制を図る。
- (3) 教職員の定員管理を行い、過度な人員配置を防止するとともに、業務の外部委託等を行う。

3 資産の運用管理に関する目標を達成するための措置

- (1) 余裕資金が生じた場合については、取引銀行等と連携し、これら資金の安全かつ効果的な運用により、適正な管理を行う。
- (2) 不動産等固定資産については、大学の教育研究に支障のない範囲で学外者に対し使用を認めることやその対価を徴収することを検討する。
- (3) 知的財産については、利用価値の高い知的財産を積極的に活用するため、全学的な知的財産ポリシーを策定するとともに、知的財産の管理体制を確立する。

第5 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価（以下「自己点検・評価」という。）並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 自己点検・評価に関する目標を達成するための措置

(1) 点検・評価委員会の設置

平成18年度から、自己点検・評価を行う組織として、専任教員、事務局職員等の代表による点検・評価委員会を設置する。

(2) 自己点検・評価の実施

自己点検・評価については、点検・評価委員会が、自己点検・評価の評価項目及び当該評価項目ごとの評価基準を決定するとともに、当該評価項目に係るデータを収集・蓄積し、そのデータに基づいて、評価項目ごとに設定した評価基準を満たしているかどうかについて評価を行うことにより実施する。

(3) 結果の活用及び公表

評価結果は、点検・評価委員会から役員会等の全学的な重要組織に伝え、当該組織において包括的な改善計画を策定するとともに、学内委員会、事務局等で改善のための実行計画を策定し、改善を実行する。

また、評価結果は、ホームページでの公開や自己点検・評価報告書の作成・配布により公表する。

2 情報提供の推進等に関する目標を達成するための措置

(1) 情報提供に関する目標を達成するための措置

ア ホームページ等による情報提供

平成18年度から、ホームページや刊行物を活用し、以下に掲げる情報等を積極的に提供する。

- ① 大学の設置の趣旨及び特色並びに学部ごとの教育研究上の目的及び特色
- ② 育成する人材像

- ③ 教育課程の内容及び開設科目のシラバス等教育内容・方法
- ④ 教員組織、施設・設備等の教育環境及び研究活動
- ⑤ 選抜方法、受験者数、合格者数、入学者数等の入学者選抜に関する情報
- ⑥ 公開講座等の大学における学習機会
- ⑦ 卒業生の就職・進学状況
- ⑧ 自己点検・評価、認証評価機関及び地方独立行政法人評価委員会の評価結果
- ⑨ 設置認可申請書
- ⑩ 学則その他の規程

イ 紀要の発行

教育研究活動の結果を掲載するために、審査を経た制作・論文を含めた紀要を定期的に発行する。

ウ 公開講座の実施等

市民向けの公開講座を開催するとともに、講演会等へ教員を積極的に派遣する。

(2) 個人情報の保護に関する目標を達成するための措置

公立大学法人札幌市立大学が保有する個人情報については、地方独立行政法人が札幌市の個人情報保護条例における実施機関となったことから、当該条例を施行するための規程を整備すること等により、適正な取扱いを行う。

第6 その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 施設・設備の整備・維持管理に関する目標を達成するための措置

- (1) 教育課程に沿った経年的な施設・設備の整備計画を策定し、教育・研究のニーズに適した整備を行う。
- (2) 施設・設備の保守・修繕等の維持管理計画を策定し、毎年度の点検・調査により状況を評価し、実施に移行するマネジメントサイクルを確立する。

2 安全管理等に関する目標を達成するための措置

(1) 安全衛生管理への対応

事故等を未然に防止するために、全学的な安全衛生管理体制を整備するとともに、安全衛生管理に関する教職員及び学生の意識の向上を図る。

(2) 災害等に対する危機管理体制

災害等が発生した場合に対応するため、平成18年度中に危機管理マニュアルや防災計画を策定するとともに、関係機関や地域との連携等の危機管理体制を整備する。

(3) 公立大学法人の遵法・倫理

役員、教職員及び学生が違法行為を行うことを未然に防止するため、また、ハラスメント等を防止するため、さらに、違法行為等が行われた場合に適切に対応するための全学的な体制を構築する。

3 環境に関する目標を達成するための措置

- (1) マイクロガスタービン（天然ガスを燃料とする発電機で、廃熱を給湯等に熱利用する。）によるコージェネレーションシステム、地熱利用システム（地熱を暖房補助・自然冷房に用いる。）の導入によりエネルギーの有効利用を図る。
- (2) 断熱・遮熱性能に優れた建築システムの採用（ダブルスキン構造）により、環境負荷を軽減す

るとともに、室温管理等を行い、省エネルギーを徹底する。

(3) 電子メール、電子掲示板等の情報システムの積極的な活用によりペーパーレス化を図る。

第7 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

別紙参照

(注)運営費交付金は、一定の仮定の下に試算されたものであり、各事業年度の運営費交付金については、予算編成過程において各事業年度の札幌市の予算編成方針に基づき再計算され、決定される。

第8 短期借入金の限度額

1 短期借入金の限度額

2億円

2 想定される理由

運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れることが想定される。

第9 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし。

第10 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。

第11 施設及び設備に関する計画

施設・設備の改修・修繕	予定額	財源
・既存校舎の改修 ・経常的修繕費 ・大規模修繕	総額 504百万円	施設整備費補助金 (504百万円)

(注)一般的な耐用年数を基に試算しているため、金額については見込みである。具体的な額については、各事業年度の予算編成等において決定される。

第12 人事に関する計画

1 適正な定員管理

学部完成年次（平成21年度）まで順次採用を行い、必要な教職員を確保する。

学部完成後には、大学の教育研究等の質の向上に関する目標や業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するために必要となる中・長期的な大学運営や教育、研究活動の展開を把握し、事務の効率化を図りながら定員管理を行うことで適正な教職員数を実現する。

2 専門性の高い事務局職員の育成

事務局職員について、複雑化・高度化する事務に対応するため、開学時には相当数を占める札幌市からの派遣職員を毎年度計画的に、大学運営に識見を有するプロパー職員等に切り替えるとともに、専門性の高い人材の派遣を民間企業から受け入れ、大学事務に精通した高い専門性を有する職員を公立大学法人において育成する。

学部完成時には、プロパー職員、民間企業からの派遣職員等を事務局職員全体の半数以上とする。

3 研修の充実

教職員の能力開発や意識向上を図るため、外部研修を含め研修体制を充実する。

第13 中期目標の期間を超える債務負担

なし。

別紙 予算、収支計画及び資金計画（人件費の見積もりを含む）

1. 予算（平成18年度～平成23年度）

（単位：百万円）

区分	金額
収入	
運営費交付金	9,354
授業料等収入	1,968
受託研究等収入	132
その他収入	64
計	11,518
支出	
教育研究経費	1,983
受託研究等経費	120
人件費	6,623
一般管理費	2,583
施設整備費	209
計	11,518

〔人件費の見積り〕

中期計画期間中総額6,623百万円を支出する。

ただし、退職手当は除く。

2. 収支計画（平成18年度～平成23年度）

（単位：百万円）

区分	金額
費用の部	11,591
経常費用	11,591
教育研究経費	1,386
受託研究等費	120
人件費	6,623
一般管理費	2,511
減価償却費	736
雑損	215
収益の部	11,591
経常収益	11,591
運営費交付金収益	9,089
授業料等収益	1,968
受託研究等収益	132
資産見返運営費交付金戻入	11
資産見返物品受贈額戻入	112
雑益	279
物品受贈益	215
その他収益	64
純利益	0

3. 資金計画（平成18年度～平成23年度）

（単位：百万円）

区分	金額
資金支出	11,518
業務活動による支出	11,309
投資活動による支出	209
財務活動による支出	0
次期中期目標期間への繰越金	0
資金収入	11,518
業務活動による収入	11,518
運営費交付金による収入	9,354
授業料及入学金検定料による収入	1,968
受託研究等による収入	132
その他収入	64
投資活動による収入	0
財務活動による収入	0

2 平成18年度年度計画

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置（住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置）

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育成果に関する目標を達成するための措置

- ・ 共通教育科目は、大学教育を受けるための心構えや履修方法、主体的な問題解決能力を養う「導入科目」、文化や人間、社会に対する理解を目的とする「教養科目」、語学などのコミュニケーションツールの習得を目的とする「コミュニケーション科目」に区分し、体系的な教育を行う。
- ・ 専門科目を学ぶ前提や基礎となる「専門基礎科目」、専門的知識や技術を学ぶ「専門科目」に区分し、専門知識や高度な技術について体系的な教育を行う。
- ・ 専門科目に対する理解を深めるため、デザイン専門科目を担当する教員による補習（特別講義）を行う。
- ・ デザイン学部の教員は、空間、製品、コンテンツ、メディアの各コースの特色と他コースとの関係性、さらには専門分野全体の関係性を理解し、それを教育に反映させるため、コースごとにプレゼンテーションを行い、情報を共有することにより、体系的に教育を行う。
- ・ 看護学部の教員は、領域毎の特色と他領域との関係性、さらには専門分野全体の関係性を理解し、それを教育に反映させるため、領域ごとにプレゼンテーションを行い、各領域が情報を共有することにより、体系的に教育を行う。また、専門分野に求められる知識・技術等を体系的に養うために、看護学部長から教員に対して、大学の教育研究上の理念、特長及び目的と教育課程の構成との関係について研修を行う。
- ・ 将来の看護職の動機付けとなる「看護初期実習」、看護の働きかけを体験的に学ぶ「基礎看護学臨地実習Ⅰ」を1年次から実施する。また、実習施設に対して看護学部の教育課程における実習の役割・位置づけを周知するとともに、効果的・効率的・円滑に実習を行うために実習指導者会議を開催する。
- ・ 産業界、保健・医療・福祉機関、大学、行政等と連携した教育を行うほか、本学の持つ様々な知的資源を地域に還元するため、図書館の市民開放を開始するほか、市民向けの公開講座を開催する。
- ・ 学生による授業評価アンケートを実施する。また、アンケートの実施方法、実施内容について、教務・学生委員会で検証を行う。

(2) 教育内容に関する目標を達成するための措置

ア 入学者選抜

- ・ 本学の教育理念に基づき使命感及び勉学意欲を持った学生を確保するため、明確な入学受入方針（アドミッションポリシー）を策定する。
- ・ アドミッションポリシーは、オープンキャンパスや高校訪問、大学説明会等で広く周知するほか、ホームページでも公開する。
- ・ アドミッションポリシーに基づき、一般選抜、推薦入学、社会人及び私費外国人留学生選抜を実施する。

- ・ 3年次編入生の受け入れ方針、入学試験等について検討を行う。
- ・ 入学者選抜方法の事後評価を行い、入学者選抜方法の改善・充実を図る。
- ・ 平成18年度入学者を対象としたアンケート調査を実施し、併願校等の状況等について検証する。
- ・ アドミッションポリシーの策定及び平成19年度入試を実施するため、入試委員会を設置する。

イ 教育課程

- ・ 「スタートアップ演習」では、両学部の学生がフィールドワークやワークショップ等を通じて専門分野を学ぶ上での問題点の発見能力や解決策作成等を学ぶ。更に、その成果の発表などを通じ、異なる分野を志す学生が互いの発想に触れ、広い視野を持つことができるよう教育を行う。
- ・ 「日本語表現法」、「プレゼンテーション」、「情報リテラシー」等専門分野の枠を超えて共通に求められる知識、思考法等の知的な技法などが身に付くよう教育課程を編成する。
- ・ デザイン学部においては、「デザイン原論」、「デザイン史」、「色彩設計論」、「造形基礎実習Ⅰ」といったデザインの基礎となる専門教育科目を1年次から実施する。
- ・ 看護学部においては、初年度から専門知識・技術を習得するためにくさび型カリキュラムを導入し、「看護学原論」、「看護理論」、「看護観察技術論」、「看護過程論」などの専門教育科目を1年次から実施する。
- ・ 1年次から「スタートアップ演習」で学部間の有機的な連携による授業を実施する。
- ・ 他大学との連携による単位互換について検討を進める。

ウ 教育方法及び履修指導方法

ア) 2キャンパス

- ・ 両学部の学生が合同で学ぶ共通教育科目は「芸術の森キャンパス」で実施するが、共通教育科目を受講する看護学部の学生が、同日中に両キャンパス（芸術の森、桑園）間を移動することのないような時間割編成を行う。
- ・ 図書の検索、返却を、両キャンパスの図書館において行えるようにする。また、図書の貸し出しは、その環境整備及び仕組みづくりを検討する。
- ・ 平成18年度から遠隔授業、eラーニングシステムを検証し、適正な情報システムの拡張を検討する。

イ) 多様な授業・履修形態

- ・ デザイン学部と看護学部の学生が共に学ぶ講義を設定し、小グループによる演習やフィールドワークを実施する。
- ・ デザイン学部では、科目の特性に合わせ、基礎となる知識を習得する「デザイン原論」や「デザイン史」などは講義による授業を実施し、技術を習得する「造形基礎実習」などは実習による授業を実施する。また、講義・演習系科目においては、コンピュータやプロジェクターといった情報機器を活用した授業を実施する。
- ・ 看護学部では、大学生としての基本的学修態度、学修方法、表現力を養うため、学生が主体的に調査・学習し、プレゼンテーションを行う演習を展開するほか、各種メディア機器を用いた授業を行うことにより、的確に知識・技術を習得させる。また、知識・技術を学生自らが習得するために、夜間・土曜日に実習室やコンピュータ室を開放する。
- ・ 全学生に対しTOEIC試験を実施する。また、「英語Ⅱ」は習熟度に応じたクラス編成を

行う。

- ・ 社会人等のニーズに対応するために科目等履修生制度を導入し、ホームページなどで募集する。

(ウ) 実践的な授業の重視

- ・ 入学初期のアーリーエクスポージャー教育として、看護職や関連職種の活動の場を見学体験し、保健、医療、福祉分野への関心と理解を深め、看護を学ぶ動機付けとするために「看護初期実習」を行う。
- ・ 実習先等におけるさまざまな危険を回避し、学生が安心して演習・実習を行うのに必要な保険の必要性・重要性を理解できるようにガイダンスを行い、傷害・賠償保険に加入させる。
- ・ 豊富な実務経験を持つ専任教員や企業人等の非常勤講師を活用するなど職業人育成のため実学の充実を図る。
- ・ 将来、看護職として就業する動機付けのために、教育・臨床経験の豊富な外部講師を招聘し、特別講義を公開で実施する。
- ・ 看護学部では、「スタートアップ演習」、「基礎看護学臨地実習Ⅰ」など1年次から演習と実習を取り入れ、また、学部の特性に応じて、講義、演習、実習を体系的に組み合わせ、専門知識や高度な技術を習得できるような教育課程を編成する。

(エ) 履修指導方法

- ・ シラバスに「科目のねらい、目標」を明記するとともに、ホームページでも公開する。また、学生の授業評価等を参考にして、次年度のシラバスの充実を図る。
- ・ 全教員を対象として、各分野におけるFD（ファカルティ・ディベロップメント）を効果的に実施し、教育方法の継続的な改善を図る。
- ・ 段階的かつ効果的な履修と学業のきめ細やかな支援を可能とするセメスター制を開学当初から実施する。
- ・ 各セメスターの授業開始前や看護実習の開始前に、履修方法、実習に臨む際の留意事項など、必要に応じてきめ細やかな履修指導（ガイダンス・オリエンテーション）を行う。
- ・ 「英語Ⅱ」は習熟度に応じたクラス編成を行う。
- ・ 一部専門基礎科目について補習（特別講義）を実施する。
- ・ 履修科目の過剰登録を防ぐためキャップ制を導入し、登録単位に上限を設ける。
- ・ 少人数教育、習熟度別クラス、eラーニング等個々の学生に見合った指導・教育を可能にする多様な授業形態による教育を実施する。
- ・ デザイン学部では空間、製品、コンテンツ、メディアの各コースごとに、看護学部では臨床、地域の区分により具体的な履修モデルを作成し、シラバスに明示する。

エ 学生の成績評価

- ・ 学則で成績評価基準を定め、学生便覧に明示するとともに、科目ごとの評価方法をシラバス、ホームページで公開する。
- ・ 学生からの成績評価に対する照会等の窓口を両キャンパスに設置する。

(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

ア 適正な教員の配置

- ・ 平成19年度から授業を持つ予定の教員を中心に、計画的に教員を採用する。

- ・ 准教授並びに助教及び助手の適切な任用及び配置について検討を行う。
- ・ 実務経験の豊富な客員教授を任用する。

イ 教員の資質の維持向上

- ・ FDについては、平成18年度は総務委員会の所管事項とし、当該委員会を中心に以下の取り組みを行う。
- ・ 授業開始前に教員の打合せを行うほか、必要に応じて学内で研修等を実施する。
- ・ 教務・学生委員会は、シラバスの記載項目、記載方法等に関する一定のルールを作成し、希望する教員に対して記載方法等の指導・助言を行う。
- ・ 学生による授業評価アンケートを実施し、その結果を教員にフィードバックすることにより、授業の内容及び方法の改善に役立てる。
- ・ FDに関する講演会や学内の研修会を実施するほか、両学部教員による研究交流会を実施し、情報交換を行う。
- ・ FDに関する外部の研究会や研修会への教職員の派遣について検討する。

ウ 教育環境の整備

- ・ 札幌市立高等専門学校及び札幌市立高等看護学院の学年進行に伴う施設、設備の転用については、総務委員会の所管事項とし、教育・研究機能が向上するよう検討を行い、必要な整備を行う。
- ・ 学内施設利用に関する点検・評価を行い、効果的で効率的な施設運用を図るとともに、必要な措置を講ずる。
- ・ 多様な授業形態を支援するために、eラーニングシステム、遠隔授業システムを導入する。
- ・ 平成19年度以降の専門教育に必要な教育研究システムや情報機器、備品等の整備に関する検討を行う。
- ・ 備品整備は総務委員会の所管事項とし、検討を行う。
- ・ 図書の選定については、企画委員会の所管事項とし、検討を行う。また、企画委員会に図書に関する部会を置き、図書及び学術情報等に係る環境改善について定期的に検討を行う。
- ・ 図書等については、平成18年度中に約6,500点を整備するほか、視聴覚資料、雑誌、電子ジャーナル等についても選定作業を行い、充実を図る。

(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

ア 学習支援及び学生生活支援

学生の修学・進路・生活を支援するため、以下の取組みを行う。

- ・ 夏季等長期休業期間中に生活指導上必要な注意事項を周知するためにガイダンス等を行う。
- ・ 両キャンパスに専門職を配置するなど、学生のメンタルヘルス、生活相談等、学生生活全般（ハラスメント対策を含む。）を支援する体制を整備する。
- ・ 看護学部においては、学生の修学、進路、生活及び心身の健康にわたる学生生活をサポートするために、看護学部教員がメンターとしての役割を担い、それぞれ数人の学生を受け持つ体制（メンタリンググループ）を構築し相談に応じるほか、面談を行う。
- ・ 大学と学生の意思疎通を深め、学生の課外活動など、学生生活をサポートするため、学生支援委員会を設置する。また、学生生活の実態や意向を把握するため、学生に対するアンケートを実施し、意見・要望を把握する。
- ・ 通学用の駐車場の必要性の検討を行う。

- ・ 学生の課外活動のための施設・設備の検討を行う。また、学生の福利厚生のため食堂の整備や自動販売機を設置する。
- ・ 学生の地域活動等に対して支援を行う。
- ・ 早期から就職や進路に関する意識を持たせるため、1年次から本学に紹介のあった就職・進路関連情報を学生に対して開示する。また、教務・学生委員会が中心となり、両学部に関連窓口を設ける。
- ・ 各種奨学金制度の活用を支援するほか、学生納付金の減免制度を整備する。
- ・ 金融機関と提携した就学ローンを創設する。
- ・ 平成18年度中に後援会を組織する。

イ 障がいのある学生に対する支援

- ・ 障がいのある学生に対し、就学相談を行うほか、定期試験の受験等についても必要に応じた措置を講ずる。また、設備・機器等の整備を行う。

2 研究に関する目標を達成するための措置

(1) 研究の方向性、研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置

ア 目指すべき研究の方向性

- ・ デザイン学部については、産業や芸術・文化の振興、都市機能・都市景観の向上、都市再生と大学連携等に関する基礎的な研究を推進する環境の整備を行う。
- ・ 看護学部については、看護の基礎的な研究を推進する環境の整備を行う。
- ・ デザイン学部と看護学部の共同研究を推進するため、学内の教員相互の研究領域の理解を深めるため、全教員参加による、研究交流会を実施する。
- ・ 国内外の競争的資金に関する情報収集を積極的に行い、外部資金導入による研究の促進を図る。
- ・ 教員に対し、科学研究費補助金の積極的な申請を促す。

イ 研究の水準及び研究成果

- ・ 大学の知を社会に還元するため、公開講座、研究会、講演会等を開催する。
- ・ 教員の研究成果を掲載するため研究論文集を発行する。また、教員の研究分野、研究内容等の情報をホームページ等で公開する。
- ・ 産業界等との連携を深め、共同研究等を推進する体制を整備するとともに地域課題に対応した研究を促進する。

(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置

ア 研究費

- ・ 平成18年度から学部間及び学部内で共同研究を公募し、研究費を配分する。
- ・ 個人研究費の一定割合を公立大学法人に留保し、それを理事長等の裁量により、重点的に取り組むべき研究に厚く配分する学術奨励研究費を創設する。
- ・ 平成22年度をめどに予定している、教員が行う教育、研究、学内運営、地域貢献等の業績を評価する制度の導入についての検討を開始する。

イ 研究の実施体制

(ア) 附属研究所（地域連携研究・支援センター）

- ・ 平成19年度から附属研究所（地域連携研究・支援センター）を立ち上げるための準備を進める。

- ・ 地域貢献を具体的に展開するための拠点施設として、平成18年度中に都心部にサテライト施設を開設する。
- ・ 地元企業や他大学等との共同研究や受託研究による都市機能・都市景観の向上、デザインやIT関連等の産業振興策と連携した地域ブランド及び新産業の創出を図るための研究を行う。
- ・ デザインと看護の連携を図り、社会に寄与するための共同研究を推進する。
- ・ 都心部サテライト施設において、地域の健康支援のための事業の検討を行う。
- ・ 地域看護や在宅看護・介護などに関して看護関係団体、他の看護系大学、行政等の関係機関と連携するために専門の職員を配置し、研修会、講演会などを開催する。
- ・ 医療機関や看護関係団体などと教育研究上の連携を進めるため施設見学会などを開催し、本学施設を共同研究などの場として提供する。

(イ) デザイン学部と看護学部の共同研究実施体制

- ・ 平成18年度は共同研究の実施体制の構築を主眼とし、横断的な研究の可能性を模索する。共同研究の開始にあたり、研究費の配分あるいはその支援を行う。

3 地域貢献等に関する目標を達成するための措置

(1) 地域貢献に関する目標を達成するための措置

ア 地域の産業、まちづくり、保健・医療・福祉等への貢献

- ・ 地域、産業界等に対する本学教員についての情報提供を、ホームページ等により積極的に行う。
- ・ 本学施設の地域開放を積極的に行う。
- ・ IT関連分野、観光分野等のデザイン研究等、地域活性化に取り組む。
- ・ 地域住民等との連携による地域文化の掘り起こしや、都市機能・都市景観の向上につながる研究に取り組む。
- ・ 地場産品のデザイン研究、農村等の環境や景観向上に関する研究、地域看護に関する研究に係る成果の提供等に取り組む。

イ 教育面での貢献

- ・ リカレント教育、公開講座等の教育機能、企業等との連携の窓口機能等を持った都心部サテライト施設を平成18年度中に設置する。
- ・ 札幌市生涯学習センター等と連携し、デザイン分野及び看護分野における専門職業人の継続教育等の検討を行う。
- ・ 本学の教職員及び学生以外の市民に対して、両キャンパスの図書館を開放する。
- ・ 中学校及び高等学校に対して、出前講座や特別授業等を行う。
- ・ 札幌市立高等専門学校及び札幌市立高等看護学院の教育環境を維持・向上させるため、教育研究面で積極的に連携・協力を図る。

ウ 大学間連携

- ・ 大学図書館間の相互貸借、文献複写等学術情報に係る研究支援連携を行う。

エ 札幌市との連携

- ・ 札幌市の政策課題に関し、関係部局とのディスカッションを行い、地域課題の解決に対する取組みを行う。

(2) 国際交流に関する目標を達成するための措置

ア 海外大学との連携等

- ・ 海外の大学・研究機関等との連携や協定による研究者・学生の交流を推進する。
- ・ UMAP（アジア太平洋大学交流機構）等の大学関連国際機関に参加する。
- ・ 札幌市内の国際交流団体と連携を図る。

イ 留学生の受入れ

- ・ 留学生受入規則を整備し、受入体制づくりを進める。

Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 運営体制・手法に関する目標を達成するための措置

(1) 理事長のリーダーシップに関する目標を達成するための措置

ア 公立大学法人の経営戦略の策定

- ・ 公立大学法人全体の経営戦略を、役員会等の審議を経て理事長が策定する。

イ 役員会及び理事のサポート

- ・ 理事長及び理事を構成員とし、中期目標、中期計画、予算・決算、重要な組織の設置・廃止等公立大学法人における最重要事項を審議する役員会を設置する。
- ・ 理事は、複数任命するとともに、それぞれの理事が専門性を発揮して理事長をサポートするために、理事の役割を分担する。

ウ 企画戦略室の設置等

- ・ 理事長、学内理事、部局長等を構成員とし、公立大学法人の運営に係る戦略を企画・立案する企画戦略室を設置するとともに、事務局に、企画戦略室に係る業務をサポートする職員を5人程度配置する。

エ 学内の資金配分

- ・ 個人研究費の一定割合を公立大学法人に留保し、それを理事長等の裁量により、重点的に取り組むべき研究に厚く配分する学術奨励研究費を創設する。
- ・ 平成19年度予算編成方針は、公立大学法人全体の経営戦略、札幌市立大学の教育研究上の理念・目的等を考慮して理事長が策定する。

(2) 公立大学法人の組織に関する目標を達成するための措置

ア 理事並びに経営審議会及び教育研究審議会の委員への学外者の登用

- ・ 役員会の構成員となる理事には、経営、財務、地域貢献、産学公連携等に係る専門家・有識者である学外者を積極的に登用する。
- ・ 経営審議会の委員の半数以上を学外委員とするとともに、その学外委員には、公立大学法人の経営に関する有識者として、他大学の教員、民間企業関係者等を登用する。
- ・ 教育研究審議会には、本学の教育研究に対する外部からの意見を取り入れるために、デザイン又は看護に係る教育研究の有識者、後期中等教育関係者等の学外委員を2人以上登用する。

イ 教授会等

- ・ 大学運営に対する負荷を軽減し、より良い教育研究環境を提供するため、教授会及び学内委員会の審議事項を厳選し、全学の学内委員会の数を常に15以下となるようにする。
- ・ 役員会等の重要な会議の議事内容が、すべての教員に周知されるよう情報共有の仕組みを構築する。

(3) 経営手法に関する目標を達成するための措置

ア マネジメントサイクルの徹底

- ・ 公立大学法人の経営戦略に基づいて、公立大学法人全体及び各部局単位で、企画立案から執行、評価、評価に基づく企画立案に至るマネジメントサイクルの徹底を図る。
- ・ 予算の執行状況を把握するため、役員会等に対し一定期間ごとに業務実績報告を行う。

イ 経営資源の管理・活用

- ・ 理事長を始めとする経営層が、法人の経営資源の把握が容易となる仕組みを構築する。
- ・ 公立大学法人の知識、技術等の情報を、ホームページ等により積極的に情報提供し、教育研究の活性化や地域貢献に活用するよう努める。

(4) 教職員の役割に関する目標を達成するための措置

ア 教職員による運営への関与

- ・ 学内委員会には教職員が一体となって参加し、公立大学法人の運営に積極的に関与する体制を構築する。また、学内委員会の企画立案・業務執行体制を強化するため、事務局職員も学内委員会の委員として参加する。

イ 専門性の高い事務局体制

- ・ 高い専門性を有する事務局体制を維持するため、札幌市からの派遣職員を計画的にプロパー職員等に切り替えるための検討を進めるとともに、専門性の高い人材の派遣を民間企業から受け入れる。

2 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置

(1) 学部・学科

- ・ 学部・学科は、完成年次である平成21年度までは現在の体制を維持する。

(2) 大学院

- ・ 大学院設置に関する委員会を組織し、具体的な設置時期、専攻分野、定員等について検討を進める。

3 人事の適正化に関する目標を達成するための措置

(1) 人事制度に関する目標を達成するための措置

ア 多様な任用・勤務形態の構築

- ・ 全教員に5年の任期制を導入する。
- ・ 教育現場と実務の積極的な交流を行うため、客員教授、特任教授、臨地教授等の制度を導入する。
- ・ 本学における教育研究への支障が生じないように配慮しながら、裁量労働制や兼業許可制度を導入する。

イ 専門性の高い事務局職員の育成

- ・ 大学事務に精通した高い専門性を有する職員を採用するとともに、事務局職員の意識の向上を図るための学内研修などを実施する。

(2) 評価制度に関する目標を達成するための措置

- ・ 教員の資質向上を図るため、教育、研究、学内運営、地域貢献等に関する業績を公正・公平に、かつ、客観的・多面的に評価するために導入する業績評価制度の具体的手法について検討する。

(3) 教職員の配置・定員の適正化に関する目標を達成するための措置

- ・ 平成19年度の授業体制に支障がないよう教員採用を行う。

4 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置

- ・ 財務会計システム、教学システム、図書システム等、導入した各システムの検証を行うとともに、問題点には速やかに対処する。
- ・ 就職支援システム、証明書自動発行システム等、既存システムの拡充についての検討を進める。
- ・ ICカード学生証・教職員証等を活用し、図書の貸出・返却業務を開始するほか、C棟コンピュータ室、アトリエ等の入退室管理を行う。
- ・ 電子メールの積極的な活用によるペーパーレス化を図り、事務処理の迅速化・効率化を推進する。
- ・ 事務局業務のうち、旅費、給与計算業務の外部委託を行う。
- ・ 情報システム等専門性が高い業務について外部委託を行うとともに、その評価、検証を行う。
- ・ 施設の維持管理は、両キャンパスとも警備、清掃、設備管理などの外部委託を行う。
- ・ 職員の人材派遣による受入れ等を行い、事務局業務の効率化・合理化について、評価・検証を行う。

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置

- ・ 受託研究及び共同研究を積極的に受け入れるために、企画委員会に研究に関する専門部会を設け、教員の研究成果に関する情報収集やデータベースの構築等を行う。
- ・ 共同研究を促進するため、札幌市の施策や支援団体等における研究・調査にかかるニーズの積極的な把握に努める。
- ・ 事務局において、科学研究費補助金等の競争的資金を積極的に獲得するための情報収集、サポートを行うとともに、教員に対して競争的資金獲得のための申請を奨励するための措置を講ずる。
- ・ 受託研究・共同研究等の外部研究資金について、その適正な管理を担保するための監査体制を構築する。
- ・ 地域貢献につながる公開講座を実施する。
- ・ 教員が発明等を行った知的財産を、公立大学法人において有効活用できるようにするための検討を開始する。

2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置

- ・ 事務局職員の配置にあたっては、庶務、経理等の事務を芸術の森キャンパスに集約するなど、適正な職員配置を行う。
- ・ 冷房、暖房の温度設定管理を徹底し、光熱水費の抑制を図る。
- ・ 清掃等の業務委託の際には、光熱水費の節約や環境に対する配慮について明記する。
- ・ 教職員の適正な人員管理を行うとともに、必要に応じて事務局業務の外部委託を行う。

3 資産の運用管理に関する目標を達成するための措置

- ・ 余裕資金の安全かつ効果的な運用を図る。
- ・ 学内施設が地域等で有効に活用されるよう利用規定を整備するとともに、適切な使用料設定を検討する。
- ・ 知的財産ポリシーを策定するための準備を行う。

Ⅳ 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 自己点検・評価に関する目標を達成するための措置

- ・ 自己点検・評価を行うため、専任教員、事務局職員等の代表により点検・評価のための委員会を設置する。
- ・ 自己点検・評価の実施については、自己点検・評価委員会において評価項目及び評価基準等を検討する。

2 情報提供の推進等に関する目標を達成するための措置

(1) 情報提供に関する目標を達成するための措置

- ・ ホームページをリニューアルし、学内の情報をわかりやすく、迅速に情報提供できるような体制を整備する。

ホームページでは以下に掲げる情報等を積極的に提供する。

- ① 大学の理念及び沿革
 - ② 育成する人材像
 - ③ 学部、コースの概要及びシラバス
 - ④ 教員組織及び研究活動内容
 - ⑤ 施設設備に関する情報
 - ⑥ 入試に関する情報
 - ⑦ サテライト施設に関する情報
 - ⑧ 図書館に関する情報
 - ⑨ 公開講座等の実施状況
 - ⑩ オープンキャンパスに関する情報
 - ⑪ 大学の資料請求に関する情報
 - ⑫ 法人の役員、定款等の情報
 - ⑬ 大学の行事等に関する情報
- ・ オープンキャンパスや高校訪問、大学説明会等を開催し情報提供を行う。
 - ・ 本学における教育研究活動の結果を掲載するために、定期的に審査を経た制作・論文を含めた研究論文集を発行する。
 - ・ 市民向けの公開講座を開催するとともに、講演会等へ教員を積極的に派遣する。

(2) 個人情報の保護に関する目標を達成するための措置

- ・ 札幌市個人情報保護条例に基づいたポリシーを整備し、個人情報の適正な取り扱いを行う。

Ⅴ その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 施設・設備の整備・維持管理に関する目標を達成するための措置

- ・ 平成19年度の教育課程に沿った施設・設備の整備の検討を行い、適切な措置を講じる。
- ・ 施設・設備の保守・修繕等の維持管理に関して、点検・調査を行うとともに、状況の評価を実施に移行するマネジメントサイクルの確立に向けた検討を行う。

2 安全管理等に関する目標を達成するための措置

- ・ 事故等を未然に防止するために、全学的な安全衛生管理体制を整備するとともに、教職員及び学生への周知を図る。

- ・ 災害等が発生した場合に対応するため、危機管理マニュアルや防災計画を策定するとともに、必要に応じた訓練等を実施する。
- ・ 役員、教職員及び学生の違法行為やハラスメント等の未然の防止や適切な対応を図るため、諸学内委員会において、その対応策を検討するとともに、学生に対しては学生の生活上の注意点を周知する。
- ・ 研究倫理規程及び情報倫理規程を定める。
- ・ 学則の周知徹底を図るため、学生便覧やホームページを積極的に活用する。

3 環境に関する目標を達成するための措置

- ・ 本学が導入するマイクロガスタービン（天然ガスを燃料とする発電機で、廃熱を給湯等に熱利用する。）によるコージェネレーションシステム、地熱利用システム（地熱を暖房補助・自然冷房に用いる。）等について、エネルギー有効利用の検証を行う。
- ・ 学用車のリースに当たっては、環境に配慮したハイブリッド車を導入する。
- ・ 環境負荷軽減のため室温管理や適切な換気等を行い、省エネルギーを徹底する。
- ・ 電子メールや情報システムの積極的な活用によりペーパーレス化を図る。

VI 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

別紙のとおり

VII 短期借入金の限度額

1 短期借入金の限度額

2億円

2 想定される理由

運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要な対策費として借り入れることが想定される。

VIII 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし。

IX 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。

X 施設及び設備に関する計画

- ・ 駐輪場の整備（桑園キャンパス）
- ・ 既存校舎の改修
- ・ 経常的修繕費

総額 73百万円

（注）金額については見込みであり、上記のほか、業務の実施状況に応じた施設・設備の改善や、老朽度合いに応じた改修等を追加することもあり得る。

XI 人事に関する計画

- ・ 平成19年度の教育に必要な教員の採用を行うとともに、学部完成年次に向けた教員の採用計画の検討を行い、適正な教員配置を図る。
- ・ 札幌市からの派遣職員のプロパー化を進めるとともに、専門性の高い人材の派遣を民間企業から受け入れ、大学事務に精通した高い専門性を有する職員を公立大学法人において育成する。
- ・ 教職員の能力開発や意識向上を図るための学内研修会を行うとともに、必要に応じて外部研修に教職員の派遣を行う。

別紙 予算、収支計画及び資金計画（人件費の見積りを含む）

1. 予算

（単位：百万円）

区分	金額
収入	
運営費交付金	1,352
授業料等収入	133
受託研究等収入	22
その他収入	7
計	1,514
支出	
教育研究経費	232
受託研究等経費	20
人件費	820
一般管理費	405
施設整備費	37
計	1,514

2. 収支計画

(単位：百万円)

区分	金額
費用の部	1,691
経常費用	1,691
教育研究経費	146
受託研究等費	20
人件費	820
一般管理費	392
減価償却費	98
雑損	215
収益の部	1,691
経常収益	1,691
運営費交付金収益	1,295
授業料等収益	133
受託研究等収益	22
資産見返運営費交付金戻入	0
資産見返物品受贈額戻入	19
雑益	222
物品受贈益	215
その他収益	7
純利益	0

3. 資金計画

(単位：百万円)

区分	金額
資金支出	1,514
業務活動による支出	1,477
投資活動による支出	37
財務活動による支出	0
次期中期目標期間への繰越金	0
資金収入	1,514
業務活動による収入	1,514
運営費交付金による収入	1,352
授業料及入学金検定料による収入	133
受託研究等による収入	22
その他収入	7
投資活動による収入	0
財務活動による収入	0

3 平成18年度決算

(単位：百万円)

区分	予算額	決算額	差額 (決算－予算)	備考
収入				
運営費交付金	1,352	1,352	0	(注1)
授業料等収入	133	133	0	
受託研究等収入	22	45	23	
寄付金	0	16	16	
補助金	0	6	6	
その他収入	7	7	0	
計	1,514	1,559	45	
支出				
教育研究経費	232	363	131	(注2)
受託研究等経費	20	41	21	(注3)
人件費	820	738	△ 82	(注4)
一般管理費	405	267	△ 138	(注5)
寄付金経費	0	6	6	(注6)
施設整備費	37	91	54	
計	1,514	1,506	△ 8	
収入－支出	0	53	53	

○ 予算と決算の差異について

(注1) 当期中に受け入れた受託研究収入等が、増加した。

(注2) 予算では、光熱水費、施設維持管理費及びシステム経費について、一般管理費に計上していたものを、決算では教育研究経費でも計上したこと等により、増加した。

(注3) 注1で示した理由により、受託研究等経費が、増加した。

(注4) 教員及び事務局職員の欠員により、減少した。

(注5) 予算では、光熱水費、施設維持管理費及びシステム経費について、一般管理費に計上していたものを、決算では教育研究経費でも計上したこと等により、減少した。

(注6) 大学開学に伴い、既存の施設を改修したこと等により、増加した。

4 教職員数 (平成19年3月31日現在)

1) 学部別教員数

学長	1
副学長	1
デザイン学部	19
看護学部	25
合計	46

2) 職位別教員数

		教授	助教授	講師	助手	計	非常勤講師
デザイン学部	男	12	3	2	0	17	9
	女	0	1	1	1	3	10
看護学部	男	0	1	0	0	1	2
	女	6	2	8	9	25	2
合計		18	7	11	10	46	23

3) 職員数

	事務系	司書系	教務系	技術・技能系	医療系	その他	計
男	22	0	0	2	1	0	25
女	10	7	0	0	0	0	17
合計	32	7	0	2	1	0	42

5 管理職一覧表 (平成19年3月31日現在)

役職名	教職員名
学長	原 田 昭
副学長 兼 看護学部長	中 村 恵子
デザイン学部長	吉 田 恵介
附属図書館長	武 邑 光裕
事務局長	池 田 捨成
桑園事務室長	石 川 豊治
総務課長	阿 部 大
学生課長	本 間 のり子
経営企画課長	渡 辺 春志
桑園担当課長	芳 村 直孝

6 教員一覧表 (平成19年3月31日現在)

デザイン学部		看護学部	
職位	教員名	職位	教員名
教 授	原 田 昭	教 授	中 村 恵子
教 授	吉 田 恵介	教 授	河 野 總子
教 授	武 邑 光裕	教 授	坂 倉 恵美子
教 授	石 崎 友紀	教 授	樋之津 淳子
教 授	上 遠 野 敏	教 授	松 浦 和代
教 授	齋 藤 利明	教 授	宮 崎 みち子
教 授	酒 井 正幸	助教授	大 野 夏代
教 授	城 間 祥之	助教授	清 水 光子
教 授	杉 哲 夫	助教授	守 村 洋
教 授	田 中 敏明	講 師	菊 地 ひろみ
教 授	原 俊 彦	講 師	佐 藤 公美子
教 授	吉 田 和夫	講 師	高 室 典子
助教授	張 浦 華	講 師	新 納 美美
助教授	羽 深 久夫	講 師	藤 井 瑞恵
助教授	細 谷 多聞	講 師	星 美和子
助教授	矢 部 和夫	講 師	保 田 玲子
講 師	大 淵 一博	講 師	渡 邊 由加利
講 師	松 井 美穂	助 手	太 田 晴美
講 師	三 谷 篤史	助 手	神 島 滋子
助 手	片 山 めぐみ	助 手	河 村 奈美子
		助 手	進 藤 ゆかり
		助 手	多 賀 昌江
		助 手	塚 辺 繭子
		助 手	照 井 レナ
		助 手	福 島 眞里
		助 手	松 村 寛子

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学者選抜結果

附属図書館

役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

学内委員会活動

資料

7 学生定員及び学生数

1) 学生定員

学部	入学定員	3年次 編入学定員	総定員
デザイン学部	80	20	360
看護学部	80	10	340
合計	160	30	700

2) 学生数

(平成18年5月1日現在)

学部別		男女別		出身地別			計
デザイン学部	看護学部	男	女	道内		道外	
				札幌市内	札幌市外		
81	82	43	120	79	67	17	163

3) 科目等履修生・聴講生

学部	科目等履修生	聴講生	計
デザイン学部	1	0	1
看護学部	0	0	0
合計	1	0	1

8 授業料等

(単位：円)

学部生				科目等履修生・聴講生			
検定料	入学料		授業料	検定料	入学料		授業料
	札幌市内居住者	札幌市外居住者			札幌市内居住者	札幌市外居住者	
17,000	141,000	282,000	535,800	9,800	14,100	28,200	14,800 (1単位につき)

9 奨学金貸与・授業料減免実施状況

奨学金貸与状況

年次	日本学生支援機構		その他	計
	第1種	第2種		
1年生	23	56	0	79

授業料減免実施状況

年次	学期	全額減免者	半額減免者	計
1年生	前期	0	8	8
	後期	2	7	9

10 学生の入選・受賞

氏名	学部	タイトル	主催者	入選・受賞年月
木村 尚史	デザイン学部	クラーク博士の贈りもの 入賞	札幌商工会議所	平成18年6月
近藤 美佳	デザイン学部	北海道発 エコバッグデザイン コンテスト 入選	SAPPOROエコデザイン プロジェクト 実行委員会	平成18年8月
木村 尚史	デザイン学部	北海道発 エコバッグデザイン コンテスト 入選	SAPPOROエコデザイン プロジェクト 実行委員会	平成18年8月
石川 知佳 他9名	デザイン学部	札幌メディア・アート・フェスタ賞 受賞	札幌メディア・アート・フェ スタ 実行委員会	平成18年11月

11 学生の課外活動

	公認団体
1	バスケットボール部
2	吹奏楽部

12 後援会

学生の福利厚生の推進等、学生生活の充実に向けて必要な支援を行い、教育目的の達成に寄与することを目的とした後援会が、保護者4名を発起人とし、平成19年2月に発足した。

後援会費：40,000円（ただし、平成18年度入学者は30,000円）

13 教育・研究刊行物一覧

名称	発行年月
シラバス	平成18年4月
学生生活ハンドブック	平成18年4月
大学案内パンフレット	平成18年9月
平成19年度入学者選抜要項	平成18年6月
平成19年度学生募集要項（特別選抜）	平成18年9月
平成19年度学生募集要項（一般選抜）	平成18年11月
SCU Journal of Design & Nursing －札幌市立大学研究論文集－ 第1巻第1号	平成19年3月

14 平成18年度入学者選抜結果

1) 平成18年度入学者選抜概要

入学定員・募集人員

学部・学科名	入学定員	募集人員				
		一般選抜		特別選抜		
		前期日程	後期日程	推薦入学	社会人	私費外国人留学生
デザイン学部 デザイン学科	80人	54人	14人	12人	若干名	若干名
看護学部 看護学科	80人	48人	—	32人	若干名	—

注) 特別選抜の募集人員「若干名」は、推薦入学の募集人員に含む。

選抜日程

選抜区分		出願期間	試験日	合格発表等
特別選抜	推薦入学 社会人 私費外国人留学生 (※)	平成17年 12月12日 (月) }	(デザイン学部) 平成18年 1月14日 (土) }	平成18年 1月25日 (水) 【入学手続期間】
		12月26日 (月)	(看護学部) 平成18年 1月13日 (金)	平成18年 1月25日 (水) ~ 1月31日 (火)
一般選抜	前期日程	平成18年 1月20日 (金) }	(デザイン学部) 平成18年 2月18日 (土) 2月19日 (日) }	平成18年 3月 3日 (金) 【入学手続期間】
		2月 3日 (金)	(看護学部) 平成18年 2月18日 (土)	平成18年 3月 3日 (金) ~ 3月13日 (月)
	後期日程 (※)	平成18年 2月14日 (火) }	(デザイン学部) 平成18年 3月10日 (金)	平成18年 3月21日 (火) 【入学手続期間】 平成18年 3月22日 (水) ~ 3月24日 (金)

注) (※) は、デザイン学部のみ実施

① 一般選抜募集要項（デザイン学部・看護学部）

試験会場

【前期日程】

札幌会場：札幌コンベンションセンター

東京会場：タイム24ビル（デザイン学部のみ）

【後期日程】（デザイン学部のみ）

札幌会場：札幌市立高等専門学校

選抜方法

入学者の選抜は、個別学力検査等の成績及び調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。

学部・学科名	選抜区分	個別学力検査等	
		教科等	科目名等
デザイン学部 デザイン学科	前期日程	国 語	国語総合、国語表現Ⅰ（古文、漢文を除く。）
		英 語	オーラル・コミュニケーションⅠ、英語Ⅰ、オーラル・コミュニケーションⅡと英語Ⅱに共通する事項
		数 学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B（「統計とコンピュータ」、「数値計算とコンピュータ」を除く。）
		理 科	「物理Ⅰ」、「化学Ⅰ」、「生物Ⅰ」から1科目選択
		地歴・公民	「世界史B」、「日本史B」、「地理B」、「現代社会」から1科目選択
		その他	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」のいずれかを選択
	後期日程	国 語	国語総合、国語表現Ⅰ（古文、漢文を除く。）
		英 語	オーラル・コミュニケーションⅠ、英語Ⅰ、オーラル・コミュニケーションⅡと英語Ⅱに共通する事項
		数 学	数学Ⅰ、数学A
		その他	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」のいずれかを選択
看護学部 看護学科	前期日程	国 語	国語総合、国語表現Ⅰ（古文、漢文を除く。）
		英 語	オーラル・コミュニケーションⅠ、英語Ⅰ、オーラル・コミュニケーションⅡと英語Ⅱに共通する事項
		数 学	数学Ⅰ、数学A
		理 科	「物理Ⅰ」、「化学Ⅰ」、「生物Ⅰ」から2科目選択

② 推薦入学募集要項（デザイン学部・看護学部）

試験会場：札幌市民会館

選抜方法

学部・学科名	選抜方法
デザイン学部 デザイン学科	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」（いずれかを選択）、面接及び調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
看護学部 看護学科	小論文（看護を学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力を見る。）、面接及び調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。

③ 社会人特別選抜募集要項（デザイン学部・看護学部）

試験会場：札幌市民会館

選抜方法

学部・学科名	選抜方法
デザイン学部 デザイン学科	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」（いずれかを選択）、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
看護学部 看護学科	総合問題（国語、英語、自然科学、論述）、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。

④ 私費外国人留学生特別選抜募集要項（デザイン学部）

試験会場：札幌市民会館

選抜方法

学部・学科名	選抜方法
デザイン学部 デザイン学科	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」（いずれかを選択）、面接、日本留学試験及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。

2) 選抜状況

① 選抜・入学状況

デザイン学部

(単位：人)

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数			入学者数
					一次合格者	追加合格者	計	
一般選抜	前期日程	54	414	396	87	0	87	53
	後期日程	14	285	184	19	0	19	17
特別選抜	推薦入学	12	61	61	12	0	12	11
	社会人	若干名	5	5	0	0	0	0
	私費外国人留学生	若干名	2	2	1	0	1	0

看護学部

(単位：人)

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数			入学者数
					一次合格者	追加合格者	計	
一般選抜	前期日程	48	811	773	63	31	94	48
特別選抜	推薦入学	32	96	96	31	0	31	31
	社会人	若干名	18	18	3	0	3	3

② 入学者の内訳

(単位：人)

学部名	入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
		道内		道外	男	女
		札幌市内	札幌市外			
デザイン学部	81	44	26	11	32	49
看護学部	82	37	39	6	11	71
合計	163	81	65	17	43	120

15 施設

1) 校地・校舎、講義室・演習室等の面積

(平成19年3月31日現在)

区分	校地・校舎		講義室・演習室等	
	校地面積 (㎡)	校舎面積 (㎡)	講義室・演習室等総数	講義室・演習室等面積 (㎡)
芸術の森 キャンパス	167,616	19,086	36	5,923
桑 園 キャンパス	18,152	8,464	21	2,123
合計	185,768	27,550	57	8,046

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学
者選抜結果

附属図書館

役員会
及び教育研究
審議会

学内委員会活動

資料

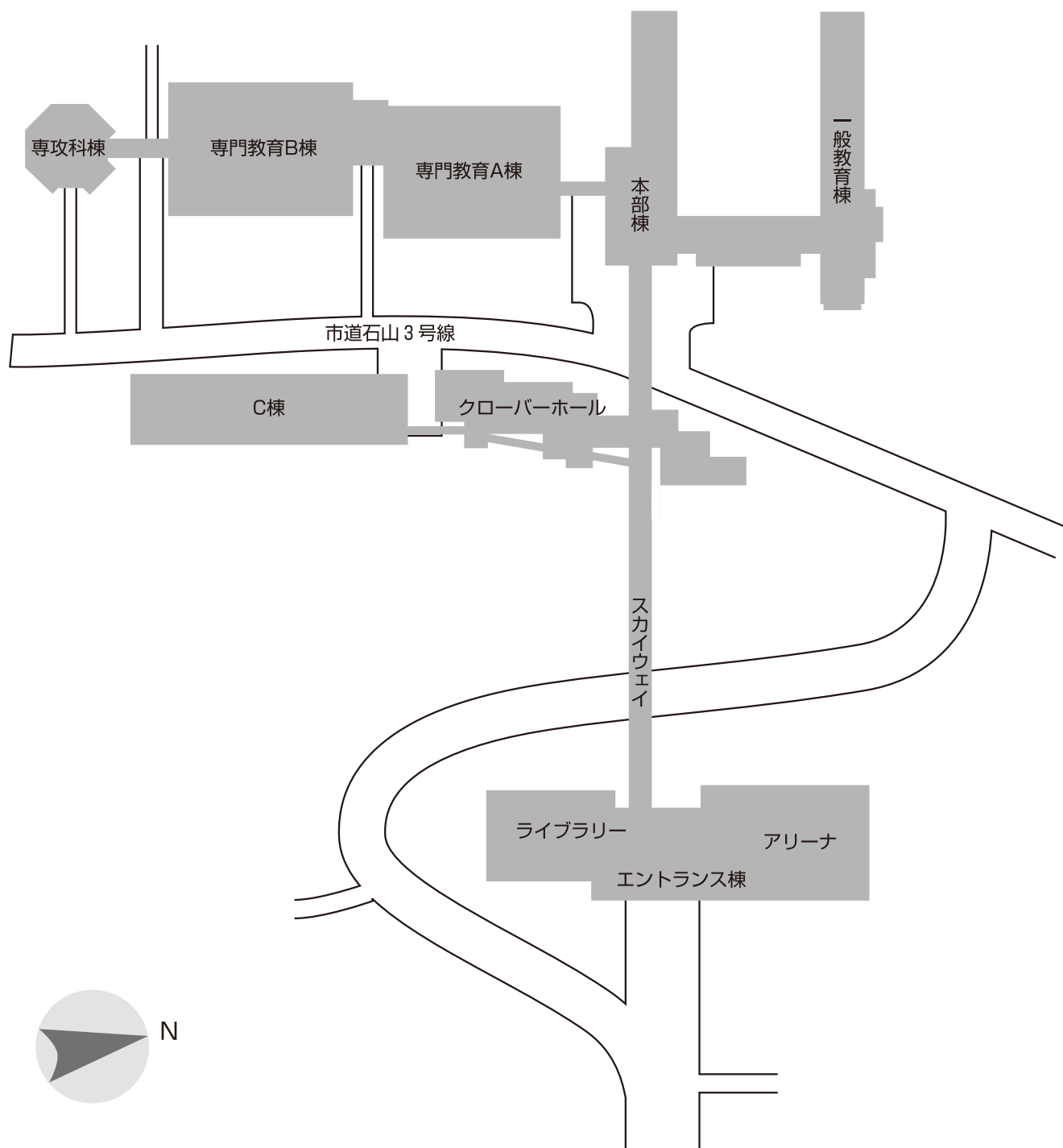
2) 芸術の森キャンパス〔大学本部・デザイン学部〕

<施設配置図>

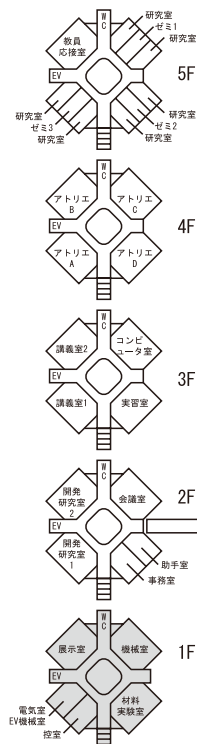
〒005-0864 北海道札幌市南区芸術の森1丁目

TEL：011-592-2300（代）

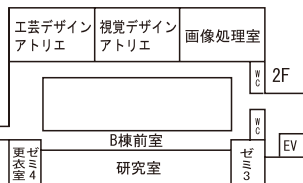
FAX：011-592-2369



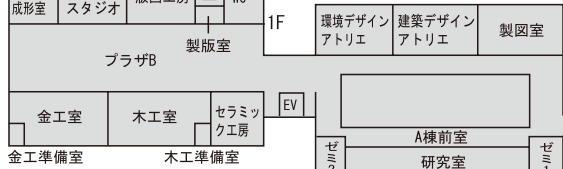
《専攻科棟》



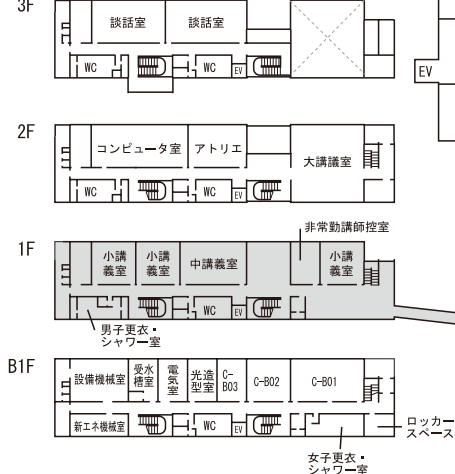
《専門教育B棟》



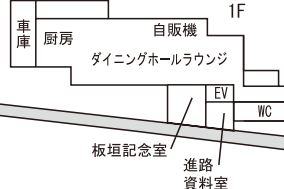
《専門教育A棟》



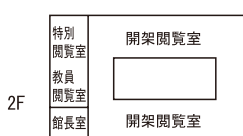
《C棟》



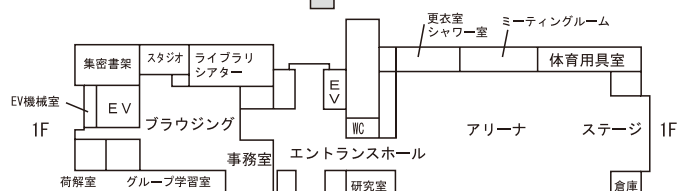
《クローバーホール》



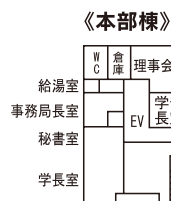
《ライブラリー》



《アリーナ》



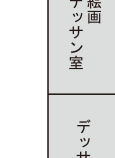
《一般教育棟》



《本部棟》



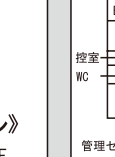
《デッサン室》



《デッサン室》



《デッサン室》



《デッサン室》



＜校舎配置図＞

概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学者選抜結果

附属図書館

役員会
及び教育研究審議会
経営審議会

学内委員会活動

資料

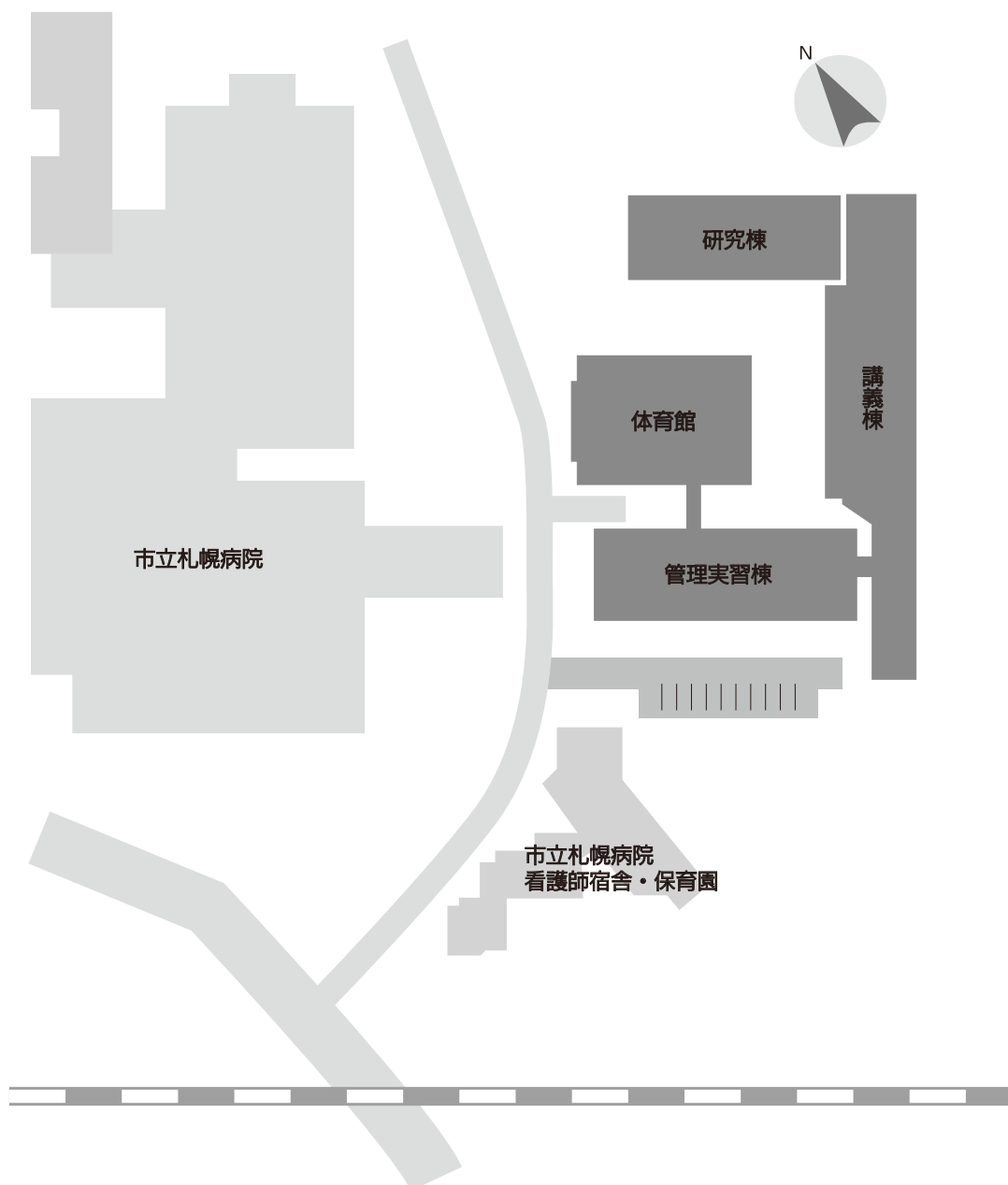
3) 桑園キャンパス〔看護学部〕

＜施設配置図＞

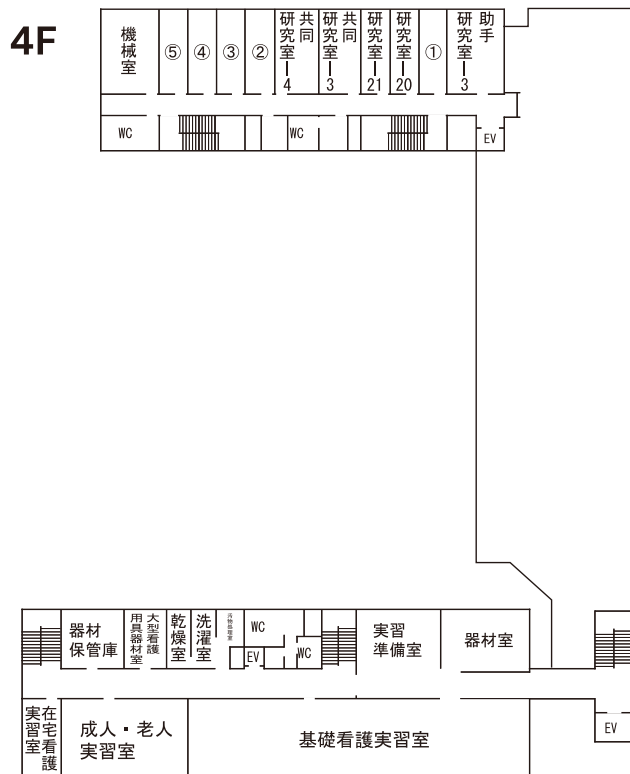
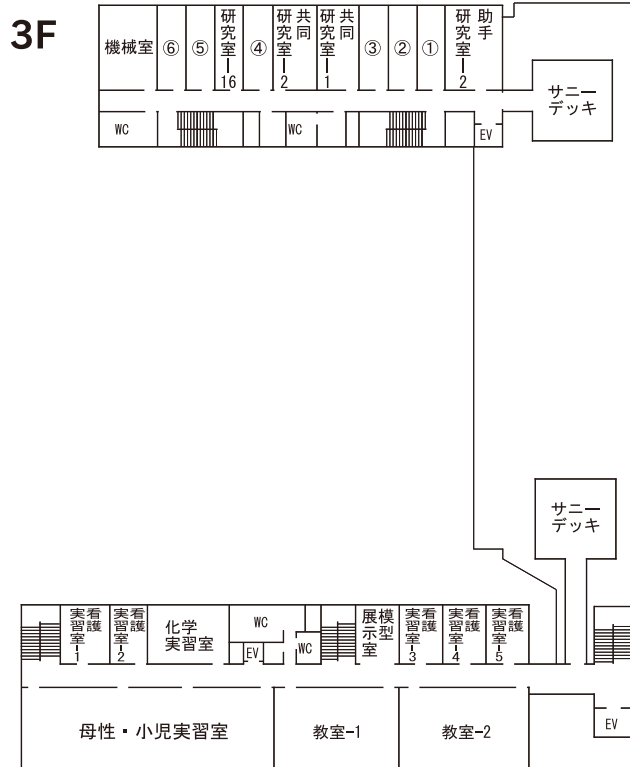
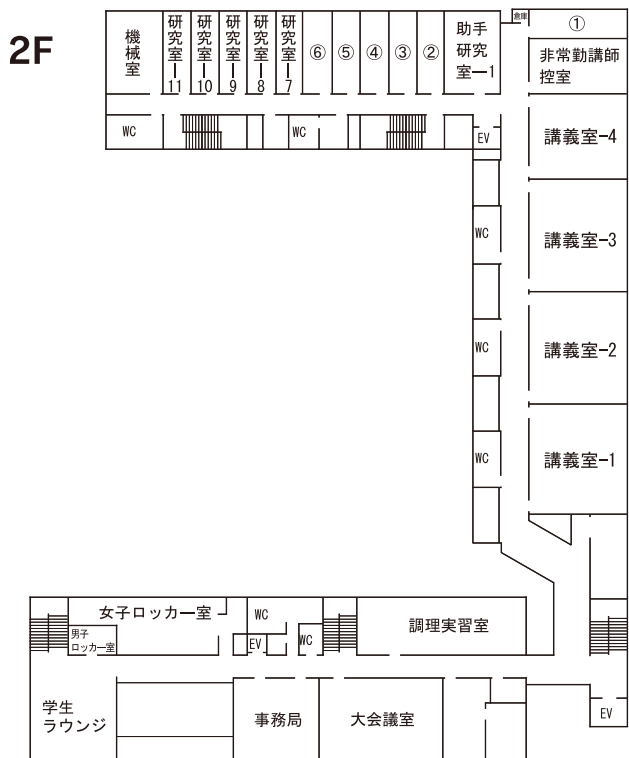
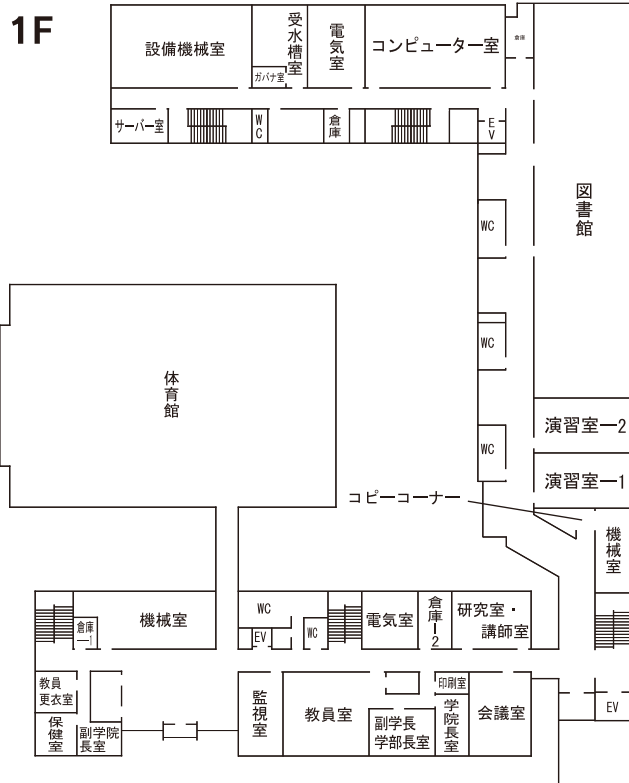
〒060-0011 北海道札幌市中央区北11条西13丁目

TEL：011-726-2500（代）

FAX：011-726-2506



<校舎配置図>



概要

教育活動

研究活動

社会活動

平成19年度入学学生選抜結果

附属図書館

役員会
及び教育研究審議会
経営審議会

学内委員会活動

資料

4) サテライトキャンパス

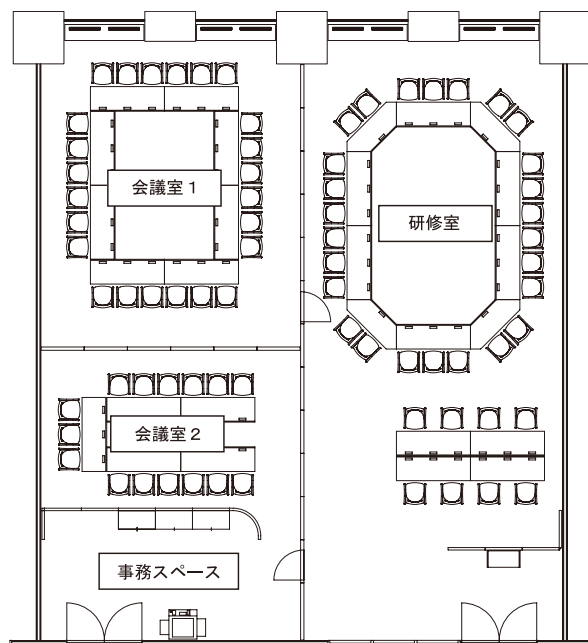
<施設配置図>

〒060-0003 北海道札幌市中央区北3条西4丁目 日本生命札幌ビル5階

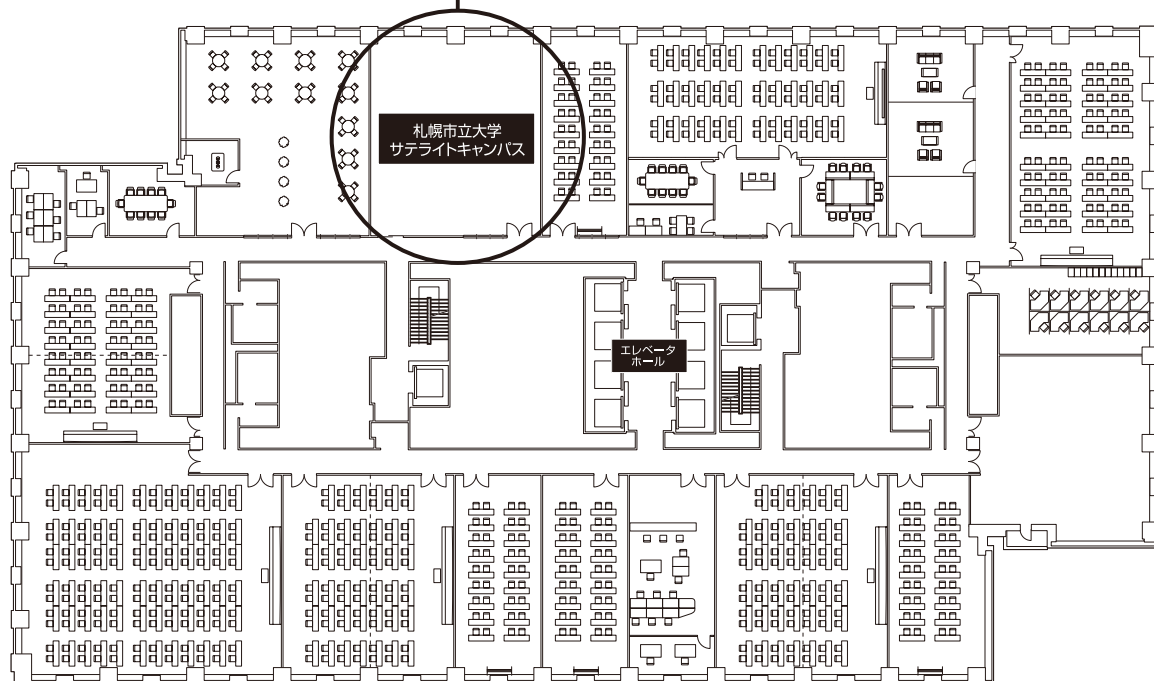
TEL：011-218-7500（代）

FAX：011-218-7507

<室内平面図>

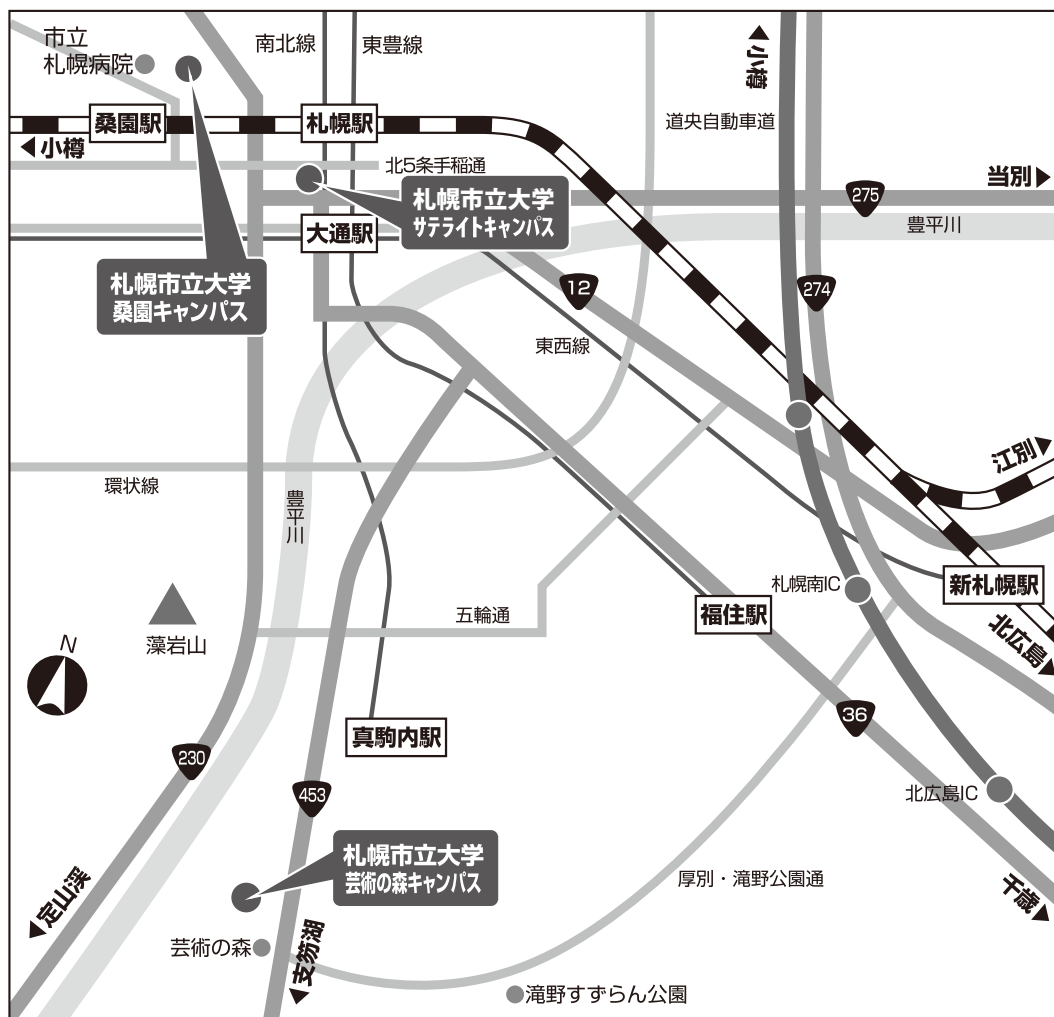


<日本生命札幌ビル5階平面図>

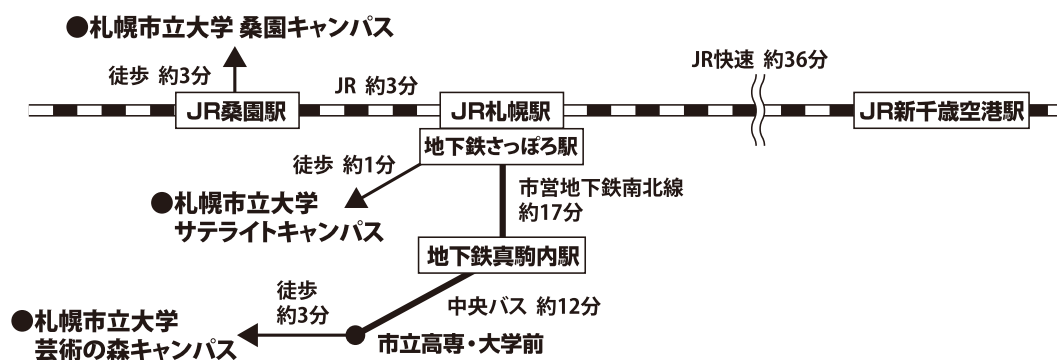


16 大学への交通アクセス

1) アクセスマップ



2) 交通案内



編集後記

ここに札幌市立大学年報第1号を御送りいたします。

本号の作成にあたっては、まず総務委員会の中に「年報ワーキンググループ」が結成され、その中で編集方針等を議論し、総務委員会の検討を経て進めて参りました。まず念頭においたのは、「年報」とは、札幌市立大学がどのような研究教育活動、地域貢献活動を行い、どのような成果を挙げたかを学外に知ってもらうための媒体であるということです。と同時に学内の教職員にとっては、一年の活動を振り返る自己点検の場となるものでしょう。この年報が、札幌市立大学と社会との有益な関係を産み出し、教職員のさらなる研鑽へと有意義に活用され、ひいては、大学自体の更なる飛躍につながることを祈念してやみません。

最後に、年報編纂にあたり、多忙な中、原稿提出等でご協力いただきました全教職員、また編集・校正で多大なご尽力を頂いた事務局の皆様にご心よりお礼申し上げます。創刊号ということもあり、不十分な点もあるかと思いますが、今後の年報のより一層の充実のため、忌憚のないご意見、ご批判を頂ければ幸いです。

平成20年3月

総務委員会 松井 美穂（デザイン学部講師）

「札幌市立大学のシンボルマークについて」

札幌市立大学のシンボルマークは、
英国の著名なクリエイティブグループtomatoの
ジョン・ワーウィッカー氏によってデザインされました。
雪の結晶のイメージは、札幌の自然環境を特徴づけると共に、
大学での学習過程を図像的にあらわしたものです。



札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY

札幌市立大学年報 平成18年度 第1号

編 集 総務委員会

編集責任者 中村 恵子（総務委員会委員長）

発 行 日 2008年3月31日

発 行 札幌市立大学

〒005-0864 北海道札幌市南区芸術の森1丁目

TEL：011-592-2300 FAX：011-592-2369

URL <http://www.scu.ac.jp>

E-mail：nenpo@scu.ac.jp



札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY